

わいふ

誌稿投

読んで書いて、みんなでつくる

279



特集◆あなたの夫は何番目の男？
対談●現代離婚事情 円より子+和田好子
●最後の空中戦

11. 8. -8 歳

ドキュメント●21世紀への伝言

あの水俣病と

たたかった人びと

最新刊
矢吹紀人「著」

本保病被害者の活動を支援する東京の会編集委員会・企画・編集
あの許しがたい事実を過去のこととして葬り去つてはならない！本書は被害者達の命がけの闘いとそれを支えた人びとの感動のドラマである 1680円

推せんします●世界中の人に読んでほしい一冊です

大石武一 木村晋介 寿岳章子 武田鉄矢
立松和平 増田れい子 宮本憲一 湯川れい子

スウェーデンは

なぜ生活大国になれたのか

元ストックホルム大学を編教授
在スウェーデン日本大使館専門員
竹崎孜「著」

話題の最新刊
スウェーデン福祉を紹介した本は数多い。しかし大切なことは「なぜ」どのようにして「福祉大国」生活大国になれたのかを説明することである「スウェーデン」通の筆者の全力傾注の冊！ 2100円

◆国へ、県へ、市町村へ
最新情報満載！ たちまち大増刷！

介護保険をどう改善させるか

中央社会保険推進協議会「著」
安心できる介護保険とするために、実施までにすべきことは何か わかりやすく提起 1050円

東京都千代田区九段北1-9-5-1208

あけび書房

電話03-3234-2571 Fax 03-3234-2609 <税込価格>

●定期購読受付中！

心とからだの主人公に

●B5判 隔月刊 ◆定価1260円(税込)

性と生の教育

Human Sexuality

◆偶数月1日発売

編集◎「人間と性」教育研究協議会

編集長◎山本直英

明日を拓く子どもと時代のニーズに応えて〈性〉と性教育をとおして今日の学校や家庭や社会のあり方、さらに社会・文化を考察します。

No.23〔特集〕障害児・者の《性的自立と共生》

No.24〔特集〕最新・性感染症とエイズの学習

不登校・登校拒否・いじめの情報ネットワーク誌

こみゆんと

●A5判 隔月刊
◆定価800円(税込)
◆奇数月1日発売

子どもたち、親たちの手記を取りあげ、本音で語りあえる雑誌。「情報アフセスコーナー」では各地の団体の催しを紹介。「文通コーナー」も好評。

第47号

〔特集〕子どもが元気になるとき

ぼくの満洲

マンガ「上下」

ボクは少年時代を満洲で過ごした。

当時、あの戦争は聖戦だと教えられたけど、ボクたちが実際に目にしたことはそれは大違いだった。あのような体験はボクたちの世代だけで終わりにしてほしい。

作・画 森田拳次 題字 ちばてつや
映画監督 山田洋次 漫画家 ちばてつや・北見けんいち 赤塚不二夫 漫画評論家 石子順らの数
種体験記も収録。

●A5判／本体価格各1700円



話題の絵本！

おちんちんの話

- やまもとのおひで・文
- ありたのぶや・絵
- A4判／本体価格1400円

「おちんちん」の全情報を親子の会話を中心にやさしくわかりやすく語る絵本。小学校中学年から中学生向き。幼・保・小・中・養護学級教師、親必携。

〒112-0003 東京都文京区春日2-17-3 あゆみ出版 ☎03(3815)5511 FAX03(3815)3777



「わいふ」を読む

「わいふ」に書く

あなたの人生が開ける

わいふ

読んで書いて
みんなでつくる

279号

目次

デザイン／宮塚真由美
題字／石渡希和子
表紙イラスト／貫輪絵衣子

イラスト／荒井知恵 小沢恵子
カステラネンコ 鹿目佳代子
弘法堂建二 小林正子 佐藤瑞江子
Jasmine 田沼千恵 田村幹代
西宮さき 橋本美智子 長谷川てるみ
藤井恵子 ベティ・フジヤマ

4

フランス語とともに ◆中嶋公子さん

写真提供／中嶋公子・文責／田中喜美子

特集 あなたの夫は何番目の男？

夫婦は他人 竹内南美

二番目の女 鈴木紀美枝

リップル 乙女座

娘と囲碁 万波真紀子

ブック情報

82

連載 変わりゆく中国④

法村香音子

91

笑える！
石井しのだ

92

今これに夢中
荒川美幸・高梨陽子

96

出会いと別れ―私の場合④ 田沢未実

100

コミック これが子供の生きる道⑪ 栗田笑

104

対談

現代離婚事情

円より子・和田好子

114

あなたへスマッシュ

島津まさ子・十文字圭子・藤池弘子・後藤 晶

119

子育てフォーラム ●NMSのページ●

神名 舞・宮本康子・鈴木まりも・隅田美幸

藤 広見・杉田みほ

128

私の意見・あなたの意見

根来恵子・高松恭子

29

一筆両断⑪ 西田淑子

30

フリートーク

クワシイトモミ・青木さとこ・田中優子
原 昭宏・三枝きよみ・小澤長太郎
匿名・福島みさを

44

最後の空中戦

山内志保

56

エッセイスト・クニブラ

花岡京子・砂原富美子・伊藤琴子
長谷部治子・太田啓子

65

おすすめの一冊

辻浦知津代

66

再就職―私の場合―

滝沢恵子

71

おすすめの一冊

十河温子

72

家族のスケッチ

三田サキ・山本雅子

75

おすすめの一冊

野本美希子

76

ワーキングライフ

井上麗奈・田村敦美・小栗明子

131

ズバリ一言

米田けいこ・春菜ももこ・家守恭子・飯島まゆみ

137

私もひょうしつ

伊藤琴子・伊藤てる子・筑紫由布子・島 初美
草野ゆき・新井純子・藤野 恵・太田啓子
さいたまゆみ・長谷川知子・古澤真里子
加藤君子・クワシイトモミ・砂原富美子
岩井由利子・小竹利恵

140

コミック 毎日が平日

海砂

142

情報コーナー

144

おすすめの一冊

宮前 和

スタッフから

147

わいふインフォメーション

148

募集します

149

投稿のきまり

150

編集だより

152

文章講座のおすすめ

34

自費出版はわいふへ

39

バックナンバー

91

お友達にわいふを

136

Eメール友達

113

フランス語とともに

写真提供／中嶋公子

日仏女性資料センター事務局代表

中嶋公子さん



日仏女性資料センターのメンバーと活動についての打ち合わせ。左から二人目が中嶋さん。1999年2月



日仏女性資料センターが発行している『女性空間』。日仏の女性問題を、家族・母性・子育て・職業など、さまざまな角度から書いた論文・エッセーが満載。日本の「いま」が見えてくる会報誌。

「どうしてもやりたいことがあるなら、結婚するとき言っておかないとダメよ」

中嶋さんの言葉は重い。

なにがなんでもフランス語をものにする。それが大学を出たときの中嶋さんの決意だった。卒業してからも日仏学院に通いつめ、実力をつけることに専心した。

結婚して、茅ヶ崎の夫の両親と同居する。ときには、決意は変わらなかった。

「これからも勉強中心にやっていきたいと思っています。それでなければ、同居はできません」

義父母は受け入れた。

一人娘を産み育て、実務翻訳の仕事を行いながら勉強をつづける中嶋さんを義母が支えてくれた時期もあった。同じ敷地内に住む義母に「はい、鍵ー」と大慌てで家の鍵を手渡して、駅に駆け出すような日常だった。



日本経済新聞のコラム
「海外ウェーブ」
1998年11月



日仏女性資料センター10周年記念パーティー。右端が中嶋さん。1993年6月

(右) 家族旅行で。ご主人（左の写真）とお嬢さん（右の写真）。このころお嬢さんは精神的自立を宣言。1986年頃



(下) 留学中の友人とともにフランス全土を旅行。南仏で出会ったイタリアの小学校の体育の先生と。長期に家をあけるようになった最初の旅行。このときお嬢さんは11歳。右端が中嶋さん。1981年



フランス語のクラスや研究会は、たいてい東京にある。茅ヶ崎は遠い。テレビで通り魔事件が報じられたとき、終電近く帰ってくる嫁の身を案じて義父が駅まで迎えに来てくれたこともある。

それほどフランス語に執っている中嶋さんが大学に残らなかったのは、大学における「知」のあり方に反発を感じていたからである。

中嶋さんは全共闘世代なのだ。



シモーヌ・ド・ボーヴォワール著『第二の性』出版50周年記念国際シンポジウムに、日仏女性資料センターのメンバーとともに参加。右から三人目が中嶋さん。中嶋さんの左がボーヴォワールの養女、シルヴィ・ル・ボン。ズボンの女性がシンポジウムの企画者で、ボーヴォワールの後継者とされるクリスティーン・デルフィ。



シモーヌ・ド・ボーヴォワール著
『第二の性』第1巻 事実と神話
第2巻 体験（新潮社）



(上) フランスとスウェーデンの女性のリプロダクティブ・ライツについて調査に行ったとき。1996年3月ごろ。スウェーデンの社会庁で。部屋ごとにインテリアが違って、アット・ホームな感じ。日本のお役所とは大違い。



(左) 同じく調査で訪れたフランス・パリの子どもと家族研究所で、友人と。フランスにはフランスの、子ども問題が山積している。

夫は大学時代の友人である。

中嶋さんが日仏女性資料センターの事務局代表を引き受けた背後にも、その思いが働いていたかもしれない。

もともと中嶋さんは、「センター引き受けて、人生狂っちゃった」と苦笑する。

中嶋さんたちが発行している「女性情報フアイル」は、仏文学者の海老坂武氏も「この手の機関紙としては、唯一読むに値する」と言われるほど、フランスとヨーロッパの最新

の情報が詰まっているすごいものなのに。

日仏の女性問題について、ライブ感覚を失わないよう、中嶋さんは絶えずフランスと日本を往き来している。

ボーヴォワールの『第二の性』の新訳が、こうして中嶋さんらを中心として生まれ、日本経済新聞のコラム「海外ウェーブ」をつうじて、フランスの最新の情報が日仏女性資料センターのメンバーによって私たちに届けられた。

中嶋さんも属する地域のグループから、二名の女性市議会議員が誕生。当選して大喜びの候補者と中嶋さん(中央)。1995年

(左) 茅ヶ崎市の『ちがさき女性プラン』

(下) 茅ヶ崎市の女性プランの策定委員会のメンバー、茅ヶ崎市長、助役と。中嶋さん(右端)は策定委員会の会長を務めた。1993年3月

茅ヶ崎市の女性プランの策定委員を引き受けたときにも、中嶋さんの全共闘精神？は働いた。

生きた人間に関係のないところで「知」をいじくりまわすシステムに、組み込まれたくない。現場から発信する声を大切にしたい。

子育て、そして老人介護と世間並みの「主婦」の重荷を背負いながらも、かつての全共闘精神は、中嶋さんのなかにいまでも生き続けている。

(文責・田中喜美子)



投稿誌 **わいふ** から
生まれた

ニュー・マザリングシステム (NMS)

ゼロ歳から満3歳までの子どもを持つお母さんを対象とする通信教育です

「生きる力」のある子を育てましょう!!



- ・実践と理論の両方を学べます
- ・子育ての悩みから解放されます
- ・徹底した個人指導で安心できます

お問い合わせ先 **NMS研究会** 〒162 東京都新宿区市谷加賀町2-5-26
(株)グループわいふ分室内 ☎03-3260-2509 FAX03-3260-9398

教育史料出版会

〒101 千代田区西神田2-4-6
☎03(5211)7175

ハイスクールレポート

自分にあつた学校をえらぶ私立高校ガイド

入学してからでは遅すぎる!
服装・頭髮規定は? 生活指導の身中は?
どんな行事があるのか? 力を入れてい
る教育内容は? 進学への取り組みは?
学校生活がこの一冊で見えてくる!

関東版 わいふ編集部編 4月末刊 ★1900円+税
関西版 公立校も収録 / 5月末刊 ★1800円+税

子どもはなぜ
★1500円+税

渡辺 位
学校に行くのか

自分にあつた
★1602円+税

早川 裕子
高校のえらび方

●生徒・父母・教師が綴る 私の北星余市物語

やりなおさないか
君らしさのままで

北星学園余市高校編
中退生を受け入れる北の学園 / ★1500円+税

特集

あなたの夫は
何番目の男？



夫婦は他人

竹内南美

うちのダンナは「第三の男」である。
(なうんて若い人にはわからないよ
ね) いつか酔ったはずみでポロッと
言ったことがあるので、向こうも知っ
てます。ふうんって。

初体験は、確か十八のときだったと
思う。バイト先の同僚。二歳年上。

二人目は、やはりバイト先の人。歳
は……忘れた。二人とも大学生。

友達は外タレの追っかけをしてて、
十四、五歳でブルーピーまがい「デ
ビュー」する子もいれば、三十五歳の

今でも「こいつ、もしかしたら処女
じゃないの?」と思うような子もい
る。それぞれだ。

やっぱ覚え始めの十代は「やりたい
盛り」だし、相手に対しても燃えてい
るので励む。しばらくすると、落ちて
いく。で、相手が変わるとまた同
じパターン。

死ぬほど体の相性がいい男とは巡り
会ってないためか、この繰り返しであ
る。繰り返ししているって、三人目はダ
ンナなんだから、打ち止めだよ、もち
ろん。

ほんと言うと、一時他の人に心を移
したときがありました。結婚して半年
くらいとき、職場の上司に。寝はし
なかつたけど、今思うと、かなり危な
かつたね。

ダンナはなんか感じていたと思う
けど、一切何も言わなかった。うちら
の場合、それが大正解。恋ってさあ病
気だよなーと、今では思う。なうんて
あんなに夢中になったのか、さっぱ
りわからないもん。なんか、術でもか
けられてたのか(その人オウム真理教
だったし) 自然に冷めちゃって、もう
全然会いたいとも思いません。不思議
ねえ。

あのときダンナに何か言われてたら
火に油で、かえって相手の方に行っ
ちゃって、取り返しのつかないこと
になってたかもしれないね。まあ嫉妬し
てほしいって人も、世の中にはいるみ
たいけど、そういうエネルギーの使



い方には興味ありません、私は。
結婚生活が、経験した相手の数に
よって左右されるってことは、私の場
合特になと思う。一応複数経験して
いるので「一生一人しか知らないでい
いのか」みたいな焦りもないし。比べ
てもしょうがないしね。

それよりも結婚は雑多な日々の生活
でしょう。子供が加われれば尚更。

もうあんまり興味ないし、しなくて
すむんなら一生しなくてもいいわ……
……って思いかけたときもあつたけど、
そうするとどこかおかしくなつてく
る、夫婦の間がね。

やっぱり夫婦にとって、セックスは
重要なコミュニケーションですよ。だ
けど結婚十年にもなると、だんだんワ
ンパターンになつてつて。そうすると
だんだんつまんなくなつて、めんどく
さくなる。だけどほんとはやりたくな
いわけじゃないのね。やるからには、
自分ももつと気持ちよくなりたい、で
も女の方からは言いづらいつて思つて
る。

初めは「乳飲み子を抱えた雌ザルは
発情しない」とかいつて逃げてたんだ
けど、だんだん子供を介してのコミュ
ニケーションがメインで、あとはお互
い自分の世界にこもるようになって。

「このままじゃこの先長い夫婦生活つ
らいだろうな」と思つて、ある日ダン

ナに言いました。

「私ももつと気持ちよくなりたいの」つ
て。「わかった、でも言わなきゃわか
んないよ」つて言われて。それから？
ふふふ、仲いいですよ。私も楽しく
なつてきたし、ダンナもいつも機嫌い
いし、家族円満。単純だけど。

まあでも心の浮気はするだろうな、
この先も。でもそれは、お気に入りの
アイドルを持つといった類のもので。
それは今でもたくさんいるし。私に
とつて、生活の一部ですよ。

体の浮気は……しなと思うけど、
もしもしたら、そのことダンナには絶
対隠し通すと思う。どんなに見え透い
た状況だとしても、シラを切り通す。
全部ホントのこと言うだけが、優しさ
じゃないでしょう。ホントのこと言つ
て、私は楽になるけど、それから苦し
むのはダンナじゃない。だったらお墓
の中まで持つていった方がいい嘘もあ
るよ。

そんなこんなで、七月に結婚十周年
になります。

二番目の女 ひと

鈴木紀美枝（38歳）

「高校の時、ヤレばよかったな」

しばらくしてから彼が言った。そして今日までの四年の間にも、「若い時のあなたとしたかった」と二、三回言うのと、私の肉体の老化現象を表現しているようだが……。

私たち二人は同じ高校の同期生だった。当時抱いていた彼への片思いは実らぬまま、ずっと音信不通だったところ、三十四歳の時再会し、二カ月半後にはひとつ屋根の下で暮らすようになっていた。私には夫と子どもがいて、世間という不倫の関係だったの

で、片道切符の恋といえた。また私にとっては、初めての「本当の恋」だと思っていた。私が最初に肉体関係を持ったのは十九歳のときで、相手は同じ大学の年上の人だった。幸福な瞬間だったが、すぐにフラれてしまい短い恋に終わった。私はすぐにフツ切った。二人目は、ゆきずりの二十九歳のサラリーマンで、ずいぶん年上な感じがした。愛のないセックスで、私も楽しくなかったから、向うもツマンなかったであろう。三人目は、「いい人」だとは思っていたが、他に憧れている人がいたので不本意になりゆきで肉体関係に突入した相手、それが最初の夫である。私は物心ついた頃から父には親密感がなく生理的拒否感が強かった。また

母に対しては、精神的阻害感を感じて見下していた。そんな私にとって、やさしくユーモアのある最初の夫はオアシスのような存在だったのである。だが「父が嫌い」イコール「男嫌い」の気がある私は、次第に彼の男尊女卑の体質、私を否定的に見る態度に心も体も離れていった。それまでセックスで快感を味わったことがなく、誰に対しても恋愛感情を持たなくなっただけから性欲もなく、恋愛願望も持っていなかったと思うのだが、愛情には飢えていた。

現在の夫と再会したのは、親子関係、友人関係は、ひと山越えて安定している時期だった。そうでなければ自信を持って会えなかったであろう。高校時代の彼の人物像は「なんて優しい人、優しい雰囲気の人」だけだったので、彼を知るにつれて、それまでのイメージが崩れ意外に思うとともに、強くひきつけられていった。また、人間関係は常に受身で、「来る者は拒まず」の彼と、誰も寄りつかないので自分から能動的に接する他ない私たちの出会



いは、例えればアリ地獄とアリのよう
なものだと思っている。

さて、冒頭のセリフの後に私は「で
も無理だったでしょ」と言った。彼に
よれば、その頃は肉体的にオクテで、

二人が両想いになっていたとしても、
セックスには到らなかっただろうとの
こと。私の方も十代の頃は恋愛感情は
あっても、肉体的に接触したいという
欲求はなかったので、どの道お互いが

初めての人になる可能性もなかったの
である。彼の両親との初対面の席で、私
のことを「現時点で人妻で……」と紹
介した。彼らは当然動揺していたが、
「文学的な」人たちだったので、すぐ
に好意的に語らってくれ、彼の父は
「高校の時の二人はどうだったの？」
と聞いた。すると彼が「性的に未熟で
しまったのだが、十代の男女のすれち
がいは、そういう要素もあるのかも
しれない。

三十代で二人が愛し合うようになって
た初期の頃は、遠距離恋愛でプラト
ニックなものだった。彼は性について
オープンに話せる人だが、私は恥ずか
しさが先に立っているし、正直なところ、
彼には高校時代の少年のようなイ
メージがあり、三十代でも爽やかで学
生っぽい風貌の持ち主（大分薄汚れて
きてはいるが）、男臭さとか色気のな
い人であり、私は私で性的に開発
（？）不足だったし、彼とは言葉のや
りとりだけで充足していて、二人が肉

体関係を持つなどとは、カマトトではなく思いもよらなかった。

ところがある日、電話口で前後の脈絡なく「あなたに入りたい」と言われた（私は仰天した）ことにより現実のものとして私の前に現れてきた。

ある時、私は「言にくいことだが、子どもを二人産んでいるから、自信がない」と伝えた。他の男の子どもを産んだ「新しくない体」を未婚の彼がどう思うだろうと不安だったのである。「そんなこと関係ないよ」と彼は言った。その後も「私たち、うまくいくかしら」と聞くと「うまくいくに決まってるじゃない」と言われ、私はほとんど安心していったのである。愛さえあれば大丈夫、という感じだった。

十七年ぶりに再会した日から二週間後に、私は彼のアパートに行き、その時を迎えた。やつとめぐり逢えたね、とお互いの体が言っているようだった。その日を境に、私は性欲の塊になったようだ。そして月日を追うごとに感覚が高まっていき、絶頂感を味わうよう



にもなり、彼の虜になっていった。

遠距離恋愛の期間中、二人は様々に話し合った。日常のこと、趣味のこと、読んだ本のこと。再会した日に彼の口から、学生時代の恋人のことがチラッと出たが、私はあまり興味がなかった。

ある時、彼の手紙の中に唐突にその恋人のフルネームが登場し、ことあるごとに、自分を表現する際、彼女が昔言った言葉を使うようになった。私も好奇心が強いので、彼女自身のことや、二人の間にあったことを聞いたりした。そして彼女に対する嫉妬心も徐々に高まっていったのである。一緒に暮らすようになって、月日が流れても彼女のことを思い浮かべると、私は胸が苦しくなる。数年前に彼女は本を出版しており、図書館に行くと夫がその本を手にとって見ていた、という話を聞き、私も何度も見に行っている。

紀行文プラス、ガイドブックで、学生時代の彼女の写真が全篇にちりばめられていて、私はその向うに若い頃の彼の姿を見ていた。当時の二人は、尊

敬し合い、夢中になり、彼女にフラれていかに辛い日々を送ったかを聞かされた私は苦しかった。彼女の写真と手紙を捨てるように頼んだときは無下に断られた。動物や子どもが好きで愛情深い彼のことだから、ファーストキスの相手で、最初の人である彼女が、おそらく生涯で最も愛した人なのだろうと思う。彼に聞いても、私だとは決して言ってくれない。写真と手紙も、たまたに取り出して眺める。何のために？……不毛だが密かな愉しみ……。

二年間つき合った彼女と別れた後は、「恋人イナイ歴十年」となり、恋愛相手としかセックスしない主義なので、風俗に行った経験もなく、私とのことで、「十年ぶり」ということになった。私には「一穴主義だったのに！」と嘆いてみせるので、「失礼な！」と、その発言を撤回させた。

思い起こせば、私が彼のもとに出奔するキッカケになったのは、私の二人の子どもを引き取ってもよいという彼の意思表示だった。もちろん、私から

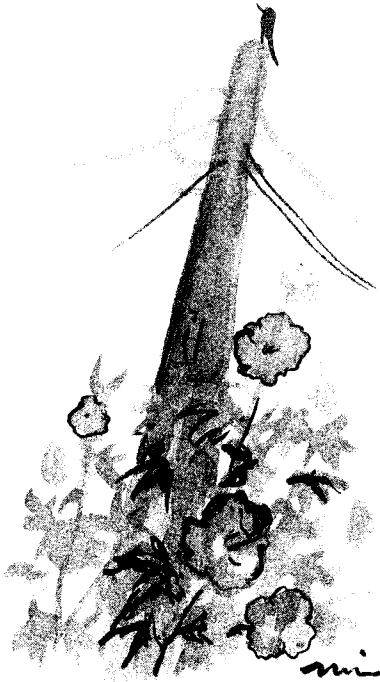
持ちかけた訳ではない。子どもたち二人と暮らすという計画は果たせなかったが、私の夢だった。彼の気持ちに甘えて、子どもたちのことをよく話した。必要だと思い話題にしたのである。彼は、中学生と小学生の男の子の父親になるつもりでいた。

今でも、彼の最初の人だったらなあ、と思わないでもないが、あの頃の二人が恋愛したとしても破綻していたにちがいない。実際に、お互いにとって、いい時に出会ったと思っている。

三十代半ばだったから、それなりに深い恋愛ができ、それまでの経験や人との出会いが今の私たちを支えているのは紛れもない事実なのだ。

彼は私に対してこだわっていない。あるいは、そういう態度をとらない。

だが私は今在る彼の気持ちに、身に余る幸せを感じたかと思うと、不公平で悔やしさに歯ざりする。でも、四年の間に二人とも人間的に進歩したと思う。二人はうまくいっているとお互いに思っている。



リップル

乙女座（31歳）

三年前の今ごろ、私は結婚指環を捨てた。空缶のリップルを捨てるかのように、燃えないゴミの箱へポイ。何の罪悪感もなかった。離婚は考えなかった。ただあの指環は、もうつける気になれなくて、捨てた。

古い手帳をひっぱり出して、以前つき合った男に電話をした。留守電だった。何も言わずに切った。

むなしただけの日々だった。二人の子供をつれて、家を出て、職を探そうかとも思ったが、病後の体ではその勇氣が出なかった。だけど、これは自分に対する言い訳。ズルイ私は、このいきどおりだって、いつか消えていくことを予想していた。きちんとした会社

につとめて、真面目に働く夫に何の非もない。悪いのは私だ。そう思っても、誰かに話を聞いてほしかった。

あいつなら、どんな答えが返ってくるか、話をしてみたくなった。

中二の秋から二十歳まで、六年間つき合った男がいる。本気でミュージシャンになろうと夢を追いかけていた。インディーズバンド・ブームにのって、けっこういい線までいったこともある。

あちこちのライブハウスで演奏し、その度に、私はチケットを二十枚ぐらいいさばいた。よく友達に頼んで買ってもらった。時には自腹でチケットを買い、タダでくばって「行って聞いてあ

げて」と、頭を下げたこともあった。メッセージのある歌詞が好きだった。自分の中のモヤモヤやイライラを、激しいビートにのせて、真剣に、何かにつきあげられるように、ただ勢いにまかせて歌う、そんなやつと一緒にいた。

いつも、ヒザに穴のあいたジーンズと、首ののびたTシャツを着ていた。二人いつも同じようなカッコだった。私はプロデュースのようなこともした。手づくりのチラシをつくり、もう少し、聞きとりやすい歌が良いと言ってみたり、バンドのメンバーにもさし入れをつくったり、弁当屋のバイトで残ったものを持っていったり、仲間五人、マジで、いつかビッグになるかもとはねまわっていた。

十九をすぎて、ガキの遊びじゃすまなくなってきたから、バンドもギクシャクしだし、二十のころ、やつに他にも女がいることを知って私から別れた。

つかれた足で家に帰り、服のまま

シャワーをあびた。穴のあいたジーンズもTシャツも捨てた。

私は就職し、スーツで歩くように



なった。ハイヒールもはいた。背がひくいので、なるべく背が高くみえるように。

車の免許と、バイクの免許を同時に

とった。そしてバイク屋で一人の男と出会った。給料のすべてをバイクにつぎこんでしまふ、三十歳の男。自分が男だったら、同じように生きているだろうと、一目で確信した。大人になりきれない人。一応社会人ではあっても、そういう一般論からは逃げていたい。つまらない生活にひたつて、仕事だけというエリート意識ももてず、フラフラさまよっている男。そして、私もそんな女だった。

何の目標ももてない。でも、似たもの同士自然と会う回数が増え、二人でツーリングに行ったこともあった。

このまま、この人につき合って、結婚するのかなと思ったこともあった。性格が似すぎていて、度々ケンカした。たわいのないことが理由で、会うのをさけるようにした。

今思えば二人とも、結婚という言葉を意識しだし、そのことがかえって恐ろしい緊迫感を二人にもたらしたのだと思う。

息苦しいほど、愛していたのか。磁

石の同極が反発しあうように、ある日から、私はバイク屋へ行かなくなり、電話もしなくなった。彼からの電話もなかった。

それから十年、結婚し、子供がいる今でも、クラブマンというバイクを見るたびに、なつかしい想いを抱く。

「——人がね、原因もわからない、確立した治療方法もないっていう病気にかって、治療されて、身も心もボロボロになって帰って来たっていうのに、なぐさめの一言もないのよ」

結局、電話したのは、十五年来の女友達だった。

「だって、今のあんたに何言っても、気にくわないって怒りまくるでしょ。ダンナはそれだけ大人なのよ。そういうところが良くて結婚したんじゃないのかつたの」

「そりゃ、そうだけど。あの人が何考えているのか、さっぱりわからない」「じゃ、一緒になって、人権侵害だ！とか言って、病院にたよらず民間療法



だ、宗教だと、話を合わせてくれる人がいいの」

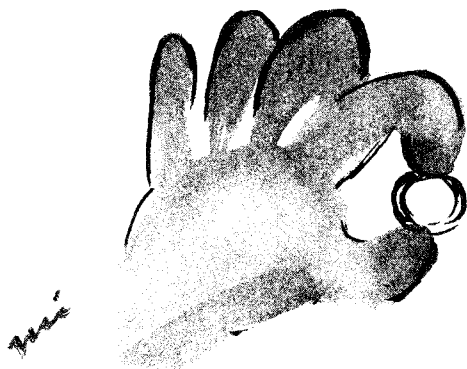
「そうじゃないのよ、腫れものにさわるような態度が許せないの。昔の男に会いたくなっちゃったよ」

「あんたね、子供二人いて、そういうのが相手するわけじゃないでしょ。現実から逃げているだけじゃないの、違う？」

「……」

わかっていた。このしがらみから、一時だけでも逃げだしたい。その気持ち、こういう行動をおこさせたことは。

「ねえ、ものすごく、平凡な暮らしに、あきあきして、それでこんな病気になるんだとしたら、どうすりゃい



いと思う?」

「知るか、自分で考えろ。自分の体でしよ。大事にしないと、子供も、家族もだよ」

「そうよね。今さら、どうなるものでもないのよね。死ぬわけにはいかないもんね」

夫はいつも一直線な人だ。私のようにフラフラ迷ったり、悩んだりしない。たとえそうであっても、態度にはあまり出さない。なんとなく、今まで会ったことがないタイプの男だなと思って、まわりにノセられるかのようにトントン拍子で結婚にいったつた。

世の中にどうすることもできない流れというのがあったら、彼はそれに素直にしたがって、(これもしょうがないね)とやりすごすのだろうか。私がそうだったら、命がけで手向かい、傷だらけで立ち上がるとする。けつしてタダでは起き上がらない。

でも、これって女だから、できることなのだ。仕事に追われていたり、社

会的な体面を考えていたら、きっと、しょうがないねで、自分をなぐさめ生きるしか道はない。

昔の男に聞いたって、今はすっかり良いパパや、サラリーマンになっていて、同じ答えしか返ってこないのかもしれない。

聞かぬが花、会わぬが花だったのだろう。でも、いつか街でバッタリ会って、お互い気づくことがあったら、そうしたら……。それまで頑張って生きよう。恋心というのは、一番、自己免疫力をたかめるといふから。

「指環どうしたの」と夫に聞かれた。

「えっ、無くなった。命とひきかえに、神様が持っていったみたいたい」

「そうか、じゃこんど、新しいの買おうな、こんどは金のにしようか、金は体に良いというし」

(あー、やつぱり、こいつと結婚して、いてよかった。なんだかんだ言って、やさしいのよね)

(え・佐藤瑞江子)

娘と囲碁

万波真紀子

「安くすむ！」の一念で

「ねえ、こんな本があるんだけど面白いから読んでみない？」

こう言って友人が貸してくれた習い事の本が、我が家の娘たちと囲碁との出会いでした。当時娘たちは上が幼稚園の年中組の五歳、下が三歳でした。

この頃は娘たちに、水泳と絵を習わせていました。しかし正直なところ、この二つの習い事をずっと続けていくつもりはありませんでした。私も主人も運動神経、美的感覚がお世辞にもいいとは言えず、娘たちの様子を見ていると、「楽しめましたで卒業かな」、

という感じでした。でも私は自分自身に興味がほとんど無く、のめりこめる趣味があったらもつと人生に幅ができて楽しいだろうなと思っていましたので、娘たちには何か将来の趣味のヒントになるものをやらせてあげたいと考えていました。

そんなときでした。友人が習い事の本を貸してくれたのは。

記憶は定かではありませんが、確か『幼稚園からできる習い事100』という本だったと思います。初めからページをめくっていくと、本当にいろいろな習い事があるのが分かりました。ピアノ、絵、水泳に始まってフェンシング、釣りもあったと記憶しています。

そんな中で私の目にとまったのは囲碁でした。本に

は五歳からできるとありました。

「囲碁」かあ、そう言えば主人と義父がやっていたなあ。うん、あれなら年取ってもできるし、発表会なんかもないだろうからきつと安くすむ。それに年寄りになってもできるんだったらかけたお金も無駄にならないし。それにうちの旦那って国家公務員じゃない、だから引越しも多いし、ピアノなんか習ったらそのピアノ運ぶだけで十万円近くかかっちゃうじゃない。その点囲碁だったら碁石と碁盤だけ運べばいいんだから、タダよタダ！ うん、これよこれ！ という具合に、私の頭の中では「無駄な投資はしたくない」という観念を中心に、芋蔓式に考えがまとまっていきました。

そして「囲碁」というのを目にしたその日のうちに、本に書いてあった「お問い合わせ先は日本棋院に」という言葉そのままに、囲碁の総本山である日本棋院に問い合わせていました。

「あのう、東京女子医大の近くに住んでいる者ですが、五歳の子供に囲碁を習わせたいと思いますので、家の近くで小さい子供に囲碁を教えてくれるところはありますか」

こうして我が家の上の娘は荻窪にあった子供教室に通い始めました。初めのころ小さい子供はそんなに多くはなかったのですが、だんだん増えてきて、娘が小学校一年生のころには二十人近くになっていたと記憶

しています。

碁というのは陣地取りゲームです。将棋盤の枡目をもっと多くしたような碁盤の上に白石と黒石を置いて戦います。多く陣地を取った方が勝ちです。

陣地の取り方は自分の陣地の周りに碁石（兵隊のようなもの）を張り巡らして自分のものにしてしまいか、相手の石（兵隊）を囲むとその石が死んでしまうのでそこが自分の陣地になります。

相手の石を気づかれずにどう囲むかに、ゲーム者は権謀術数を駆使します。

この作戦の立て方が大人の場合、こう打ったら相手はここにこう打つからと、一手ずついちいち頭で考えてしまうので上達が遅いらしいのですが、子供の場合、見ただけで全体の石の置き方（兵隊の配置の仕方）が頭の中でぱっとひらめくらしく、上達が早いということでした。

「自信」につながった「碁」

我が家の娘たち（下の娘も五歳のときから碁を習い始めていました）も多くの囲碁仲間に関われて、碁を「習い事」というより、ゲーム、そう、まるでトランプをするような感覚できゃっきや言いながら楽しんでいるうちに強くなっていきました。

そして運が良かったことが大いにあると思うのです
が、上の娘は小学校三年生のときに、九州の小倉で
あった全国女流アマチュア選手権に最年少で出場でき
ました。そして三回戦まで進んだのです。

大会が終わったあと娘は言いました。

「おかあさん、私、今まで自分に自信がなかったんだ
けど、碁が強くなったからこの大会に出られたんで
しょう。『私は碁が強いんだ』と思うと、いろんな事
に自信が出てきた気がする」

碁を始めたときまわりの友人は言いました。「へ
え、碁をやるなんてきつと頭が良くなるね」

当時碁を始めるにあたって私のケチな観念が働いて
いたことは前述したとおりですが、私には娘に碁を習
わせたい理由がもう一つありました。そしてこれが最
大の理由でした。私は娘たちに、何か自信のつくもの
を習わせてあげたかったのです。

今の世の中は、子供たちにとって本当に生きにくい
世の中だと思います。

ほんのちよつとしたことでいじめられたり、勉強を
はじめとして多くのことで他の人と比べられたりと、
ほつとする暇ありません。

人間はみんな、何かしら最低一つは優れたものを
持っていると思っています。人に引けを取らない
ものを持っていると思っています。ただ、今は勉強の

方にみんなの目が向いているため、勉強で秀でている
人が賞賛され自信を持ち、そうでない人は自信を失う
ばかりです。

私は荒れているという子供たちの話を耳にするたび
に、「勉強苦手だったら苦手でもいいよ、人にはそれぞ
れ得意な分野がある。それが勉強の場合もあるし、他
の場合だってある。君たちはたまたま勉強が苦手だっ
ただけじゃない。世の中で何が優れた分野で、何が優
れてない分野かなんて考えるのは、そういうのを考え
るのが好きな人間に任せておいて、早く自分の好きな
得意なものを探してごらんよ」と言いたくなります。

話が横道にそれてしまいましたが、このように子供
にとつて生きにくい世の中だと思つたので、娘たち
には自信が持てるものを身に付けさせてあげたかったの
です。

頭が良くなる——そんなものはどうでもいいと思
いました。ただ、どんな些細なものでもいいから、辛
い時苦しい時に私にはこれがある、これだけは誰にも負
けないと思えるもの、自信となり支えとなってくれる
もの、辛くてどうしようもなくなった時逃げ込めるも
のを、持たせてあげたいと思っていました。

ですから大会が終わったあとに娘が、「いろいろな
ことに自信が出てきた気がする」と言ってくれたこと
は、親として本当にうれしい限りでした。

その後上の娘は小学校六年生のときに小学校の全国大会で優勝し、下の娘も同じ学年のときに同じ大会で準優勝しました。囲碁は世界五十カ国以上で親しまれている国際競技のこともあり、その間に上の娘は韓国、アメリカ、中国に、下の娘も韓国、オランダに日本の代表選手として試合に行かせていただきました。

しかし我が家の娘たちがこのように活躍できたのは、囲碁をやる子供たちがまだまだそう多くないことも大いに関係していると思います。もっと多くの子供たちが囲碁をやっていたとしたら、才能ある子供たちがどんどん出てきて、娘たちはこまでいろいろな経験をするのができなかったと思います。

私はこの経験から、子供たちが自信を持ち、自分本来の力を使う存分発揮できるものが、世の中にはたくさんあるような気がしてなりません。見かけの価値判断じゃなく、みんなが習っているからというのじゃなく、大人がいろいろなものを公平に見てくれたら、子供たちはいろいろな分野でもっと活躍するのではないかと私は思います。

人との出会いが楽しい

次に、自信をつけさせるということのほかに、囲碁をやらせて思いがけず得られたメリット、喜びについ

て述べたいと思います。それは年齢を超えて、国籍を超えて多くの人たちと娘が親しくなれたことです。

「年齢を超えて」の方ですが、碁を打つには普通、碁会所というところで打ちます。

碁会所には、下は小学校高学年くらいから上は九十歳以上のおじいさんおばあさんまで、ある程度碁が打てる人が三々五々集まっています。だいたい一日千円ほどで朝から晩まで打てます。

一局打つては他の人の碁を見て、「ああこの手はいい、この手は悪い」とわいわいがやがや観戦する人もいれば、一日中打ちまくっている人もいます。

対戦する相手は碁会所の主人（席亭といいます）が適当に割り当てるので、年齢の違った初対面の人も当たります。

初対面だとしても碁が会話代わりとなり、打ち終わったあとにはすでに何年も前からの知り合いのように打ち解けています。

娘たちも、こうして多くの方々や仲良く付き合ってもらいました。娘たちが大会で良い成績を上げたときなどにはみんなに喜んでもらえました。

かといってかわいがってもらったばかりではありません。社会のルール、礼儀に反することをしたときには、ちゃんとその場にいた人から注意を受けます。仲間の一員として見てくれるので、大人だろうと子

供だろうと変わりがありません。

そして暮会所にいると、仕事の話や付き合いの話など実社会の話を耳にすることが多くなります。親からでなく他の大人から話を聞くことで、娘たちにも仕事の大変さや辛さが感じられたようです。このようにお年寄りから子供までぎっくばらんに入り混じって集まっていられるところなど、今の社会にはそう多くないと思います。このような場所に娘たちが身を置くことができたのも、暮をやった一つのメリットだと思います。

インターナショナルなつき合いも

「国籍を超えて」の方ですが、娘たちが行かせてもらった海外試合には三種類ありました。一つ目は四都市対抗少年少女囲碁団体戦といって、韓国、台湾、中国、日本の四カ国、原則一カ国男四名、女一名の主将から五将までの団体戦です。

二つ目は、台湾の應昌期囲碁教育基金会後援の世界青少年囲碁選手権大会というものです。十二歳以下のジュニアの部と、十三歳以上十九歳以下のシニアの部とに分かれており、だいたいジュニアの部に十カ国前後、シニアの部に十五カ国前後が参加します。

三つ目は韓国のKBSテレビ（日本のNHKに当り

ます）の五十周年を記念して、一昨年韓国で行われた「日中韓こども囲碁・夢のペアマッチ」です。韓国、中国、日本から男女二人ずつのペアで参加しました。一つ目の四都市対抗少年少女囲碁団体戦は国ごとの総合成績で順位をつけます。

会場となる国へ出発するため、飛行機で会うまでは全く知らなかった参加選手たちが、試合においては一丸となって韓国勢、中国勢、台湾勢に臨み、自国の勝ち星を上げるためにそれぞれが死力をつくします。

二日間の試合を含めてたった五日間のことですが、その間に芽生える友情は男女の壁を超えて厚くさわやかです。上の娘は小学校四年生のときに韓国の釜山（プサン）であった大会に初めて出場させてもらいましたが、そのときいっしょに参加した選手たちと六年経った今でも心を通わせています。親の私の方も、そのとき知り合った台湾のお母さん息子さんと、いまだにとっても親しく付き合っています。

二つ目の世界青少年囲碁選手権大会は、上の娘はアメリカでの大会に、下の娘はオランダ、韓国での大会に出場させてもらいました。やはりそのとき知り合った韓国の選手の方と友情を深めています。

コンピュータのインターネットを使い、自宅にいても日本全国だけでなく、海外でも一局三百円ほどで対局できます。



碁会所にて。下の娘



北京で開かれた四都市対抗少年少女囲碁団体戦で。上の娘（左端）

大会のあと、日本にいて韓国の友達とコンピュータで対戦したときに、「元氣ですか？ また会いたい。また韓国に来てください」とメッセージを入れてきてくれて本当にうれしく思いました。

子供の友情のことで一番印象に残ったのは、三つ目の「日中韓こども囲碁・夢のペアマッチ」です。先ほども述べたようにこの試合は日本、中国、韓国から男女二人ずつのペアで参加しました。

日本からは当時小六の下の子と、小四の男の子が参加しました。五日間の韓国滞在で、試合は二日間、KBSスタジオでありました。一日目は男子グループ対女子グループに分かれ、コンピュータを使い、大画面に碁盤を映し出して試合をしました。一手ずつ、男子女子が交互に打ちます。

グループ内では相談しながら打てるのですが、子供たちの方は日本人は日本語を、中国人は中国語を、韓国人は韓国語しか話せません。

言葉が通じないのにどうするのかあと思いながら観客席で見ていると、面白いもので、ここはやはり万国共通の対話手段が登場しました。身振り手振りで。あと、イエス、ノーです。でも大人の世界だったから少しは遠慮というものが働くのでしょうか、子供の世界のことです。もうすったもんだです。たしか一手六十秒以内に打たなければならなかったと思うのです

が、グループ内の考えがまとまらなくて、みんなでワーツと打った所がとんでもない悪手だったり。

この様子は日本にはNHK衛星第二で、中国にはCCTVで、韓国にはKBSで流されたのですが、言葉も習慣も違う国から集められた子供たちが、テレビカメラなどお構いなしにいろいろな方法で意思を疎通させている姿には、私たち大人の心を明るくし、元氣付けてくれるものが沢山ありました。

二日目の試合はペア碁といって、男女一人ずつ組んで試合をするのですが、組む相手はくじ引きで決めるのです。

娘は中国の男の子とペアを組みました。あと日本の男の子と韓国の女の子、韓国の男の子と中国の女の子のペアができました。この試合はペア対ペアで、碁盤をはさみ椅子に座って対局します。今度は相談するのはだめで、ペアの中でも交互に順番を間違えずに打たなければなりません。間違えると反則負けです。

一日目の試合のようにわいわいがやがや相談しながら打つのと違って、今度は精神的チームワークが必要とされます。

私はスタジオの外から見えていましたが、子供たちがたびたび互いに顔を見合せてうなずきあったり、ガッツポーズをして笑いあっている姿が強く印象に残りました。



日中韓ことも囲碁・夢のヘアマッチに参加した下の娘（右から三人目）

試合以外の日はみんなで遊園地に行ったり漢江（ソウル市内を流れる大河）遊覧し、夕食を共にしました。たった五日間のことですが、私たちは、特に子供たちは本当に仲良くなりました。

お互いの部屋を気さくに出入りして、誰ともなく碁を打ち始め、それを他の子供たちが検討する。またトランプをしたりおはじきをしたり。このころになると本当に不思議な光景が繰り広げられました。みんながそれぞれ自国の言葉で相手に話しかけ、会話を成立させているのです。一見すると日本人も中国人も韓国人も顔が似ているので、同国の人と錯覚するのですが、よくよく聞いてみると日本語、韓国語、中国語が入り乱れているのです。それで通じているのです。

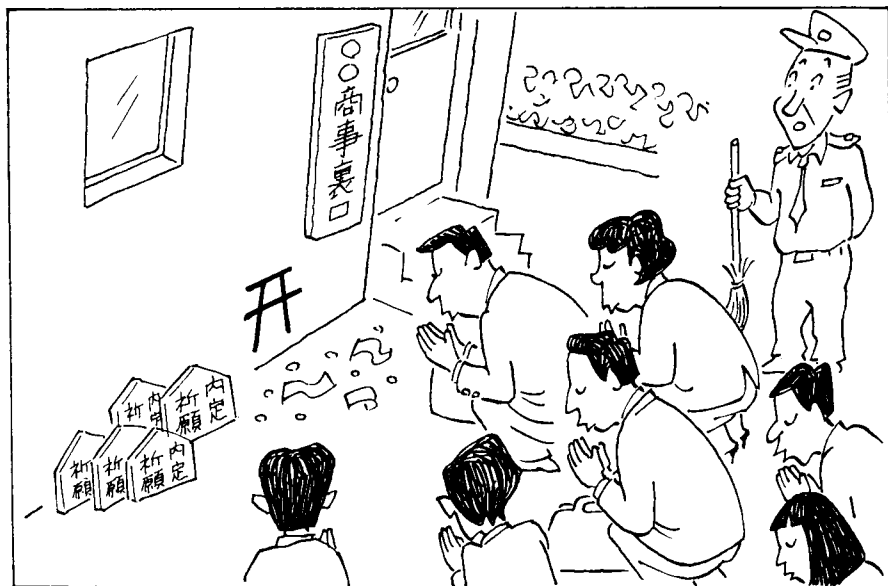
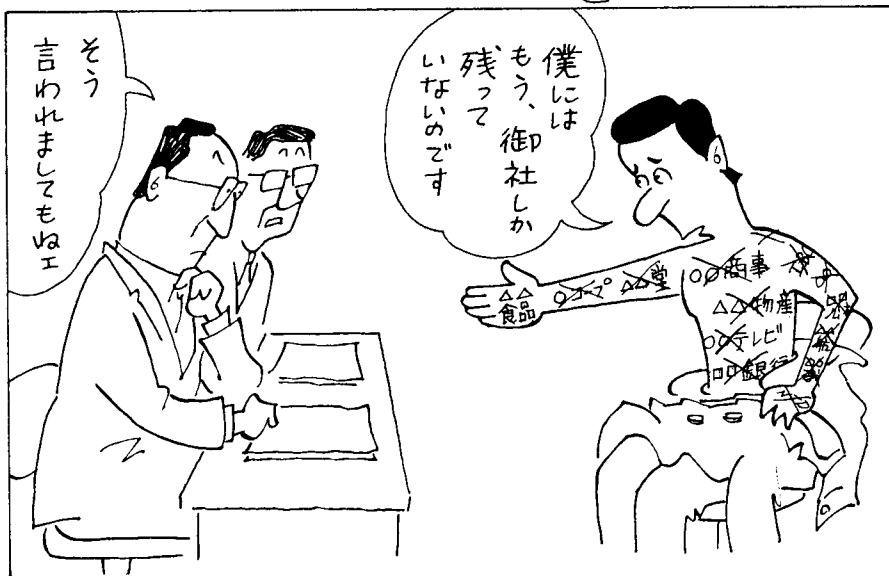
私は夜寝るときに娘に聞きました。「あなたは韓国語とか中国語分かるの？」娘は言いました。「もちろん分からないに決まっているじゃない。でも相手が何言いたいか感覚で分かっちゃうんだよね。おかあさん、私、碁をやってて本当に良かった。碁をやっていると言葉は通じなくても世界中の人とすぐ友達になれるでしょ。私ね、大きくなったたら囲碁の良さをもっともっと多くの人に分かってもらえるように、日本だけでなく世界に普及していきたいの」

現在娘たちはアマチュアの世界を卒業し、プロを目指してがんばっています。

極氷河期の就職戦

①①

一筆
両断



FREE TALK

フリートーク

鼻詰り解消

レーザーオベしました

東京都目黒区 クワシイトモミ

一月の末にいたしました鼻詰まり緩和手術について書き綴りたいと思います。

手術といっても入院はしないで一時間ぐらいで終わってすぐに日常生活に戻れます。お会計は本人負担二割で約六千円でした。十時に予約した耳鼻科に行きました。まず板ガムほどの面積のガーゼを五枚、つまり左右合わせて十枚をどんどんどんどん鼻の中に入れてられました。そのガーゼには麻酔液がしみています。

鼻の穴の中にこんなにいっぱいモノが入るのかと感心しているのもつかの間、今度は約三十分ぐらい待機。その麻酔が効くのを待つためです。痛くて涙が出てきたら困るのでコンタクトレンズも取りました。

三十分ほど待った後、いよいよ始まります。マイクロスコープみたいな細いものが入り込んで鼻の穴に入っていきます。先生はこの機械で私の鼻の穴の中の状況を見ているのだと思います。その後、今度はもう少ししっかりした素材の棒状のものが鼻の穴に入っていきます。

それこそが、私の鼻詰まり部分の肉を焼くレーザー機なのです！

麻酔が効いているので何も感じないけれど鼻の穴の奥深くのへりをその棒で押しつけるんですね。そのたびに機械からピーっと音がしてドキドキします。

それと同時に焼けたにおいがしてきます。そうです、私の鼻の奥の肉が焼けているにおいなのです。おいしそうなおいではなく、髪の毛を燃やしてしまった時のような変な香りがしました。

片方が終わって、もう力が入ってちゃったのだけれど、先生に「もう半分終わったからなあ！」と励まされ、

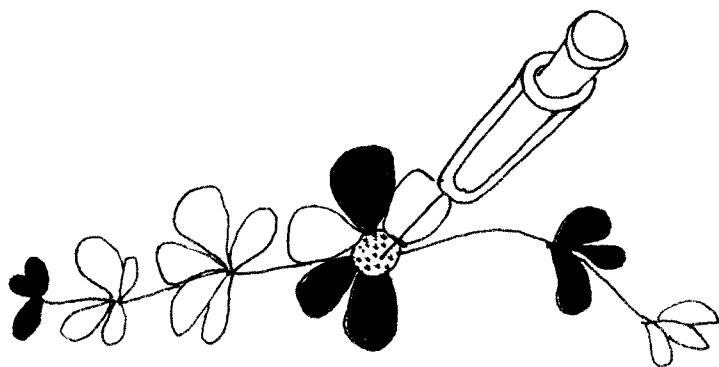
両穴とも無事終了。

まだ麻酔が切れていないので鼻水がたれても感覚が無く、だらーんと「いなかっぺ大将」のようになったら困るのでマスクをしました。

その後約一週間ぐらいいはなぜか右の頬だけ腫れてしまつて、ずうつとこのままだったらどうしようと不安がよぎりました。鼻をかむと血が混じりました。術後一週間は鼻が詰まりますよと先生に言われましたがそのとおりでした。かんでもかんでも詰まります。

一週間後様子を見せにまた耳鼻科に行きました。その時に鼻水をとるバキュームで取ってもらったら、汚い話で恐縮ですがカサブタと鼻水が混ざつた何とも言えない長い物体がズルつと出てきました。それが取れると本当の意味での手術終了。そして腫れも徐々にひいていきました。

術後、四カ月以上経つた今はなかなか快適です。以来一度も鼻スプレー使っていません。それまでは鼻がすぐ詰まってしまうって一日に何回もスプ



レーを使っていました。でも鼻水も出てきてしまうことも多いので、詰まるわ、たれてくるわで苦しかったです。それに伴い、目の周り鼻の周りが、蓄膿症の初期症状のように中で腫れてくるので、頭がボーっとしちゃう時もしばしばありました。

夜にスプレーしてもすぐ夜のうちに鼻が詰まってしまうので、朝になると舌を触っても濡れてない時もありました。カリカリに乾いちゃってるんです。だから朝、水を含ませて、舌を復活させていました。

服薬と鼻スプレーのほかに注射もしていました。注射は今もしていますがこれはアレルギーの抗体を体に入れて抵抗力を付けるためだと思います。これは月に二回ほどしています。

花粉症の季節にその時期だけ鼻がたれるーだの何だの言っているヤツを見るとホント腹が立ちます。貴方たちは春だけでしょ！ 私は年中なんだよと。

今まで鼻スプレーを手放すことがで

きず、なくなつてしまひそうになると、どうしようとパニックになつた時もありました。それを考えるとこのレーザー手術は私にとって大変画期的だつたと思います。

自称アタリ屋？

青木さところ

また、当たつたネ、名前を見たわよ。友の手紙に書いてある。

この前、商工会の小さなクイズに、出さなければ当たらないとばかりに、書いた一枚のハガキが当たつたのだ。ちよつとした小遣いが手に入つて、ほくそ笑んでゐる時にきた便りであつた。幸せにもこのような類いの懸賞にわりと当たるほうなので、心の中で自称「アタリ」屋とうぬぼれている。

が、時々、私はとんでもないものに

も当たつてしまふ。

それは十年くらい前の年の瀬のころ、夫と正月の用品を買いにいった。その店には知り合いの青年が働いてた。その青年が、

「おばさん、生で食べるととても美味しいよ」

と言いながら、楽しい会話をはずませるので買うつもりでもない、牡蠣を買つてしまつた。

その日の夕飯に、レモン汁と醤油をかけたものを食卓に出すと、夫と義父は良く箸を出す。私は牡蠣が好物であつたが、二人に遠慮して三粒だけ食べた。

夜、一寝入りしたら、突き刺すような痛みを腹に感じ目を覚まし、寒さの中をトイレを目指して一目散に走つた。それからしばらく孤独な戦いが、上と下で続いた。たくさん食べた二人はなんでもなかった。私の身体には暮れの疲れがたまつていて、このような結果になつたらしい。症状は一晚中続き、酷い目にあつてしまつた。

もう一つはサザエである。

久しぶりに息子がこの土曜日に休みが取れた。

昼食の時に、

「今日の夕飯は二人きりだよ」

と言うと、

「どこかへ食べにいこうよ。歩いて」

雨は、なかなかやまない。雨の中を歩いていくのも面倒臭いし、自分が今やっていることもはかどっているし、出かけることが億劫になつてきていた。

四時ぐらになると息子が、

「ちよつと『K』に買い物にいつてく」と言う。

「K」はいろんな種類の店が入つてるところである。

「じゃあ、今夜は勝男の食べたいものを買ってくる？ ご飯を炊いておくから」

と言うと、買い物嫌がらず息子は引き受けた。たまには彼が選んだ献立も

楽しみである。

「お母さん、これ」

と、差し出した品物はホッケ、イカそうめん、サザエの三点である。余程、海の幸のものが食べたかったらしい。

聞くと、鮎・ニジマスも売っていてそれも食べたかった話をする。レシートを見ると、二人で食べにいつて使う



だろうと思う金額より超えている。が、後の祭りである。

「食べにいったほうが安かったネ」

と一言、嫌味も出てしまった。経済観念の薄い彼は平気な顔をしている。

サザエは大きな物が四つ、一パックになっている。

「これ、どうしようか？」

数の割り当てのことである。夫は今夜は帰らないからよいとして、遊びに出掛けて帰りの遅い二人の娘にとっておくかどうかということであった。

我が家ではサザエのような高価なもの、たまにしか口にはいらない。母親としてちょっと気が咎めたが、息子の一声で二人で、一つずつ食べてしまった。

その時息子は、白いところだけ食べ、私ははらわたの部分まできれいに食べた。私は、はらわたの苦みが嫌いではないので、息子の分まで食べた。

次の日、牡蠣かきの時のようにまた、大騒ぎだった。今回は下だけの様子だ。やはり二日間、主婦業をさぼってしまった。

この程度の病気だったら私にとって、宝くじに当たったように嬉しい。なぜなら、眠りと読書という景品がついているから……。

そして、苦しみの陰に静養という満足感を味わえて、明日へのスタミナ源と化して行く。

男女共同……三角？四角？

東京都世田谷区 田中優子

六月十四日（二十三日）、世田谷区では区議会第二回定例会が行われた。私も、議員になって初めての一般質問をした。区議会に出ていって約二カ月、色々変わった習慣が多く、価値観や常識がちよっと違う、と思うのは、私が新人だからだろうか……？

今回私が質問に取り上げたのは、選挙中に訴えてきた政策の一つの「子育て支援策」について。議会の中の質問というのは、「話す、質問する」というより「原稿を読む」、いわば「発表会」のようなもので、前もって通告したことを聞いて（読んで）いく（だけ）。発表よりも、原稿を書き上げるまでの準備（過去の質問や答弁と重複しないか調べたり、行政とのヒヤリングをしたり）が大変な作業だ。当日は、誰が何を質問するかは、資料として配布されているので、詳しいことは

わからないにしても、タイトルからだいたい想像がつくようになっていた。

今回、世田谷区では、五十五議席の内、十六人が新人議員である（正確に言うところ、その内の一人は元職だが）。新しく入った十六人全員が一般質問に臨んだので、いつもより議会全体に活気が出たようだった。

いよいよ私の順番、というときに、議場から出て行った先輩の男性議員がいた。もちろん、生理現象での一時退席は許されているわけだが、私はどうも偶然とは思えないものを感じた。「子育て支援策について」と「障害児（者）の福祉政策について」という私の質問のタイトルを見てのことだろうか……と。その方は「男女共同参画」とか「女性政策」ということが大嫌い！らしいから。

以前、私と同じ会派（生活者ネットワーク）の議員が「ジェンダーフリー」についての質問をしたときのこと。議会直後に、その男性議員に「何、何？ 男女共同三角？（参

わいふ文章講座のおすすめ

公民館 女性センター、社会教育課などのご依頼で、しばしば「わいふ文章講座」を開いています。

編集長田中、副編集長和田、「わいふ」から巣立ったライター達を講師とし、五回から十回までのコースがあります。

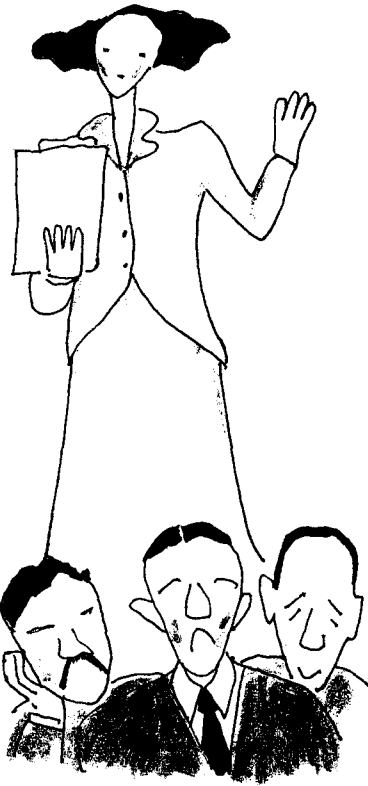
その他に、「子育て」「教育」「女性」「高齢者」「社会参加」など、各種の問題について講演をいたします。老人ホーム情報センター主任研究員の水落も担当します。

お住まいの地域で開きたい方は、お電話をください。資料をさし上げます。それを持って公民館、教育委員会の社会教育課などに開講を頼んでみてくだされば、引き受けてくれるところも多いと思います。

●PTA主催の成人教育、家庭教育学級での講師としてもご依頼ください。

画! 四角? 僕の周りの区民二十人に聞いてみたけど、誰ひとりとしてそんな言葉知らなかったぞ」と言われたそうだ。

午前の質問が終わり、昼休みになると、先の彼に声をかけられた。「いやあ、ユー・コちゃんの質問はよかったねえ」(ユー・コちゃんとは何よ! それに、ほとんど聞いていなかったんじゃない?) 続けて、私の質問を聞きに来てくれたボランティアの実行委員メンバーがたくさんいる傍聴席を見上



げ「ああ、あんなに若いお母さんたちが、こんな時間にこんなところに来ちゃって、これじゃ保育園なんかいくつ作ってたて間に合いやしない」とのたまった。(あのね、確かにあなたから見たら「若いお母さん」かもしれないけれど、乳幼児をかかえているような若いお母さんは来たくても来られなかったの! あそこに並んでいるのは子どもの手がやつと少し離れたから傍聴に来られた、という人ばかりなんです!) ん、何とも言いようのないち

ぐはぐなおかしさである。

今回、同じく生活者ネットワークの議員のYさんが「学校給食について」質問している最中には「弁当もいいぞー!」と、大きな会派の男性議員から全く議論と関係のないヤジが飛ぶ。ちなみにこの会派は先の男性議員の所属する、女性候補を一人も立てなかった第一党の会派である。毎朝五時半に起きて子どものお弁当を作って、その上で議会活動をしているYさんに、お弁当を作ったことのない人がよく言えたものだ、と、腹が立つより呆れてしまう。

一方、初めて傍聴に来た、という私の仲間たちは、議員の顔写真が載っている『区議会便り』を開いて、傍聴しながら「区議会オンブズパーソン」のごとく、一人一人チェックをしていたそうだ。「ずっと居眠り」「三十分以上離席。トイレにしては長過ぎる」「週刊誌を読んでいる」「ヤジを飛ばす」……。私たちの税金で議会運営がなされているのに、あの議員たちは一体

「どういふつもりなの！」と憤慨していた。

日常生活からかけ離れてしまっている政治、議会、……でも、そこで色々な事が決められていく。皆さんも、ぜひ一度傍聴に出かけてみては、と思う。議会の常識・非常識、きつと面白いですよ。

トルコの日本語

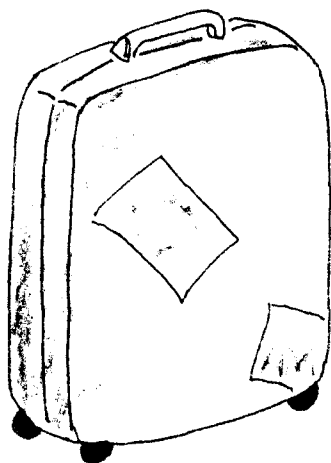
横浜市泉区 原 昭宏

今年の三月末から二週間ほどトルコに行った。私はこれまで仕事の関係でかなりあちこちへ旅行をしてきたが、トルコには行ったことがなかった。しかし長い間この国に憧れてはいたのである。

ヨーロッパとアジアにまたがり、その接点に位置するイスタンブールはビザンチン、オスマン両帝国の都とし

て、また東西文化の交差点として世界の中心であった歴史を持つ。バザールの雑踏と喧噪、アヤ・ソフィアのシルエットを背景にした夕暮れのボスポラス海峡、そしてアガサ・クリステイの作品の舞台となったオリエント急行の発着駅。こういった雰囲気は私の旅心をそそった。

トルコで出会ったさまざまな事物は私の期待に充分応えてくれたが、それらの中で最も印象に残ったのは言葉、それも日本語であった。



トルコが親日的な国であることはよく知られている。一八世紀以来、トルコに脅威をあたえ続けてきたロシアを日露戦争で破った国であるとか、一八八九年の紀伊半島沖のトルコ船の遭難に際して、人々が一致協力して救難にあたったことであるとかが、その理由だという。それはさておき、私が出会ったトルコの人たちが皆、フレンドリーであったことは事実である。そして、日本語を話す人、日本語を学ぼうとしている人がかなりいたことは意外

であった。

ダーダネルス海峡に面したアジア側の都市、チャナッカレのホテルの土産物店で働いていた、二人の若い女性は日本語を流暢に話した。聞いてみると、彼女たちはチャナッカレ大学日本語学科の学生で、このホテルにアルバイトで来ているという。とくに気を惹かれたことは、彼女たちの日本語が正確であるだけでなく、とても上品なものだということであった。

投宿した翌日、街を散策していたら、三人づれの若い女性に日本語で声をかけられた。彼女たちはこの大学で日本語を勉強しているが、わたしを日本人とみて話しかけたのだという。

「もしよろしければ、一緒にお茶を飲みながら話をしていただけませんか」というので、小一時間ほど近くの公園にある茶店で話し相手になった。その三人はそれぞれ学年が異なり、したがって日本語の能力も異なっていたが、いずれも正しい日本語を話すのには感心した。彼女たちが日本語を勉強

する動機はさまざまであるが、日本の文化や経済に深い関心を持っていることは確かである。

日本の若い女性（とくに高校生に多いようだが）の乱暴といってもいいような話しことばを街角で耳にするの、正しいう品な日本語は外国でしか生き残れないのではないか、と感じたのであった。

江戸城の昔と今

千葉県船橋市 三枝きよみ（62歳）

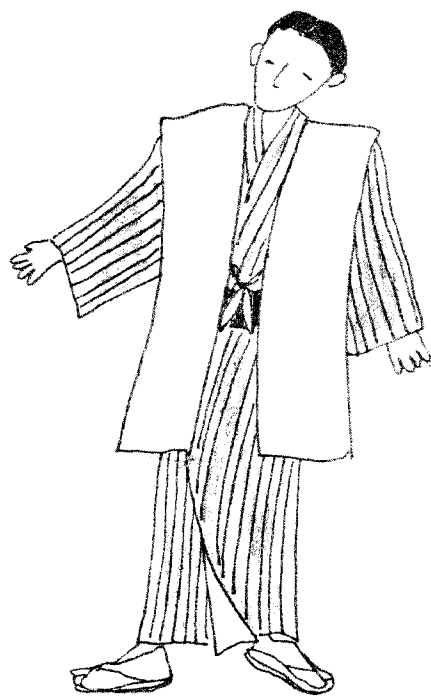
ある日夕食の後夕刊を見ていた息子が「お母さんいいのが出ているよ。

ウォークと講談まつりの会の参加者募集だつて。行って来たら、五月一日だよ」と言う。会社の勤務表を見ると休みになつてゐる。どれどれと言いながら新聞を手取る。成程江戸城の昔と今、松の廊下跡を見ながら約五キロの

ウォーク、その後講談を聞く会とある。私が名所歴史好きなのを分かっているの、教えてくれたのだろう。早速その気になる。

当日、前日迄雨だったのが嘘のよう、朝から陽が射している。八時過ぎ家を後にし、東西線で大手町駅に着く。日頃あまり都心には出ないので戸惑う。まだ時間はたっぷりある、慌てないでと自分に言い聞かせ、矢印を見える。あるある。パレスホテル方面と書いてある。地上に出るとばつと明るくなり、ああ、ここがパレスホテルか、その前の道路を渡った所に大手門と書かれた立札が、かかっていた。お堀の水はキラキラと輝いて白鳥が二羽水面を渡っている。

お堀の周りは車で何度となく通つてはいたが、こうして歩くのは初めてなので、何だか子供時代の遠足に出て来たみたいな感じに思われた。そのうち、あの人もそうかな、この人もそうかなと、思われる夫婦らしき人、グループの人達が、三三五五と、講談協



会の旗のもとに集まって来た。協会の方は二名いて、それぞれ講談師らしく和服を着て、上から袖なしの羽織らしきものをかさね、一目でそれとわかる服装をしていた。

「これより大手門に入ります。まだ来てない人がいるので、先に来た人は門から入り、右側に大手休憩所がありますので、そこで休んで下さい」と札を渡され入った。間もなく全員集まっ

たらしくA班とB班に別れ、説明されながら歩く。

大手門は昔十万石以上の大名でなければくぐれなかった門、世が世であれば平民には絶対来られないところだったのだろう。

それから同心番所、百人番所。百人番所は平屋だが長い建物で、ああ此所に交替で常時百人の人が詰めていたのかと思うと、何だか昔が偲ばれしばし

その場に佇んでしまった。それから二の丸はここにあったとか、松之大廊下の跡の説明があり、浅野内匠頭は以前から殺そうと思っていたのではない、本当に殺意があるのなら胸を突くとかするだろう。赤穂藩はその当時財政は大変だったろうが、吉良に物事を教えるのもらうのだから、やはり物品を贈るのは常識だろうとか、講談師らしく面白く本当にあったように（本当にあったのだが）話してくれるので、思わず三百年前の世界に引き込まれてしまった。そして最後には平河門から出たのだが、ここは不浄門ふじょうもんといって、浅野内匠頭も最後はここから出て行ったそうだった。気が付くと前は毎日新聞のビルだった。

千鳥ヶ淵を通り国立演芸場に向ったが、吉野桜は終り、八重桜のピンクの花びらが歩道をいろどっていた。歩くことには少々疲れたが何か昔にタイムスリップしたような短い時間だった。その後演芸場に入り講談を聞いたが、二番目の「平塚雷鳥伝」を聞き終えた

ところで、会場を後にする。会場に入った時点で自由解散なのだ。

満足した一日だった。又こんな機会があれば出かけてみようと思いつながら地下鉄半蔵門線へと帰路についた。

私は絵が下手だ^{へた}

小澤長太郎（95歳）

私は絵がとても下手だ。実物をよく見て描けと言われてもだめだ。絵ばかりでなく作文もだ。文は上手だと言われることもあるが、まったくだめとも言われる。人物のことなどまったく書けない。相手の考えを相手より深く見きわめることができて、これを文につづれない。

だが地図なら、何んでももってこいだ。地図を見ずに本物そっくりに書ける。外国人に、その国の地図を書いて、びつくりさせたことは数えきれない。

◎で示された市や町を鉄道や道路でつなぎ、川の流れ、山の高さ、海の深さを示す曲線をまちがいに書ける。

地図が私の頭のフィルムにそっくりそのまま写ってしまっているからだ。私のこのフィルムは立体的なものだ。だが、平面的のものなら一度写ったらもう消えない。八十歳のなかば頃までは、

がなさない！ 九十五歳の今日はもうだめ、昔のようではない。若い時から、この能力を外国語の勉強に役立たせようと何度も企てたがうまくゆかなかった。

世界には私みたいな人間もたくさんいると、これまで読んできた本や、自身の体験から私は言いたい。だいたい文明人の記憶の必要は、文字が発明されてから未開人よりずっと少なくなつたろう。

軍事探偵や探検家を案内した未開人達の記憶のすばらしさを私はたくさん読んだ。彼らの頭のフィルムは文字を使う文明人と同じ、いやそれより正確だと私は思う。

自費出版は

「わいふ」へどうぞ！

「わいふ」編集部では自費出版の制作をしています。本をお出しになりたい方はぜひご利用ください。

自分史、回想録、旅行記、童話、詩集、歌集、句集、同人雑誌、絵本、コミックまで、何でも作れます。

イラストも用意できますし、お書きになれる方のために、聞き書きのまとめもいたします。

費用はモノによりいろいろ違ってきますが、市価よりは確実に安いです。事情を伺いご相談に応じますので、ぜひお問い合わせください。

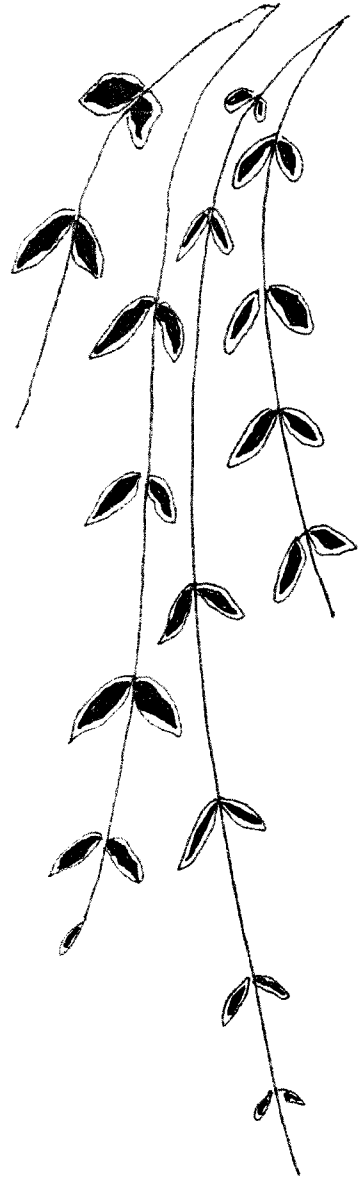
ちなみに最近、読者からのご依頼により、「紅の雲」、「春のかたみ」、「出会いに合掌して」などを制作いたしました。

皆さまも人生の記念に計画されてはいかがでしょう。

お相手

匿名

太陽の光が屋外プールの水面にまぶしく反射している。鳥のさえずりが聞こえ山々の豊かな新緑が目には優しい。手入れの行き届いた広々とした芝生と日本庭園。つつじが見頃になっている。いい景色といい空気の中に身を置いて、気持ちよく帰宅するはずだった。



私は出好きなので、どこかへ行ってもめったなことでは疲れないのに、なんか今日はすごく疲れたと独り言を言くと、朝、弁当まで作って行くのかと驚いていた夫が、親でもない人を連れて行って聞きたくない話を聞いてきたからだよ。ご苦労さんだったなど言った。

Aさん（七十七歳）は車に乗ってから降りるまでの三時間、隙間なくしゃべり続け、私はいつものように聞き役だった。

翌日からここ三カ月ばかりの精神的

ストレスが、体調を崩すという拒否反応となって現われた。

Aさんは商売をしていたが年をとったため貸店舗にした。私がそこで働き始めて十年めになる。勤め始めの頃はバブル景気で多忙を極めていたので、Aさんが店に顔を出す暇もなかったが、三年めの秋頃から雲行きが怪しくなってきた。暇ができるようになった、私に話しかけてくるようになった。

貸店舗用に作られた店ではないため、店と住まいは戸一枚で区切られているだけである。でもその頃は五、六

人の茶飲み友達が出入りしていて、話し相手に不自由していなかったたので私も気が楽だった。が寄る年なみに勝てず、自転車に乗ったり歩いて来ていた人達が来られなくなってしまう、今顔を出す人はたまあーにしかない。

Aさんは心臓にペースメーカーが入っていて無理の利かない身体のため、自分からは出向けないといって、散歩以外は部屋にこもり切りの生活をしている。

最近同居している長男夫婦とのこじれがひどいらしく、家族が一言も口をきいてくれないと、私に話しかけてくる度合いが増した。

ある日、銀行と病院へ連れて行ってもらいたい、〇〇へ行く用事があるけど遠くて（五十キロ位）一人では無理なので一緒に行って欲しいと頼まれた。

息子さんと同居しているのに私がすることではないと思うのでと断ると、そんなことも何にも気にしなくていい。一緒に住んでいても関係ない他人なんだ

から、と引かない。

銀行に行った日は雨続きのあとの、カラッと気持ちよく晴れた日だったので、今日はAさんのために時間を使おうとつさに決めて、ちょっとドライブしましうかと海まで足を伸ばした。

翌日、きのうは久し振りにほんとに楽しかった。あんまりうれしかったから姉さんに報告したという（内容が自分に都合よくすり変っていた）。そしてたらそんない人が近くにいるのなら、自分その人の世話になれと言われたのでよろしくお願いします。死ぬまでめんどろ見て下さい。とにこやかに言って深々と頭を下げる。

海へ行ってからは、いつも家にもぐってばかりでほんとにつまらない。遠くへは行かなくていい。近くでいいからたまには外へ行きたい。私は障害者手帳を持つてから、一緒に行く人は付添人として認められて無料になるからお金はいらないなどと言う。

これは大変なことになった。私が

断ってもおかまいなしにどんどん侵入してくる。少々のことでは納得させられない。

とにかく何の話でも、くり返しくり返しくり返しく言うので正直なところまたかとうつとおしく、ストレス源にもなる。

明るい話題はまずなくて、過去の苦勞話と長男夫婦とのほんとかしらと思うような話、主にこの二本立てばかりをじとつとした口調で話すので、私まで暗い泥沼に引つ張り込まれそうな気持ちになつて疲れる。いいかげんしてもらいたいと思つても、口に出せるものではない。

気まづくなりたくない最大の理由は、今の仕事がつても気に入ってて他に移りたくなく、できるだけ長くここにいたいということにある。

でもこのままでは窒息状態になってしまう。なんとか風穴を開けなければ

——。
さんさん考えた末、月に一度三時間位一緒に出掛ける提案をした。幸い市

内には四季折々花と自然を愛でる場所が多くある。

変化のない日を過ごしているのでも月一回でも楽しみができてうれしい。生きる張りができた」と喜んで当日顔を輝やかせて待っていた。

ゆつくりと歩調を合わせて歩き、つじの前に並んでシャッターを押してもらった。

他人目には仲のよい嫁姑に見えた



ろう。

が、所変われど話し変わらず。ほら、きれいですねえと水を向けてもすぐ元の木阿弥。

開放感あふれる広大な自然の中に身を置いても、心の癒しにはほど遠かったようで、いつもの二本立を怨念のようになしやべりまくる。その気迫に、私の気持ちは太刀打ちできなかった。私の心の鍛え方ではとてもかなわなかった。

「おばあさんはだまって！」

東京都青梅市 福島みさを

私は七十二歳までお茶の稽古に通っていた。戦前娘時代に手解きを受けたが、結婚、戦争と二十余年の間、全く何もかも忘れて家事に没頭していた。紆余曲折あり、二十年ぶりに家に戻った時「稽古用茶道具一式」入った短冊タンス、唐銅の風呂釜が手つかず残っていた。竹とは大したもので茶筌も柄杓もそのまま暫くの間使用に耐えた。

娘が嫁ぐ年頃になった時、妹も誘い娘と三人で、私が昔お世話になった御寺のご住職（その頃詰め襟の中学生であつた）が茶道を教えておられるので入門した。私は家事優先なので行ったり休んだりしながらお世話になっていた。その内娘は嫁ぎ、妹と二人稽古に励んだ。

妹は十年でお許しも頂きお披露目も

したが私は自分の楽しみとして満足していた。私は勤めをしながらのお稽古であったが、六十二歳で仕事を止め、九十一歳の姑と病気の夫の為に家事に専念した。この時期は午前中畑をしたり家事をし、汗をかいた後シャワーを浴び、上から下まで全部取り替えて夏でも着物を着て帯を締めて出かけた。出がけに爪を切ることも忘れなかった。送って貰う時、車内で爪を切った。畑の泥が入らないように。

姑が九十六歳になり少し痴呆が始まった。目が放せない、手がかかる、こんな時こそ私にとってお茶はなくてはならない存在になった。二、三時間座って来るだけでどれだけ助けられたか知れない。ほんの少しお洒落をして出かけるだけで命の洗濯になった。

姑を九十九歳で見送り自由の身になったが、身体の調子がもう一つはつきりしない。めまいに悩まされ、難しい茶事等も負担になって来たので悲しいけれどお暇を頂くことにした。この時から「私は田舎のおばあさんやって

ます」ということにしていた。

二年ばかり経った頃、市の生涯教育の一環として「高齢者の為のお茶の教室」が始まった。皆和気あいあい楽しい集いになった。

満一年経った五月、仲間十名揃って茶道会主催の大寄せ茶会に出かけた。莊厳の古刹、茶席も大小、離れも含めて四席釜が掛かった。皆初めての茶会とあって着飾り、貫禄十分の奥様であつた。三席目に入る為に並んで座っているとお正客をお願いしますと言われた。私は雛をかばう雌鳥よろしく、「高齢者のお教室で初心者ですので、どうぞ他の方にお正客を」とお断りした。それでも次々としつこく勧めるのもう一度同じことを言った。すると紋付き袴に眼鏡をかけた男性が「おばあさんはだまって」と声高に言った。皆しゅんとして声無しであつた。ようやく後ろの方に座っていた年輩の方がお正客に決まり、席入りすることが出来た。私はわざと陰に隠れるようにして苦い一服を頂いた。席持ちの

先生は懇意の方なので私は笑顔で返礼して帰途についた。

以後皆さんからどんなに誘われても二度と茶会に行くことはない。私もう歳ですから。

私は一人で家で炭をおこし釜を掛けて、仏様と夫に茶を点てて上げ、自分も頂く。美味しい和菓子と抹茶さえあればご機嫌なので、嫁も孫娘も心得ていてお土産は決まっている。

あれからお仲間の友達は何度も自分たちで行っている。今年の茶会にはご住職の先生がお正客に入って下さったので、いろいろ教えて頂き楽しかったと報告があつた。これでいいのだ。私の役目は終わったと満足している。

昔、かなり場を踏んでいる先生級の弟子でも師匠から、「お正客をしてはいけない。もしそこに座ったら破門する」と言われたと耳にしていたので、今と昔とは違うと言われても私にはやはり「お正客はできません」という外はないのです。

(え・田沼千恵)

最後の空中戦

山内志保（71歳）

私は昭和三年二月二日生まれである。小学校二年の三学期に起きた二・二六事件、あの雪の日のことはよく覚えている。そして四年生の七月七日に日支事変が起こった。日本は戦争に向け大きく傾いていった。

士官学校の若者達

私が五年生になった昭和十三年、父の中学（今の高校）の後輩にあたる青年達が大勢上京してきた。まず現れたのは、父の郷里の友人の子弟でもある川野清、その従兄で一歳年長の荒木康であった。彼らの親御さんと私の父が親しかった関係で、二人そろって陸軍士

官学校の生徒となって大久保（現在の新宿区）のわが家に来たのである。やがて色々な学校へ入った彼らの同級生も、次々と同道してやってくるようになった。

市ヶ谷にあった陸士の子科から大久保のわが家へ、この二人の来ない日曜日はなかった。たいていお茶におせんべいにみかんがテーブルに出ているくらいだが、寒い冬になると母が大鍋でおでんを作り、みんなに振る舞うこともあって、昼にはいつも若者が私たちと一緒に食事をしている家庭だった。

清はある朝一人早く市ヶ谷を出、九時二十分頃には息せき切って真っ赤な顔で現れた。後から来た康に「貴様ずい分早く来たなあ、どうやって来た」と問わ

れると、「西門を出て走って来たら二十分だった」と答えていた。きつと九時に西門が開くと同時に、女子医専（現在の女子医大）の前を通り、走って来たのだろう。また、ある時は風邪で熱のある真つ赤な顔で外出してきて、一日座敷で寝ていたこともあった。

夕方四時になると、彼らは服装を整えて帰校していったが、この時、きちつと服を着る康に比べ、何となくだらしなく着るのが清のくせだった。ある時、衿の下に巻く衿布えりふをしておらず、康に、「衿布はどうした？」と問われると、清は困った顔をした。「あきれたやつだ、それでよう外出できたもんだ」と康が言うのと、とっさに母が「キヤラコを切ってあげましょう」と、大きな反物を出して来てバイヤスに切り、畳んで衿布をこしらえ、それをして帰って行った。他の人のことはあまり記憶にないのだが、いつもおかしいことをしでかす清の子科時代の思い出は鮮明である。

大空をめざして

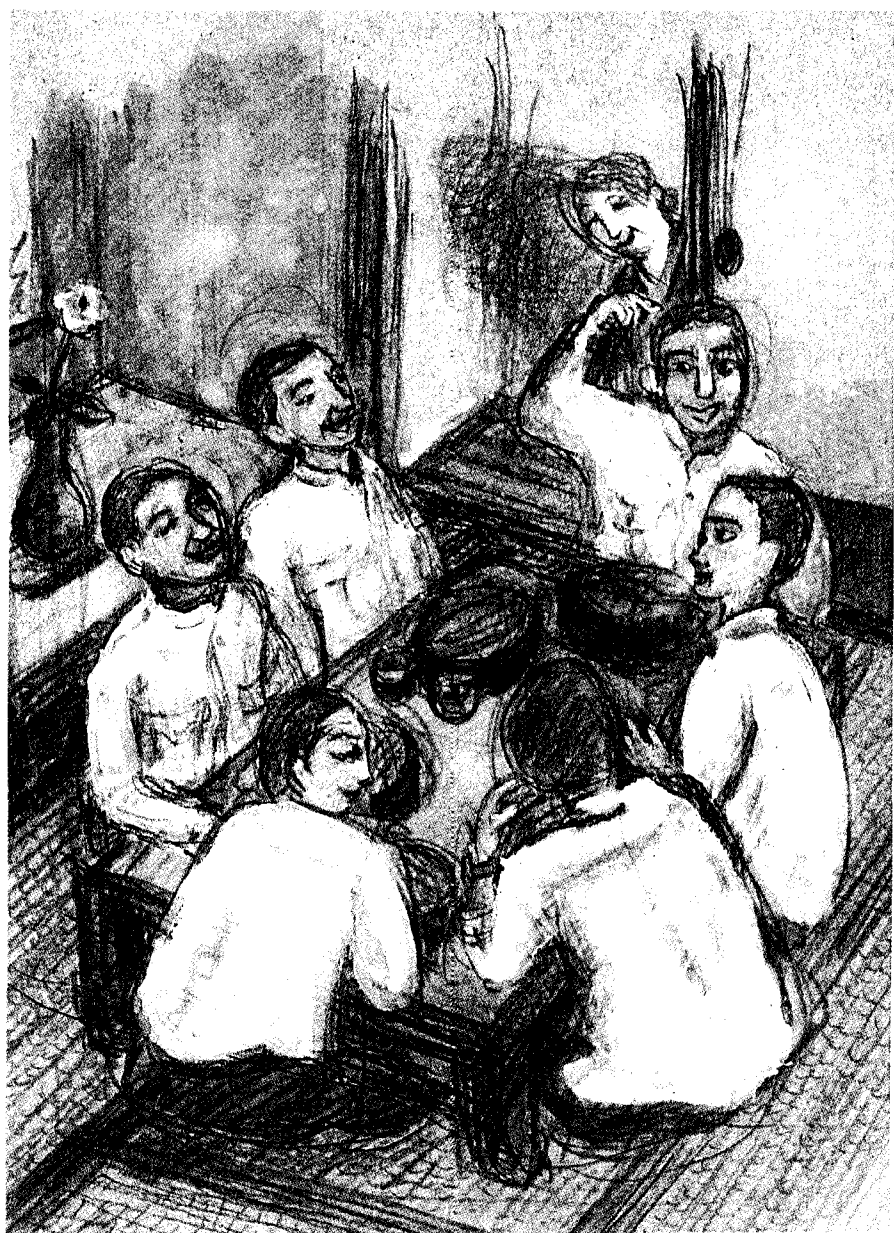
この陸士の人達がいよいよ本科に行く事になり、何の兵科に行くか喧々囂々（けんけんごうごう）の議論をしていたが、航空士官学校を希望しない者は軍人にあらず、といった雰囲気だった。なぜなら、当時の学校では、航空を望むようけしかけて、戦争での消耗品

となるべき人達を大勢募っていたのだった。

その頃はそんなことはつゆしらず、お国の為に飛行機乗りになる人は頼もしいと、小学生の私には感じられた。わが家に来ていた七人のうち六人までが航空士官学校に行き、ただ一人の本科希望だった康は、幾分元気がないように見えた。

この頃康の父上が上京し、数日わが家に滞在していたことがあった。その時の一つの光景が私の目に焼きついている。床の間を背に座っている康の父上に、母が両手をきっちりついて、「荒木さんお願いがあります。わが家でお宅の息子さんたちと何だかんだという事になっても、娘は絶対軍人には嫁にやりません。このことは、木花の方（清の生家）にもきっちりとおっしゃって置いて下さい。お願いします」と言っている姿である。私の姉は、康や清より年上だし、嫁に行くような人はいないのに母は何を思っているのだろう、と不思議な気持ちで眺めていた。

清が進んだ航空士官学校は、埼玉県豊岡にあったので、祭日しか東京への外出は出来なかったようだ。この頃のある休日、航空士官学校へ行った全員がわが家の座敷に集まったことがあった。こんなに大勢の若者達の昼食作りは大変と、母は出前でざるそばを人数の二倍とった。私が「おそばでいいの？」と聞くと、母は「おそばは酒保（しゅほ＝軍隊内の売店）にもない



からいいでしょ」と言い、隣室で縫い物をしていた。脇にいた私は母が、時々、クックツと声を抑えて笑うのを見て、何がおかしいのかと思ったのだが、突然一人が大声で「女子医専はどうじゃ」と言うと、全員が「あれはだめじゃ」と返した。花嫁候補にどんな人がいいかと、女の評定をしていたのかと分かっておかしかった。やがて母が「三時ですよ」とお茶と菓子を持って襖（ふすま）を開けると、全員びっくりして、「おばさん、おられたんですか」と声を上げた。母はすまして「みんな聞こえて面白かったですわ」と答えた。

この若者たちの中で、無事、生還出来たのは一人だけだった。

清からの手紙

昭和十六年三月になって清は士官学校を卒業した。卒業式には清の御両親が上京して、わが家に泊まった。卒業と同時に少尉に任官した清は、それから三重県明野の飛行学校、福島県原の町の飛行学校と、行ったり来たりしていた。

原の町にいた時の清は、仙台のデパートから私に一冊の本を送ってくれた。加藤武雄著『軍神物語』という少年少女文庫で、この本は家が空襲に遭った時も防

空壕に入れておいたため、焼失をまぬがれ、ずっと私の本棚の一隅に立っていた。その頃の夏、家に二泊か三泊かゆつくりしていた記憶があり、父の浴衣を着た清と二人で果実店に行き、「これが好きだ」と言いながらメロンを買ったこともあった。

原の町の時、二度清は朝早く、私たちが起きた頃にやってきた。原の町からは夜行列車で来たものである。私は一緒に朝食をとると学校に行つたのだが、帰宅するともういなかった。母に「清ちゃんは何をしていたの」と聞いたら、「ごろごろしたり、新聞や雑誌を見たりしていたわよ」と言った。「へえそんな事のためにわざわざ夜行列車で来たのかしら。仙台にでも遊びに行つた方がいいのにね」「やっぱり畳がいいんでしょうよ」と母は言っていた。

昭和十六年十二月八日の太平洋戦争開戦の時、清は満州（現中国東北部）にいた。清から来た初めての手紙に「日本は大変な事になりましたね」とあった。清は満州から度々手紙をくれて、私も返事を書いたが、「大人っていいなあ、すぐに手紙が書けて」と思っばかりだった。子供の私には勉強をしているのか、手紙の下書きをしているのかわからないほど大変だった。やっと返事が出せると、又十日か二週間で先方から手紙が来てしまつて、私はまた勉強の為か手紙のためかわからない夜を過ごすのであった。

この手紙は三十通余りあり、私は昭和二十年五月二十五日の空襲で家が焼けた時に、既に戦死していた清からの手紙や写真、送られて来た本を防空壕に入れて残すことができたのだけれど、結婚する時には実家に置いて来た。父が亡くなって家を片づけた時、いくら探しても手紙の箱はなかった。後に知ったのだが、写真は姉が保管していたのである。

昭和十七年に姉は結婚して平塚市に所帯を持った。五月になるとよく遊びに来ていた若者たちの一人、早稲田の学生の黒田正が、悄然として現れ「忠夫が戦死しました」と言った。忠夫というのは彼の従兄である。清と同じ中学四年（高一）から陸士に入り、あの「加藤隼戦闘隊」（隊長の加藤中佐は、戦死後に「軍神」と崇められ、少将に特進して映画にもなった）の隊員で、四月八日にビルマ（現ミャンマー）で露と消えたのである。弱冠二十歳だった。このころの日本は連戦連勝で強いと思っていたが、こうして身近な人が戦死したのは、とてもこたえた。

当時、満州にいた清が、「ハルピンに遊びに行ったのでロシア・チョコレートを送ります。内地には甘い物がないと聞いていますので、皆で食べて下さい」と、美しい包装のチョコレートを送ってくれたことがあった。昭和十七年の秋頃だったと思うが、勤務地がどこだったのかまでは記憶にない。満州滞在二年のう

ち後半の一年間は、「満州国東京城」という所からの手紙だったのでよく覚えていた。

加藤隼戦闘隊

昭和十六年秋から満州に行っていた清は、十八年秋に二年ぶりで三重県明野の飛行学校へ帰って来た。同じ時期に、山本嘉次郎監督の映画「加藤隼戦闘隊」が藤田進主演で撮影されたが、ロケ地は明野であったと思う。十九年元旦に封切られた戦意高揚のための映画で、この時代ほとんどの人が観ていた。私も封切り直後に映画館に足を運び、黒木忠夫少尉がビルマのロウウィンの飛行場に帰還しなかった場面を食い入るようにして観た。

昭和十九年三月、清は千葉県松戸に転勤になり、二年半ぶりにわが家に一泊した。清は大尉に昇進していた。次の朝、私と妹は春休みだったので、松戸に帰る清について行った。

新大久保の駅に向かう途中の全龍寺のあたりにくると、前を歩く清が急に振り返り、「『加藤隼戦闘隊』を観たか？」と聞いてきた。「観たわよ」と私が答えると、清は「あの部隊長機はわしや！」と言った。「あらそう」と言った私の心の中は、忠夫の戦死の場面の方を思っていた。



日暮里で電車を乗り換え松戸に着くと、駅舎は改札口とベンチの所に屋根があつて、他は石コロだらけのホーム。駅前には全くの田舎で、広場とホームの境には黒く防腐剤が塗られた木の柵がある程度だった。

駅を出ると幌をかけた小型トラック一台が、ぼつんと止まっていた。清が飛行場への道を尋ねると、運転席のおじさんが、「これにお乗りなさい」と親切に言ってくれた。ほかに車があるわけがなく、乗せてもらつたけれど、そうでなければどうやって行つたのだろうと思うような時代だった。

清は早速、運転手の脇に妹を座らせ、私と一緒に乗るよう幌を持ち上げてくれた。荷台は二人が座ると一杯だった。清は幌を閉めると、大きな将校マントを広げて左手を私の肩に回し、二人の身体をすっぽりマントの中に包み込んだ。へ私だつてオーバーを着ているし、もうお彼岸も過ぎて寒くないのになんで私をマントの中に入れるの？と、怪訝に思いながら、自分の膝に手を置き、へ早く降りられますようにと身を固くしてずっと祈っていた。現在のどのあたりなのかは分からないが、小高い丘を登って行く十五分か二十分ほどの道のりにもかかわらず、ずい分遠い所のように感じられた。

飛行場は通信省乗員養成所だった。隊に着くと清は上官に挨拶に行き、私と妹は部屋で待たされた。お昼

はそこへ兵隊さんが持つて来てくれた。ホーレン草が切られていない一株のままのおひたしで、軍隊の食事がこういう物なら、やはり家庭の味がよくて、量のあるわが家に清は来るのだなあと思った。それからいろいろな戦闘機を見て説明してくれたのだが、女の私は「隼」だけに興味があり、ほかの機にはあまり関心がなかった。

帰りは軍属が帰るためのバスに乗って松戸の駅まで来た。ホームに入ってしばらくすると、飛行機が低空で飛んで来て、上空で二度旋回すると戻って行った。それからすぐに清からハガキが届いた。

「昨日は御苦労様でした。あれからすぐに駅まで行つてみると駅はすいていたので、これなら座って帰れるなと安心しました。清」と書いてあった。

それからの清は関東南部の柏や船橋の飛行場にいて、月二回の休暇には必ずわが家へ夕方に来て一泊して行つた。帝都防衛の戦闘隊だったのだろう。私たちが家族も、軍隊について尋ねることはしなかった。ただ、昭和十九年春頃に、「訓練中に部下の飛行機がキリもみ状態になったので、戻せるかなあと思つたけれど駄目で、どこに墜ちるか心配していたら印旛沼でよかった」と、清が母に一所懸命説明しているのを聞いたことがある程度だった。

しばらく平和な時が流れた。だが、昭和十九年十一

月からB 29の空襲が始まった。

師走の街で

清はその直前に最後の帰郷をした。

私は女学校五年生になった昭和十九年五月から、国

家総動員令により勤勞動員されて工場に行っていたので、帰宅はいつも午後五時過ぎだった。その年の師走には清は二度休暇でわが家に泊まりに来た。帰ると清が来ていて映画を観に行こうと誘われた。家で食事をしてから新宿へ映画を観に出かけた。その月には清と二度映画を一緒に観たが、当時の新宿はまだ盛り場ら



しく賑わっていた。

軍装で出かけるわけにもいかず、清は私の母が準備した父の着物に着替えた。ただ、一度目は黒足袋に下駄をはいて父のインパネスを着ていたが、二度目は飛行靴だった。私は内心、へ履き慣れた物の方がいいのかな〴〵と思ったのだが、わざわざ清に聞くことはしなかった。

新宿へは明治通りを十五分ほど歩けば着いたが、その頃の道は真つ暗で、たまに自動車が一台すつと通って行く程度だった。観た映画のことは何も覚えていないが、二度目の時、映画が終わると、清はまだ賑やかだった町の方へ歩き出した。どこへ行くのかと思いいながら歩いて行くと、なんと街頭の易者の所だった。易者は清を見るなり、「あなたは指導的な立場の人ですね」とズバリ指摘した。へ占いは当たるんだ〴〵と感心しながら、私は易者の机上の灯りに照らされている清の横顔を見つめていた。真つ暗な明治通りの帰り道、私の二、三歩先を歩く清が、時々振り返って私を見た。その目はとても寂しそうだたと、後々私は思い出した。

年が明けて昭和二十年一月、清は正月とその後に一度泊まりに来たが、二月になるともう泊まりがけの休暇など取れる状態ではなく、日帰りだった。ちやうど私が動員されていた工場が、それまでの赤羽から成増

に隣接する埼玉県の新倉（現在の和光市）に引越したため、二月一日から十日まで休みになった。

清は二月七日ごろの昼前に来て夕方帰って行った。私はこの時、母に教わりながら綿入れの半天を縫っていて、それが面白くて手を休めずにいた。何をしているのかと尋ねるので、私は「空襲で逃げる時に着るものを縫っているの」と答えると、清はとても寂しそうな顔をした。へああ空襲のことを言っではいけないのだ〴〵と気付いたが遅かった。そして、この日が清に会った最後になった。

私はその年二月二日に十七歳になったばかりで、ふつと心に湧いたことがあった。へもし清ちゃんがお嫁さんをもらったとして、私が彼の家に遊びに行ったらそのお嫁さんに誤解されるかもしれない。いやな顔をされると遊びに行けなくなる。そうしたら清ちゃんに会えなくなつて寂しいな。でも、いい考えがある。私が清ちゃんのお嫁さんになろう。そうすればずっと一緒にいられる。うん、いい考えだ。でも清ちゃんに「そんなことできないよ」と言われたらどうしよう。その時はその時だ……

私は勝手に一人で悦に入っていた。お嫁さんとは一緒にいて、掃除、洗濯、炊事することだと思つていた奥手の私だった。

悲しい知らせ

この頃夫を亡くした姉は熱を出し家に帰っていた。休みも終わり二月十一日から新倉の工場に通うようになった。十四日か十五日だったか、家に帰ると、「今日清ちゃんが見えたわよ」と母が言った。ついこの前、来たばかりなのに、と思いがながらも、へこの間あんな事を考えたから今日は会わなくてよかった。会ったらどんな顔をしたらよいかわからないので、今度会う時まで考えておこうと内心ほっとした。それからすぐに清からハガキが来た。

「昨日はいいませんでしたね。」

着物が早く出来上がりますますように

芳子さん（姉）早くよくなりますように。

清

私はすぐに返事を書いて翌朝、投函した。

着物が縫い上がったこと、姉は熱が下がったので自分の家に戻ったこと、工場は「電休日」にしか休まないこと、などを書いた。

するとこのハガキはすぐに戻って来た。

付箋（ふせん）が貼られ

「本人戦死につき返送す」と書かれていた。

工場から帰ると私の机上にこのハガキと写真が並べられ、線香の煙が上がっていた。母は何も言わなかった。二月の二十一日か二十二日ごろだった。

それ以降、家の中に寂しい空気が漂った。へみんなこの戦争で死んでいく。早いか遅いかだけなんだと皆思っていたのだ。いつどことも知れない清の戦死を口にする者はなかった。

静かな空襲

それはこの計報に先立つ二月十七日のことだった。

その日は何となく工場に行く気になれず、朝からぐずぐずしていた。工場の設備はまだ整っていないし、仕事もさほどなくて、出欠を取るだけなんだからなどと理屈をつけているうちに、遅刻する時間になってしまった。

とにかく出掛けることにして、池袋駅から東上線に乗るとラッシュ・アワーは過ぎて電車はがらがらだった。上板橋駅に差しかかるころに警戒警報が鳴った。私は同駅で思わず下車して、すぐに来た上り電車に乗り換え、家へ向かってしまった。新大久保駅に到着するころになると今度は空襲警報となり、けたたましく鳴り響くサイレンを聞きながら、商店の軒下に身を隠すようにしてわが家に戻った。家では母が瓶に入れた



米を搗いており（米は玄米が配給されたので白米に近い米にするため、一升瓶に米を入れ竹の棒で搗いて白くした）、空襲警報にもかかわらず敵機は現れず、静かな時が流れた。へこんな静かな空襲だったら、あのまま工場に行けばよかった」と思った。あの日はなぜか奇妙な一日として私の記憶に刻まれている。

翌日、工場に行くとき全体がガヤガヤとする異常な興奮状態に陥っていた。

「何かあったの？」と友達に聞くと、

「そうよ、昨日あそこで空中戦があったのよ。大きな

B 29に日の丸をつけた小さな戦闘機が向かって行ったのよ。キラキラ輝いてきれいだったわ」と東南の空を指した。一瞬、私は胸騒ぎがして、「怖くなかったの？」と問い返すと、「ずっと向こうだから怖くないのよ。みんな防空壕から出て、立ち上がって見ていたわ」。

「そう！ それでその飛行機どこへ行ったの？」と畳みかけると、「ずっと向こうの方にB 29を追って飛んで行ったわ」と、今度は南の空を指した。まさかこれが清の最後の戦闘だったとは……………」。

それから毎日毎に空襲もひどくなり、三月十日午前

零時過ぎから約二時間半、東京東部はB 29爆撃機二百八十機による空襲に遭って、強風の吹く中で大火災となり、一晩だけで十万人が亡くなった。この空襲で焼け出されて工場に来なくなったクラスメート、連夜の空襲を避けるため疎開するクラスメートと、櫛の歯が抜けるようになり、落ち着かないうちに三月二十五日の女学校の卒業式を迎えた。みんなもんぺ姿の記念写真になった。

卒業と同時に私は体がだるく微熱も出始め、引き続き行かねばならない工場にはもう行かなかった。

その頃、ラジオで毎日夕方六時から五分間、村岡花子（評論家、作家）さんの放送「子供新聞」があった。それを聞いていたら、

「川野清大尉は二月十七日成増上空にB 29を迎え撃ち、敵機を追ひ、横須賀海上に散華しました。B 29九機撃破の功によつて感状上聞（かんじょうじょうぶん）さんⅡ戦場での大手柄で指揮官から与えられた表彰状と、その写しが天皇のもとに届けられること」に達し、二階級特進（階級が二階級上がること）しました」と突然、アナウンスが流れた。

新倉の工場から、友達や工員たちが南の空に見いた空中戦の戦闘機は清だったのだ。私の頭の中で、二つの出来事がしつかり結びついた。あれから五十年、私はこの事を誰にも打ち明ける事は無かった。

平成八年二月十七日、動員先の現和光市駅に降り立ち、動員先のあたりより友達の手ざした方向を見て私は歌を詠んだ。

この空にB 29を迎え撃ち
それより還らぬ人のありたり

いま光ヶ丘昔成増飛行場とて
戦闘のありしこと知る人もなし

戦死なす二月まえに手相見に
易見てもらいたる何を思いし

黙々とただ黙々と前をゆき
ふり返る眼差しのさびしさ忘れず

横須賀の海に沈める飛行機あれば
浜辺にたたずみ花束を流す

寒くないかと問われて吾は大丈夫と
答えし一瞬より五十年経つ

（え・鹿目佳代子）

エッセイスト・クラブ

我が家の怪事件

長野県小県郡 花岡京子(50歳)

それは、今から十年も前の出来事になるが、娘が小学生だったころの二年間、隣近所二十五部ほどの新聞配達をやっていた時のことだ。最初は住宅地図を書いて慣れるまで親子で配った。一週間もたつと娘一人で配れるようになった。

数カ月後の六月の朝、玄関に一本の竹の子が置いてあった。地元で採れる真竹である。それから毎朝、一、二本必ず置いてある。一体だれが置いて行くのか、家族全員心当たりもなければ、誰一人竹の子を置いていく姿を目撃した者もない。そんな不思議なことが二週間も続いた。そうこうしているうちに、半年前に義父が他界したので、

「天国からじいちゃんが持って来てくれたのだ」となり、その竹の子は朝のみそ汁の具になったりしたが、皆、少々気味悪げに食べた。



そんなある日、娘が、「お母さん、誰にも言っちゃだめだよ。あの竹の子ね、私が置いたの!」

と言った。私は、びっくりしたが(なあんだ、あんだだったの)と内心安心もした。どうしてそんな事をしたのかというと、新聞を配りながら、道端に出ていた竹の子を折ってきて、何気なく玄関に置いたが、家族の話があまりに大きくなってしまい、あれは自分だと言えなくなつたらしい。

今年も又竹の子の採れる頃となつた。ふと、なつかしく思い出された。十年以上たつても、未だには赤ちゃんは、

「あの竹の子は、誰が持って来てくれたのかね」と言っている。そのはずである。娘と私のヒミツのことだから、誰も裏事情は知らない。

初夏の竹の子を見ると、小さかった娘の姿と、じいちゃんのがなつかしく思い出される。

小さな家族

熊本県八代郡

砂原富美子

五月の連休も過ぎた頃、学校帰りに拾ったと、白い子猫を次男が胸に抱いて帰ってきた。

小学校と自宅までの道のりは、十歳の次男でも一時間はかかる。途中で拾ったとしても、背中のランドセルとバスケットの部活用具のリュックは体にくいこむ。



次男が拾ってきた小猫

「よう子猫ば、抱いてこられたね」

私は次男から子猫を受けとると、そつとエプロンで包んだ。雨がポツポツふりはじめていたのか、次男も子猫も濡れている。バスオールドで次男の髪の毛をふきながら、幼い時に私もよく学校帰りに子猫を拾ったことを思い出した。

「お母さん、猫好き？」

次男が小さな声で聞く。私はうなずくと、

「じゃ、家においても良かよね」

「名前、あなたがつけなさい」

私はそう言うと、子猫を抱いて台所にいき、冷蔵庫から牛乳を出し、皿に入れて飲ませてみた。上手に飲めないで、スポイトで吸って口へ直接入れてみた。ゴクンと飲んだ。

「大丈夫だね」

心配そうな次男の顔に笑いもどった。

長男が幼稚園児の頃、子犬がほしいといったことがあった。まだ次男が歩き始めたばかりで、子育てに忙しくてペットの世話までやれる自信がなかった。いつの間にか長男は子犬がほしいとは言わなくなり、中学生になった今は、受験勉強に追われている。

「あれ、猫がおる。どうしたんや」

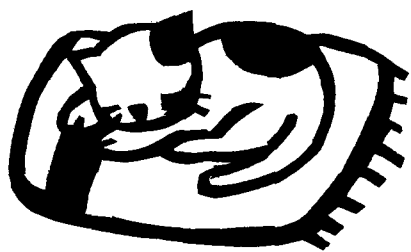
一番よろこんだのは長男かもしれない。私は思った。次男が拾ってきた子猫の存在は大きい。受験勉強

で神経がピリピリしていた長男も、子猫に接する時の笑顔は、幼い時の天使の顔そのもの。なんか胸の中がじーんと熱くなってくる気がした。

子猫を風呂に入れる役は長男がすると言う。朝の食事と夕方の牛乳は次男が与える。私は子猫に排便のしつけを教えないといけない。

公園に行き、少しばかりの砂をもらってきた。何度か、失敗しながらも、三日目にはちゃんと砂の上に排便をするようになった。

私は猫が好きだが、一度もペットとして一緒に暮らしたことがない。両親に反対されてあきらめるしかなかった。本当は私もほしかったのだが、いつの間にか



忘れてしまったのかもしれない。長男のように……。

子育てにもゆとりができ、子供達が学校へ行っている間は、子猫と過ごす。甘えてくるしぐさや、昼寝する子猫の寝顔を見ていると心がやすらいでくる。ペットの与える影響は想像以上のものかもしれない。

次男の宿題の日記にも子猫のことが書いてある。先生からのお便りも猫の話題でいっぱいだ。魚が嫌いだったのに、猫がおいしそうに魚を食べるので、僕も食えるという次男にせがまれてせっせと魚料理をあれこれと考えている。どこに行く時でもちよこちよこことついてくる子猫。一番手がかかるけど、可愛い三番目の子供みたいで、いつの間にかすっかり家族の一員になっている。

拾った時は手のひらに乗るくらいの小さな体だった子猫も、今は丸々とふとり、柱に登ったり、台所に出現するゴキブリをつかまえたりもする。昼間は寝てばかりいるが、夕方になると、どこかへ出かけていく。子猫の時期は人間の子供よりもずっと短い。可愛い子育ての時間が長くて、人間の親は感謝すべきなのかもしれない。子育ての時期はやはり黄金の日々なのだと思う。

いつの日か、長男の望みだった子犬をと考えている。次男よ。今度は、子犬を拾っておいでね。小さな家族、だけど大切な家族になるからね。

葬儀屋の涙

アメリカ・リトルロック市 伊藤琴子

「名古屋地方のお天気は快晴、気温は摂氏二十二度です」

パイロットがアナウンスする。私を乗せたジェット機の眼下にはとても美しい新緑の日本がある。

私は五月の日本が好きだ。暑くなく、寒くなく、湿度も低くしのぎやすい。日がだんだんとのびてきて、晴れたいいい天気の日が続く。空はそれこそスカイブルーの色をしている。日本の連休明け頃にアメリカの大学の春学期がちょうど終わるので、六月一日にサマースクールの始まるまでの二、三週間を私は気持ちのいい五月の日本で過ごすことにしている。

今回はいつもなら門のところで私の帰郷を迎えてくれる父がいなかった。私はとても不吉な予感を感じただけで、玄関までスーツケースを運んだ。

「ただいま、お父さんは？」

私が母に言った最初の言葉である。

「おかえりなさい。長い旅で疲れたでしょう。お父さんね。お通夜なの」

母は私にスリッパを出しながら言った。父は、私と



五つしか歳の違わない従姉のお通夜に行ったとのことだ。中学二年生の頃からの長い長い闘病生活の後、私が太平洋の上を飛んでいた頃に彼女は息をひきとった。明日がお葬式という。全く知らなかったことである。急にお葬式といっても、日本に住んでいない私には喪服も黒い靴もない。旅の疲れもなんのそので、母と近くのショッピングセンターへ行き一式揃えてもらった。

彼女のお葬式は岐阜県であり、近所の公民館で行なわれた。親族はもとより参列者全員が黒装束でなんか暗い感じが誇張されていた。アメリカのお葬式は主にキリスト教式だが、故人の通った教会やフューネラルホーム（お葬式専門会場）で行なわれるが、服の色は黒の他に濃い色、紺色、茶色、灰色ならばよいとされる。故人の死が神のところへ戻る祝うべきことと考える元カトリックの尼さんのマイヤー先生は、夫が亡くなり、彼女のお葬式で喪主の彼女は花柄のワンピースを着ていた。これにはびっくりしたけれど、日本の全員が黒というのなんか異様な気がした。

従姉のお葬式は臨済宗の禪式で行なわれた。アメリカのお葬式では、故人の好きだった讃美歌や、たまには流行歌なども歌われるが、明るい感じの音楽である。今回は仏式だったので、私は仏僧達の奏でるチン、ドン、シャン、チン、ドン、シャンの悲しい音を

他の親族と聞いた。長い間正座をしない生活をしてきたせいか、足がしびれちゃって泣きたい位だった。

葬儀の始まる前から葬儀屋さんはいろいろな気をきかせて、ざぶとんを配ったり、座る位置を決めたり忙しくしていた。式の次第は若い女性のアナウンスで進められ、彼女の他に指揮をとっていた二十代後半と思われるハンサムな男の人がいた。

お葬式という場ではあるのだけれど、独身の私の目は彼を追っていた。若いのにきびきびしていて、自信をもって事を行ない、はたから見ても、気持ちのよいフューネラル・ディレクターである。プロである。

「故人のお顔を拝見できるのはこれが最後です。皆さんもう一度前にどうぞ」

私たちは前へ進み、従姉の好きだった花やバナナやおまんじゅうをお棺に入れた。伯母と伯父は一番下の娘の顔や髪をさすり、とても名残り惜しそうだった。子どもの方が親より先に逝く逆縁である。八十歳を超えた親の悲しみ、つらさはわかり知れない。親族達どの人の目も涙でうるんでいた。

そして、例の若い男の目もそうであり、彼のほおには涙が流れていたのである。これに気がついたのは多分私だけなんだろうけれど、一体プロである彼が何故？ とても「やらせ」とは思えなかった。

人間が他の動物と異なるのは、言語を使い、相手の

立場に立ってものを考えたり、言ったりして行動する点にある。この日、彼が何を思い感じたかは、私の知る余地などないのだけれど、ただ仕事をして、てきぱきと動く葬儀屋さんの涙には心暖まるものがあつた。

イチゴが死んだ

東京都東大和市 長谷部治子(37歳)

十五歳を、イチゴ世代と呼んでいた時代があつた。

何故そう呼んでいたのか真意は分からないが、十五歳をイチゴと命名した世間の淡い期待が感傷でしかない事件が、起きた。私が十五歳のときだ。

「この子、あなたの学校の子じゃない？」

新聞を見ていた母の声である。中学の卒業式を終えた後の春休みだった。

一人の卒業生が、自殺したという記事が載っていた。

一度同じクラスになった子だった。成績が良く、性格も真面目で静かで、典型的な優等生だった。

動機は、親友と別々の高校になってしまったことを悲観したからだと言われてあつた。

焼身自殺という激しい死に方だった。燃えつきた灰の中には、二人で聞いたレコードもあったらしい。

正直言って、何を読んでいるのか分からなかった。

記事の内容より、何故彼女が「死」を選んだのか。親友と別々の高校になったことが、何故死の動機になるのか。

クラスの負け組の私には、勝ち組の彼女の心理を即座に掴むことが出来なかった。

中学を卒業した春休みだというのに、私は進路が決まっていなかった。入試をすっぽかしたからだ。

家を出たかった。母はせめて高校だけでもと、ありきたりに反対するだけで、進路についてのいざこざが年末から絶えなかった。

入試さえすっぽかせばこつちのものと、入試当日に試験場の学校へは行かず、冬の海を見に行った。

定時制の二、三校の願書を取りには行っていたが、就職先が決まっていなかった。

物心ついたところから、両親は不仲だった。家庭を顧みない夫へのうつぶんを、母は私にぶつけた。兄もいたが、標的は決まって私だった。

見ている方が気の毒になるほどの形相で、「口答えした」と言つては、私の全身を布団たたきで叩き、片腕を紫色のあざが残るぐらい噛んだ。団地に住んでいたの、声が住民に聞かれては困ると、泣き叫ぶ私の

口にタオルを押し込む。

そんな仕打ちの暮らしが尾を引いて、受験戦争の脱落者に自らなっていた。卒業したらこの団地を出よう。それだけを心の支えにして、暮らした。

娘の将来よりも、人一倍世間体を気にする母にとって、娘が中卒で働くということが、どれほどの落胆であつたか。失望であつたか。落胆させたくて、失望させたくて、家を出たところがある。

お葬式が行われたのは、小さな教会だった。彼女はクリスチャンの家庭に育つたのである。

安定した家庭で、新しい高校生活を送れる筈の人が、何故動機にもならない動機で死ななければならなかったのか？

彼女の成績なら、どの高校でも合格しただろう。レベルを上げるにしろ、下げるにしろ、親友と同じ高校



へ通うことなど彼女の實力なら、朝飯前だった筈だ。

それを阻んだものは何か？

憶測でしかないが、単純な進路の問題ではなく、クリスチャンという宗教的な要素が入ってきたら、価値観の一致した親の期待は不動のものだったろう。

親が与える幸福の中で生きてきた。クリスチャンの家庭に、努力して馴染もうとしていた。親の期待に応えてきた。応えることができた。

時間も空間も愛情も充分に与えられて尚、不服なのか。そう思うのは与えられなかった者の僻みでしかない。

彼女にとっての最大の敵は、与えられた幸福だった。親友一人、獲得出来ない幸福だったのである。

焼身自殺には、抗議の意味が、込められているという。生きている者への抗議である。

親友に、「一緒に死んでよ」と言えないまま、一人で死んだ。幸福に抗議して、死んだのである。

私があまり幸福というものに、貪欲になれないのは、彼女の死がトラウマになっているせいかもしれない。家庭の幸福に飢えていた私の思いは、彼女の突然の死によって、根底から否定されたからだ。

十五歳の春に、優等生は自殺し、劣等生は家を出た。

どちらも、親殺しの旅立ちだった。

いちご

東京都世田谷区 太田啓子(40歳)

朝、新聞を取りに外に出たら、手紙とともに、いちごの鉢植えが、置いてあった。

啓子様。

パパが大切にしていたいちごです。

一鉢どうぞ。

母より

近くに住む母が、持ってきたものだった。

達筆で書かれたその手紙を見たら、何やら切ない気

持ちになって、目がうるんでしまった。

父は存命中、喜多見に世田谷区の農園を借りていた。私も、二、三度お供したことがあったが、夏にはキュウリやナス、ミニトマトなどを育てていた。喜多見までは、電車で七駅ある。しばらく行かずにいると、キュウリなど、ヘチマかと思うほど大きく育ってしまうこともあった。そんなキュウリや、うれたミニトマトなどを、よくもらった。

そのいちごは、がんにおかされた父の体調が、かなり悪くなってきた頃植えたものだった。父は、体の自由がだんだんきかなくなっていくのを感じ、自宅でのいちごの世話をしたいと思うようになったらしい。冬が来る前に、早くいちごを持って来なければと、ずいぶ



ん案じていたようだ。そして、母と二人で、やっとの思いで持ち帰ったのが、幾株かのいちごだった。

そんな事実があったことを、私はそのころ少しも知らなかった。もしかしたら、母から聞いていたのかもしれないが、父の体調の事で頭がいっぱいで、記憶に残らなかったのかもしれない。

そんないわく付きのいちごが、わが家にやってきたわけである。鉢植えには、赤くなりかけた小さいいちごが、三つ、なっていた。

五月の強い陽ざしをあびて、いちごはあつという間に真っ赤になった。でも、すぐにちぎってしまうには惜しくて、しばらくそのままにしておいた。それがいけなかったのだろう。熟しすぎたいちごを摘み取って口に入れると、ちよつとにがい味がした。もったいないことをしたと後悔した。でも、いちごの苗には、まだいくつかの小さい実がついていたから、今度はおいしいうちに食べようと、楽しみに待つことにした。

ちよつと小ぶりだが、形の良い二つの実が赤くなったのは、その週の金曜日だった。その日は生協の配達日で、同じ班のNさんが、娘のSちゃんといっしょにわが家に立ち寄った。すかさずSちゃんが、

「いちごだ!!」

といって、赤い実をつけたいちごの鉢をみつけ、小さく叫んだ。Nさんも、保育園年長のSちゃんも、いち

ごが実際になっっているのを見るのは、初めてだと言った。

「ちよつと待ってて」と、私は言い、家の中からキツチンバサミを持ってきた。

「Sちゃん、これでいちご取っていいよ」

そう言って、私がハサミをさし出すと、Sちゃんは、うれしそうにハサミを受けとり、二つの赤い実をていねいに摘んだ。先日のことがあるので、

「味は保証できないけど、お母さんと二人で食べてね」

と言うと、Sちゃんは小さな手のひらにいちごを大事そうに包むと、足どり軽く帰っていった。

夜、夫が帰ってきてからこの話をする、と、

「みんなに喜んでもらって、これでじいちゃんもうかばれるってもんだな」

と、らしからぬ事を言うので、思わず目頭が熱くなった。父が死んで二年半。父が守った小さな生命は、私達に希望と喜びを与えてくれたのだ。

「太田さん、いちごおいしかったよ」

と、次の週の金曜日、Sちゃんが知らせに来てくれた。なんだかとてもうれしくなって、来年は、もっとたくさんのおいちごを実らせるぞ、と心に決めた。

(え・小林正子)

宝島社文庫

環境保護運動は

どこが間違っているのか？

槌田 敦 著



槌田 敦 著
宝島社
本体457円+税

東京都新宿区

辻浦知津代

家庭から毎日出るゴミの分別はけっこう煩わしいものだ。でもこうして用途別に分けて出せば、やがて再生されて役立つのだからとせせと分別しているのだが、心の隅ではこれではんとのリサイクルになっっているのかなーという疑問がいつもひっかかっていた。

そんな中でたまたま見つけたのがこの本である。題名にひかれて早速

買ってみたが読んでびっくり。日頃私達が地球環境を少しでもよくしたいと行っているリサイクル運動について、筆者はどれもコストが合わず無駄なことだとバツサリ否定している。燃やせるものは燃やしてしまおう、生ゴミや糞尿は本来の自然の循環に任せればよい。但し近年はこの循環に任せられないものが増えてきた。つまりダイオキシンや有機水銀の類で、これは今のところ処理不能で捨てる場がない。科学技術で解決できるといふ専門家もいるが、そんな幻想は捨てて塩素系の製品は一切作らせないよう皆で企業や国に働きかけるべきだ、と主張している。

さらに筆者は、石油を燃やして炭酸ガスが増えると地球が温暖化し、やがて南極の水が溶けるといふ説は

ウソ、原子力発電だって火力発電と同じ位の石油を燃やしている、太陽光や風力による発電も開発されているが、石油に勝るエネルギーはない、と断言するのである。

常識と思われていたことがこうして次々に覆されると、頭が混乱してくるが、次第になるほどと頷くことが多くなってきた。やや現実離れの理想論も見えるけど、これからの環境問題を考える上での方向が見えてきたように思う。

槌田氏のこのエントロピー説は今や世界的にも通用している学説とのこと。なおこの本は七年前に宝島社から同名の単行本で出たものに、増補改訂を加えてこの三月に文庫本として発行されたものである。いろいろと学ぶことの多い一冊だ。

再就職

私の場合

川崎市川崎区 滝沢恵子（44歳）

原田さんと田中さんの対談を楽しく読んだ。ほんとに笑顔で読むことができた。人それぞれ、いいんじゃないの、その人が満足していれば、って思っている。

たぶん十年前の私なら考えもしなかったことだろう。働けて、何の資格も持たない主婦が、しかも三人の子どもをかかえた主婦が、どうやって働けばいいのサ、と毒づいていたと思う。十年前の私と同じ思いをお持ちの方々に、私が歩んできたこの十年をお知らせしようと思う。

社会に出る足がかりにでもなってくれればと願いつつ。

パートのおばさんからの出発

税理士事務所に勤めて六年半が過ぎた。給料はそこそこだが、三十代半ばからの、しかも専業主婦からの転身としてはまずまずだと思っている。

高校を卒業して大手企業にOLとして勤め、何の疑問もいдаかずし寿退社をし結婚、三人の子の出産、そして育児。

公園で子どもを遊ばせながらの井戸端会議も、託児付きのフォーラムや婦人学級への参加も、それなりに楽しくて、専業主婦という立場には何の不満もなかった。

そんな私が働き出したきっかけは、三歳になったばかりの末娘をどうしても保育園に入れたかったからである（どうして保育園かという話は、また別の機会にしたいと思う）。

三十四歳の春、近所の小さな町工場で、私は「パートのおばさん」の仲間入りをした。朝九時から夕方四時ま

で。仕事は電気部品のはんだ付け。最初はなかなかコツがつかめず四苦八苦したが、一カ月もすれば手が自然に動いてくれるようになり、並んで作業をしているパートさんたちと世間話に花が咲いた。井戸端会議の場所が公園から工場へ移ったといった感じであった。

内職に毛の生えたような仕事ではあったが、自分で働いて得た「お金」はうれしかった。今日はお母さんがおごるから焼肉食べに行こう、そう言えることが誇らしくもあった。

勤め先はちょうど家と小学校との中間地点で、子どもたちはよくカギを忘れたとか、友だちと出かけるからお小遣いちょうだいとか、言いつつ会社にやって来た。私は子どもたちに、何かあったらいつでも来ていいし、電話もかけていいと言っておいた。困った時に駆け込める場所を作っておかないと、子どもは不安になってしまう。上司に注意されたら、私が頭を下げればすむことだ。

一年を過ぎる頃、事務職の若い女性が退社したので事務を手伝ってほしいと言われ、営業の事務部門に廻された。この時点で勤務時間は九時から五時までとなった。

親会社から送られてくる注文書をパソコンに入力し（私はこの時、生まれて初めてパソコンにさわった）、製造伝票を作って工場に製作手配をし、完成した製品を確認して、納期に合わせて納品伝票を書いて営業の男性に手渡す。これが仕事の流れで、トラブルがなければごく簡単な仕事である。だが零細企業ゆえそううまくはいかない。

「どうしても明日までに〇〇を百個作ってくれ」と注文がくれば、製造伝票を作って製造部長に頭を下げに行かねばならないし、「不良が出たから今日じゅうに代品を持って来てくれ」と言われれば、私も製作に加わり、代品を茅ヶ崎の親会社に持参する。電話や来客の応対、取引先からのクレームの処理、その他雑用に追われ、一日はあつという間に過ぎ保育園に娘を迎え

に行く頃にはヘトヘトになっていた。

娘が水ぼうそうにかかり、一週間休んで出社した時は、机の上に仕事如山積みになっていたのを見て茫然としてしまった。すぐ後ろでおしゃべりに興じている若い正社員の事務の女の子に、私は心の中で悪態をついていた。

「私はパートなのよ。私はあんたの倍の仕事をして、給料はあんたの半分のよ」と。

時給六百八十円で続ける仕事じゃないと、娘が保育園を卒園すると同時にそこを辞めた。

だが、働くことの楽しさを知った私は、もとの専業主婦にもどることなどもう考えもしなかった。

資格取得をめざして

もともと、あまり人と接することが得意ではないほうなので、その会社にいる時から、もしかしたら私には営業より経理のほうが合っているかもしれないと思っていた。そこで、簿記の資

格を取るために、公立の職業専門学校
のビジネス経理科を受けてみることに
した。

授業料はタダ、おまけに失業保険ま
でもらえるとあって、十五人の定員の
ところへ七十人もの応募があり、九九

パーセントはあきらめていた。

もし運よく合格したとしても、その
年小学校に入学する末娘に、学童保育
の入所許可が下りなければ通学するこ
とは無理なわけだ。申込者の半分は待
機になるとうわさされていた年だった



だけに、私がそこへ通えるのは宝くじ
に当たるのと同じようなものであった。
運よく、ほんとうに運よく、三月の
下旬に専門学校の合格通知と、学童保
育の入所許可通知をほぼ同時に受け取
ることができ、さすがの私もこの時だ
けは、神様を信じてみる気になった。
三十七歳の春に私はまた学生になっ
たのだ。

通学に一時間かかるので、朝は子ど
もたちより早く家を出る。忘れ物はな
いか、家のカギは持ったか、帰宅後
のおやつの準備などなど、朝は戦いだっ
た。今みたいに携帯電話やポケベルを
誰でもが持ち歩く時代ではなく、一歩
家を出れば夕方まで子どもとの連絡は
とれない。子どもたちとのコミュニ
ケーションと段取りが、いちばんの大
仕事であった。

八時五十分から四時三十分までの授
業、そしてそうじ当番。体育の授業や
レクリエーション、校外授業まであ
り、十代から五十代までの十四人のク
ラスメイトたちと、再び訪れた「学生

気分」を私は目いっぱい楽しんだ。失業保険給付のおまけつきで。

ここに通った半年間の間に、日商簿記の二級までを取得し、社会保険のこと、税務手続きのこと、パソコンの操作などを一通り習得した。

ついに正社員に

専門学校終了と同時に求職活動に入り、今の事務所に就職。子どもがいるためいつ休んでもいいようにと、とりあえず時給千円のパートからスタートして、有給休暇がついたところで正社員になった。

やはり経理の仕事は私に合っていたらしく、十円、二十円の誤差の原因を探すような仕事も苦にはならなかった。勤め出して二年を過ぎた頃、それまで漠然と考えていた離婚を、私は本気で考えるようになっていた。

そうなると当然、持続した定収入を得なくてはならない。簿記の二級位なら誰でも持っている。今の事務所の所



長は七十歳に近く、自分が仕事ができなくなったら事務所を閉めると言っている。そうなると私は、また一から職場探しをしなければならぬ。いくら経理の経験が少しあるとはいえ、四十歳を過ぎた子持ちの主婦が働ける場合など、そう数あるものではない。

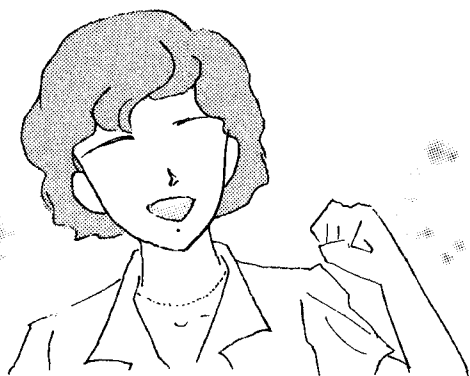
そこで、より確かな資格として、日

商簿記の一級に挑戦してみることにした。末娘も学童保育を終了する時期にさしかかっていたため、姉妹でなら留守番も可能だろうと、子どもによりかかって再度のチャレンジを始めた。

仕事が終わってから週二回、六時から九時半までと、日曜の十時から五時までの週四コマの専門学校での授業、そしてフルタイムの仕事、家事、育児との四輪駆動は、今思えばとてもしんどかったが、二回目の受験で合格率一〇パーセントの壁を越えることができた。合格した月から給料も二万円アップした。

試験の一カ月前は、吉野家、コンビニ、モスバーガーなどなど、あらゆる調理済食品を利用し、物置き場と化していた娘の机を借りて、とにかく問題練習にはげんだ。

仕事を終えて帰宅して、毎日四、五時間は机に向かっていたと思う。最低限の家事しかやらず、目の色を変えて受験勉強をしている母親に、子どもたちは黙って協力してくれた。その支え



があつてこそその合格だったと思う。

そして今私は、所長にそのかされて、税理士試験のための勉強を始めている。先は見えないが、五十歳まで、マイペースで走ってみようかと思っている。

いつも困難な道を選ぶ私

四十四歳の今、何の資格も持たなかった私が三人の子どもたちとの生活を、つましいながらも何とか維持していけるのは、ダメでもともと、やれるだけやってみようという好奇心のせる業だったような気がする。

思えばこの十年間、どちらかの道を選ばなければならぬという場面で、私はつねに困難なほうを選んできた。何もしないでいて、その「しない」ことに対して後悔はしたくないとの一念からである。あの時こうしていたら良かったのに、と悔いるほど空しいことはない。そんな思いを過去にいく度重ねてきたことか。

時は取りもどせない。同じ悔いながら、やってみて失敗したことを悔いたい。できるだけのことはした、でもダメだった、だから明日から別の道を探そう。そう納得したい。

最近友人にこう言われた。

「あなたはわがままよ。世の中には離婚したくても、経済的な理由でひたすらがまんしている人がたくさんいるんだから」

働くか働かないか、選ぶのは個人の自由である。

でも変だな、と思う。なぜいつも、女だけがそういう立場に立たされるのだろう。男は働くことが当たり前だ。

私は仕事を持ってよかったと思っている。選択肢が広がった。それを娘たちにも伝えたい。だから毎日できるだけ楽しい顔をしていようと思う。

「あなたたちはかわいいよ。仕事も勉強も楽しいよ。ハッピー、ハッピー！」なんてね。

(え・田村幹代)

消費者運動・88年の歩み

野村かつ子 著



野村かつ子著
おもだかブックス
定価2500円

東京都日野市 十河温子

一九一〇年京都・西陣に生まれた野村かつ子さんは生涯を消費者・市民運動に捧げ、現在も国際消費者機構（IOCU）の名誉顧問、生活クラブ生協東京顧問を務められている。米寿を迎えられた今も講演、執筆、翻訳とその活動の迫力は衰えることがない。

著者は幼い頃より社会の不正義を見抜く感受性を持ち、姉の影響で受

けたキリスト教の教えから、社会の不条理に立ち向かうようになった。真実への探求心、嘘を見抜く洞察力、そしてそれを公言する行動力、その才能で「日本生活協同組合連合会」「婦人職業協会」「総評主婦の会」などの創設に尽力した。一九七五年には海外市民活動情報センターの代表となり、大竹財団の援助で「海外の市民活動」の情報誌を二十三年間九〇号まで発行した。

一九七一年には米国のラルフ・ネーダー氏を日本に招聘し、世界を視野に入れた活動は韓国の「イルガ賞」、もう一つのノーベル賞といわれる「ライト・ライブリフッド賞」などの受賞で評価されている。

数々の賞を受賞し、多くの著書・論文・翻訳の業績にも関わらず、権力

や地位・名誉に固執しない生き方からは聖者に似た清らかさを感じる。

明治時代に生まれた一人の女性が、市民運動家としてどのように考え生きてきたか。消費者・社会運動に興味がない方でもそれを知ること、文明の行き着くところまで来た現代において、なお人権侵害・貧困・飢餓に苦しむ人々がいる現実を前にして、私たちはどのように生きていったらいいかを考えるきっかけとなるであろう。これは著者のたつての願いでもある。

巻末の写真集「あの日あの頃」はその時代を知る貴重な資料である。書店では販売されていない。購入申し込みは、おもだかブックスまで。

電話・ファックス

〇四二―三六八―〇二二二

家族の スケッチ

人生二人三脚

横浜市緑区 二田サキ(63歳)

弟は警視庁の試験に合格し昭和三十二年の春、十八歳で単身上京することになった。何しろ東京に来たのは初めてで、誰一人身よりもなく非常に心細かったのである。夜汽車にゆられてようやく東京駅に着いた。その時背後からいきなり「兄ちゃん、仕事捜すならお世話しようか」と言われた。

危ない危ない、どんな誘惑の手がのびるか分らないと思った。

その翌日警察学校に入学した。学校生活は一年間だが、その訓練の厳しき、夜中の点呼、睡眠時間の少なさ、まずい食事等々、何度逃げ出そうと思った事か。でもここで負けたら、この先何をやっても辛抱しきれないかも知れないと、自分で自分を勇気づけて、何とか警察学校を卒業する事が出来た。

この時点からお巡りさん一年生である。新品の制服を身につけ、先ず交通

整理から始まった。そして巡査生活をしてながら夜間大学で学び、結婚もして卒業と同時に女兒をもうけた。それからである、親となったからにはぼさっとしてはいられないと思い、初めて刑事部長の試験に挑戦する気になったのは。

先ずその手始めに、その日の仕事が終ると「〇〇時に帰る」と家に電話を入れる。すると義妹(弟の妻)が食事の支度、風呂の支度と用意万端整えて待っている。そこに帰宅し二十分で風呂、二十分で食事をすませ、一人部屋にとじこもり、夜明け近くまで勉強に励む。そして翌日も出勤という生活を一年近く続け、試験にのぞんだのである。終ってほっとした生活にもどり試験の結果の出るのを待った。

その時義妹は次の子を身ごもっていた。そんな或る日の早朝、弟が私の住居にさっと現われ、「姉ちゃん、俺部長試験に一万五百人の受験者の中トップで受かったよ。そして昨日双子の男の子が産まれたよ」と言っていて嬉

しそうだった。こうして弟は家族を養うために頑張らねばとますます思うようになった。

そして警部補、警部、警視へと次々に昇進への階段を着実に昇って行った。その裏には力強い協力者がいた。それは義妹である。鑑識課長代理時代

の頃から、義妹の夫に対するあと押しは強烈だった。例えば弟が勤務を終えて帰宅し、風呂上がりの良い気分で炬燵に入り、晩酌をしながらくつろいでいる時、突然テレビに殺人事件の報道が生々しく映った。「どこの管轄だ」と言いながらテレビに見入った弟が



家族のスケッチ

「さあ大変、うちだ」と言っているところへ、もうけたたましく呼び出しの電話が鳴りひびく。そこで義妹が「貴方こちらにいらっしゃい」と言いながら、夫を風呂場に連れて行き、頭からざぶんと冷水をかけて酔をさますのである。「さあ出動だ」と事件現場の途中まで義妹が車で送り届ける。夫を迎えに来た部下の車に乗せるまで義妹が面倒をみた。こんな事は度々で、こうした義妹の協力に助けられながら、次々に事件を解決していった。

又捜査隊長時代、部下の柔道の試合のあった時など、義妹が部下のために六十人分もの弁当を作ったのも度々だったという。義妹が「大勢の弁当作りや、来客の料理作りにはなれているけど、六十人分の揚物をした時には、さすがの私も、むせて気分が悪くなったわ」と言っていた。

このようにして弟と義妹は共にしっかりと信じ合い、助け合って二人三脚で良い仕事をし続けていった。警視庁の仕事の最後は北沢警察署の署長で



あった。厳しい職務を果たし、昨年めでたく定年退職を迎えた。

夫婦は他人

東京都板橋区 山本雅子

結婚歴四十二年、共に苦勞してようやく一息ついた夫婦の会話です。

「俺が死んだら、浄土真宗で葬式出してくれよ」

「わかったわ。だけどどうして？」

「うちのお宗旨は浄土真宗だから、同じ宗旨の葬式でないと、あの世へ行つて、両親や兄弟に会えないのじゃないかと思つてさ」

「ああそう。私はどうなるの。あの世とやらに行つて、又涙のしゅうと、姑づとめをするわけ？」

——しばらく無言——

「死ぬ時には、誰かが迎えに来るといふだろう。俺はきつと両親が迎えに来ってくれると思うんだ」

「私のところにもそれじゃあ、私の両親が来るでしょうよ。あなたの両親は絶対に来るわけないもんね」

老いの地獄を目の前に行っているのに、そこはスーッと通りぬけて、幸せボケした男のご託宣。腹が立つて、山本家のお墓になんか絶対入るものかと決心し、それでも離婚するエネルギーもなく、二階と階下に別れて暮らしているこの頃です。

(え・荒井知恵)

おすすめの**一冊**

愛とけじめのしつけ講座

ちゃんと「がまん」のできる子に

NMS（ニュー・マザリングシステム）研究会 著



NMS研究会著
PHP研究所
本体1100円＋税

野本美希子

「がまん」ほど、若い人々から嫌われている言葉はないように思う。

その不人気な「がまん」をあえてタイトルに選んだこの著書は、現代社会の子育てにたいするひとつの挑戦である。

「がまん」は嫌なもの、ださいもの、無意味なものと思われているけれど、いま子どもたちにとって必要なのは、意味のある「がまん」を体

験すること。それによって子どもたちの生活ははるかに楽しくなるはずだ、とこの本は説く。

その気になればなんでも好きなのが手に入る「豊かな」社会。

子どもは生まれたときから、だっこを、オッパイを、甘いものを、公園での遊びを、早期教育をつぎ込まれ、子育てはわが子に物を、サービスを与えること、と錯覚している親も多い。こうした「がまん」に無縁の生活が、子どもをダメにしている現実をこの本は具体的に、鋭く指摘している。

三人目の子どもを生むと、一人ひとりの子に十分手をかけてやれないから、と三人目を諦める母親。子どもに「がまん」をさせることが、どれほど子どもの「生きる力」を伸ば

すかが分らなくなっているのである。こうして「がまん」が死語になった生活のなかで子どもは育っていく。

昔なら、おおぜいのきょうだいや友達との遊びのなかで、子どもは自然に「がまん」を身につけた。遊びのなかではいやなオニにもならなければならぬ。なのに現在は機械を相手のひとり遊び。物が豊富にあるだけでなく、子どもの自然な「がまん力」を培う機会が、生活のなかから徹底的になくなっている。

豊富な例をあげながら、「がまん力」のある子どもを育てるにはどうしたらいいのか、どこに親たちの盲点があるのかを的確に指摘してくれるこの一冊を、幼児を持つすべてのお母さんに読んでほしいと思う。

ワーキングライフ

ワーキングマザーの孤独

長野県長野市 井上麗奈

ある日妹が電話をかけてきて、

「お姉ちゃん会社辞めるんですかって聞かれたよ」という。私には全く身に覚えがないことだ。実は二人目の子供を妊娠、今年の秋から出産・育児休暇を取る予定なのだが、辞めるつもりなどさらさらない。上司は「それはよかった」という反応で、かえってだれも心配してくれないので拍子抜けし、「うちの会社も変わったものだ」と考えていたところだったのだが……。人のうわさは怖い。

私が身を置いているマスコミ業界は、表向きには男女平等といっている割には、人数の上では徹底的に男女アンバランスである。女性社員は全体の約一割程度。私が入社した十数年前には編集部門に女性が三人。「大部屋」と呼ばれるフロアを歩いている女性は私と庶務係一人というありさだった。

古い社屋で編集部門のあるフロアには女性トイレ

がないという事実は、いかにマスコミ業界が男社会だったかを象徴していると思う。男女雇用機会均等法ができて十年余り。いまだに子供を育てながら正社員として働き続けている女性は片手で余るほどしかない。

数少ない女性として結構寂しい思いをしてきた。相談できる女性の先輩はほとんどなく、日ごろのうさを晴らす同年代の女性の友達も社内にはいなかった。社外の友人はたくさんいたが、毎日おしゃべりできる訳もない。

しかし、若い時はそれなりに楽しかった。夜いつまでも仕事をしているのにぎやかだし、飲み会にもいくらでも付き合えた。

子供を持つてから、とたんに孤独感が強まった。同僚の大半は、家事・育児を奥さん任せにしているか、独身者。数は増えてきたとはいえ女性社員の大半はまだ独身か子供なしだ。

子供が熱を出したとか、こんなことができるようになったとか、今はこんなことが大変とか、会社で日常的な話題とするような雰囲気ではない。後輩の女性に話しても「大変ですね」で終わってしまう。仕事が終わると子供を迎えにくのにまっしぐらなのに、周囲は雑談したり、夜のお付き合いにいったり。マスコミ業界は人脈が勝負なので、そうした付

き合いだっけかなり大事なのだが、軒並み誘いを断って家へと向かうわが身が悲しくなる時もあるのだ。遠慮してか、だれも誘ってもくれなくなった。

という訳で、二人目の妊娠で、私がどれだけ不安を抱えているかなんて、だれも分からないだろうなあと思っている。通常の保育時間では足りないもので二重保育にならざるを得ないのだが、二人の子供を見てくれる人なんているだろうかとか、上の子供が小学校に行ったらどうなるのかとか、病気の時はどうしようとか……。

夫が深夜勤務であてにならず、子供二人を抱えて仕事を続けられるのだろうかという不安は常につきまとう。そこに「辞めるんだって」といううわさが別のところからも聞こえてきて、「だれか辞めさせ

たい人がいるんじゃないか」と疑心暗鬼になったりもする。

まあ、直接退職をほのめかされたり、いやみを言われたりすることがないだけ幸せなんだろう。そんなこと言われたら「マスコミの本音と建前はこんなに違います」って公表しちゃうもんね。

京都にて——自分探しの日々

京都市右京区 田村敦美

ビジネススーツを着て、まっすぐ前を向いて歩く



私。クライアントとの打合せをすませ、夕暮れせるオフィスへ足早に向かっている。

——そこで目が覚めた。

夫の突然の転勤で失職して十カ月、新しい土地での再出発はなかなか容易ではない。

やっと手に入れたやりがいのある仕事だった。転勤のだいたい一年前、企画会社が主催した能力開発セミナーに参加した。どういう訳か本部の人に気に入られ、「少しずつで良いから手伝っていただけませんか」と声をかけられた。

後日、上司におそろおそろ聞いてみた。「私のどこが採用の条件にあてはまったのでしょうか」。彼女は笑いながら言った。「運がよかったのよ。私も実はそうよ」

そこではイベント企画のサポート、イベントの実施、販促企画やセミナーの実施、チラシやマニュアル作りなどなど、何でもやらせてもらった。朝の五時半から働いた日もある。ほぼ毎週土曜日の午後はセミナーでつぶれた。丁度マスへのアプローチがすでに効果がなくなってきた時期である。ターゲットをしばったセールスプロモーションへの移行の時期だった。次々と持ち込まれる仕事に、夢中で働いていた。

「京都の夏は暑いよ」と脅されて、それでも期待



半分でやってきた。仕事への未練がなかった訳ではない。京都に行けば新しい出会いがあるのかな、と無理に思おうとした。たくさんの人と知り合うのを目標とし、年明けから仕事探しを本格的に始めた。ところが、である。私はすでに三十七歳、正社員の口はなかなか望めそうもなかった。パート、アルバイトも然り。あれこれと条件をつけると、もう選

扱の余地などなかった。

夫は涼しい顔である。「扶養を出してもらっちゃ困るから。子どものこともあるし」

今までも一〇三万円の枠の中で働いてきたのだが、私はそれに満足していたわけではない。

面接にも二度ほど出かけたが、思わしくなかった。前職にこだわるつもりは全くない。ただ、やるからには長続きする仕事であってほしかった。

新聞をスミからスミまで読み、役立ちそうな所を切り抜く。チラシを見て、一〇円二〇円のためにスーパーをはしごする。セミナーや交流会があると聞けば万障くりあわせて出かけていく。そんな生活も板についてきた。

たまに友人・知人経由で入る単発の仕事に全力を



ワーキングライフ

かたむける毎日。名刺を作り、「フリーなのでどんな仕事でもやります。ぜひ声をかけて」と配ってまわった。「ビジネスはスピードだから」とインターネットに続いてパソコン通信も始めた。

どうして働きたいのか、働くことによって将来はどんなゴールを目指すのか、十分考えたうえでの仕事探しである。とはいえ迷いだらけ。そんな自分を後押ししてくれる本に出会いたくて、図書館に通い、片っぱしから本を読んでいく。本の中のいろいろな言葉に励まされる毎日である。

ゼツタイ天職を見つげるんだから。再び走り出すその日まで、どんな自分になれるのかワクワクしながらすすすの悪くないかな、と思っている。

産婦人科女医の一例

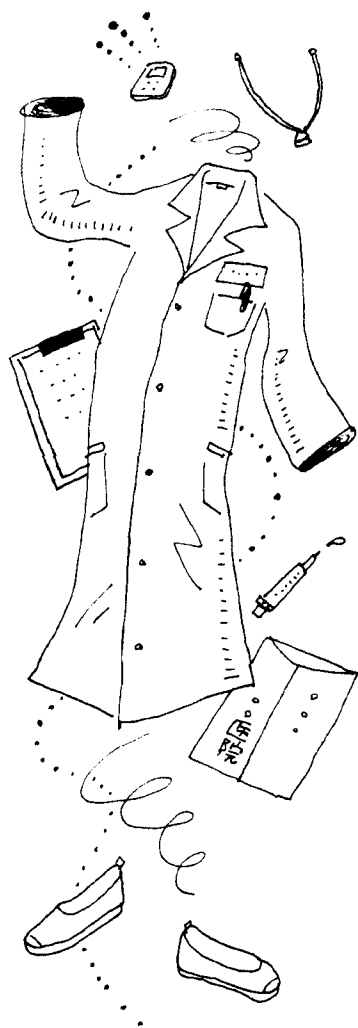
愛知県春日井市 小栗明子

昨年九月、父の急逝を機に実家の医院を継承することになった私は、卒後十二年目の駆け出し医師です。

医学部卒業後、四〇〇床ほどの病院で一年間各科

ローテート研修を終えたあと、産婦人科の門をたたくことにしました。決定のポイントは、女性というものを自分が気に入っていること、自分が女性であることを仕事に活かせること。色々ありましたが、この選択は間違っていないかったと今も思っています。実家は父が産婦人科を開業しており、大変なこととは子供のころから分かっていました。そして学生時代はけっして産科医にはなるまいぞ、と思っていたのですが、開業しなければ大丈夫かな、と考えたわけです。

さて産婦人科に入局した私は次の二年二カ月を、とある市民病院ですごしました。症例数はみっち



り、消化不良をおこしそうでした。三分もあれば帰れる部屋で時計をみて九時だと、ああ今日は早かったな、と思いました。ウィークデイの多くは深夜午前様、毎日拘束されました。毎日って、土日祝祭日も年末年始もですよ。帰宅しても、またベルで呼び返されるのでシャワーをあびるときも、ベルをユニットバスのそばにおいて鳴るのを聞き逃さないようにして、と、かなりハイテンションでした。常勤医が私を入れて三人でした。上司二人は男性でしたが、まったく泣き言を言われません。半人前の私を部下にして、かぜひく暇もありはしません。

結婚即妊娠を機に一旦常勤を退き、大学に籍をお

いて非常勤ばかりの医者生活を送ることになりました。四、五年後には、私は常勤に復帰しているだろう、研究するとしたら、今しかない、と思いました。子供は二人授かり（私は不妊治療に関係する医師の一人ですが、子供をつくる、つくる、というより「赤ちゃんが来てくれた」、「授かった」、という表現が大好きなのです）、それぞれ一歳まで授乳をし、それなりに忙しい暮らしでした。研究なんてせずに、ゆったりしたい気持ちもありました。でも常勤に戻ったら実験している時間なんて持てませんので、がんばることにしました。

医者としての現場の仕事（これを「臨床」という）は、なにしろ非常勤ですから、妊娠・子育て中でも無理なくできました。ポータスなろうと、健康保険証だしてくれなろうと、時間で帰れる。呼び返されない。病院をあとにしてからは、入院患者さんのことを忘れていても咎められない。これは何にもかえられない重要なことです。

下の子が一歳になると、産婦人科認定医の資格を得ていた私は、二〇〇床弱の総合病院に一人赴任しました。もともと、分娩を扱わない病院だったのでよかったです。これはいい勉強で、何人か医師のいる病院の部長の大変さがよくわかるようになりました。けちだけつけるのは簡単なんです。最高責任

者の立場にならないと、ひしひし胸にせまる重圧はわからないものかもしれません。

大学に近い病院でしたので、そこにいる間に大学へ通い追加実験をして、無事学位記を手にも今度は別の市民病院に転動しました。こども私を入れて常勤医三人。おわかりでしょうか、産婦人科医はなり手不足。日本中多くの病院（大学）が、人手不足の悪循環におちいっています。きついし、訴訟にあうし。

お産を薬で調整するので年末はがらんとしている、という病院（わいふ二七七号七〇ページ参照）に、私は出遭ったことがないけれど、そのような病院なら無理が少なく常勤できるかもしれないですね、フフフ……。

産科医であつた父は、私が大学にいたころから健康を害したため、入院（お産）を取り扱うのをやめました。外来クリニックに転身した医院を、私は昨秋、うけついたので。あと五年、総合病院で研鑽を積みたかたと思いましたが、現在の生活をまわしていくにはしんどすぎました。何事も潮時というのがあります。勤務とは別のストレスがある今ですが、これまでと変わらず仕事には誇りがあり、患者さんのことを愛しています。

（え・小沢恵子）

連載 変わりゆく中国④

中国人の思考回路

山梨県南都留郡

法村香音子

◇法村香音子略歴

一九三五年、旧満州新京市で生まれる。旧安東市究在満国民学校四年のときに終戦。敗戦後も父の仕事の関係で一家は中国に留め置かれ、国内戦争開始と同時に八路軍とともに各地を転戦。朝鮮戦争を目のあたりにして思春期を送り、中国人民大学を終えて一九五八年七月に帰国。一九六四年十一月より一九六六年三月まで、東京大学原子核研究所に勤務。定年退官直後の五月より、中国遼寧省の「日本語専」に赴任。同年十二月末に帰国。中国での体験が「八路軍とともに」という題で一九八六年二月より「わいふ」に連載された。これをまとめて「小さな長征（副題 子供が見た中国の内戦）」として八九年九月に社会思想社から出版されている。

鍵の束

中国では、鍵が掛かっていなければ、オープンンス
ペースと見なすらしい。

私は外出のとき以外はドアに鍵を掛けない主義で、
まだ蚊が出ないうちは、生徒や先生が気軽に訪ねてこ
られるようにと、ドアはいつもオープンにしていた。
生徒や先生はさすがに礼儀正しく、上品にドアを

ノックをするし、「見ても良いですか」と一応ことわ
りを言っ、ガラス戸棚を開けるようにしていたが、
不愉快で理解できないのは、見知らぬ人たちの動向で
あった。

学校を訪れてくる宇夫人の友人や生徒の親たちが、
私の部屋にそろりそろりと侵入してきて、まるでそこ
に私が存在しないかのように、勝手に寝室のドアを開
けて覗き込んだり、あれこれ批評しながら眺め回し
て、感心した表情だけを残して黙って出て行くのであ

る。

そんなことが度重なるので、「用がある人は、先ずノックを!」とドアに張り紙をしておいた。それでも、「このトイレ使えるのかね」などと侵入されて戸惑ったりするのである。

開いていれば入ってよい、鍵が掛かっていなければどこを開けて見ようと何を触ろうと勝手。そうされるのが不都合だったり嫌ならば、拒否の意思を示せばいいというのが中国式である。その意志を明確に示すものが、鍵、なのだ。

中国人の男性はどの人もみな腰にジャラジャラ鍵をつけているし、女性もポケットやバッグに大量の鍵を所持している。家の鍵、室内のあれこれの戸棚や引き出しの鍵、職場の机の幾つかの鍵などなど、だ。

大ざっぱな私は、邪魔な鍵をあんなにたくさん持ち歩くということよりも、様々な鍵を面倒くさがりもせずにあれでもないこれでもないかとやることに、ただただ感心するばかりであった。

中国流身内意識

また、親しい間柄になればなるほど、(なんでそんな考え方になるの)と呆れるような、次のように始末の悪いこともたびたび起きてくる。

「これを、誰それにあげて」と言うと、「これは何だ?」と開けて見ようとする。

「それは他人の物でしょう。あなたの物ではないのだから、開けてはいけないのよ」

と忠告すると「あの人にやる必要はない。これは私がいる」と言い出したりして、横取りすることもあるのだ。そのため、人伝で贈り物をする、目的の人に渡ったのかどうかはつきりしないということも起きてくる。

それに、贈り物をもらった人が礼を言って寄越すことは滅多にないので、本人に尋ねないかぎりそれがどうなったのか知りようがないのである。

中国では、他人または近しい人に限らず、「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉が発せられることはまずない。「受け取ってくれましたか」「ああ、受け取りました、受け取りました」と喜んで言うだけだ。

日本人の夫を持ち、日本に長年住んで就労しているという人でさえ、初対面の人の家にお呼ばれしたきりプツンということもざらで、次に会ったときにも「その節は」という言葉ひとつ聞くこともない。「ありがとう」を言わねばならないような他人じゃない、という発想からくるもので、その人が礼儀知らずというわけではないのである。余計な気を遣わないでいいし、中国流は面倒がなくていいと私は思うが、日本人

との感情のずれが起きるとすれば、すべてはここに端を発しているともてよいだろう。

日本語を勉強し、日本の習慣について多少なりとも知っていて、生徒を教える立場にある黄香でさえ、

「先生は、いつも、ありがとう、すみません、だね。わたしはやだよ」と文句を言う。

店先でつい口癖で「謝々（ありがとう）」と言うと、店員たちは「不客气（どういたしまして）」と返しながらも、「（こいつは何者だ？）というような目付きでまじまじと見たりする。でも行きつけになると、「還是日本人有礼貌有教養（日本人はやっぱり教養があるし礼儀正しい）」などと、仲間同士でうなづき交わしているところをみれば、彼らもそれが気分の良いことには違いないのだ。

身内意識が深まると、こんな不都合や困ったことも起きてくる。

「町に行くので、ついでに写真を出してきてやる」と申し出てくれるので、渡りに船と頼むと、次にはそれをちゃんと取ってきてくれもする。ところが、撮ったはずの数枚分が見当たらないということがままあるのだ。どうしたのだろうかと尋ねると、「自分のを取った。写っている人たちにも渡した。足りない分はもう焼き増しを頼んできた」と気を利かしたつもりでいたりする。



中国の地方都市のコンビニ。店員さん（写真右端）がお客さんについて回って監視するし、値段が高いたので利用する人は少ない。

資料に使うために人物を取り入れずに写真を撮るこ

ともあるし、たまたまカメラの持ち合わせがないときに、シャッターチャンスが訪れることもある。そんなときは人のを借りて撮ったりするし、他人から見れば目的不明な被写体があつたりする。ところが、写真屋に出しに行ったり取ってきてくれたりするのはいいが、撮ったはずのものが行方不明ということがあつたのだ。どうしたのかと調べてみると、ネガにはちゃんと写っている。写真屋のチョンボでボジがないのかと思つていたら、「あんなの意味ないから捨てた」という返事が返ってきたり、「あなたのカメラで撮った、あのフィルムを貸して」と頼んだら、もうどこかへいっちゃつたとシラツツとした顔をされたりする。

「あれは大事なものだつたのに」と文句を言つても、「じゃあ、また撮りに行きましょう」と、私と出歩くチャンスがまた来たと却つて嬉々としていて、意味が通じない。自分の尺度ですべてを計る彼や彼女たちには、まるで悪気がないから却つて始末が悪いのだ。

「これは勉強だから、子どもは参加できないのよ」

「あなたたちには、もうあげたでしょう、これは生徒たちの分よ」などと説明してやつても、黄香親子には通じなかった。なぜなら、「先生は、誰にとつてよりも、自分たちにもっとも親しい人だから」と権利優先、特権意識をもつて行動することが習慣になつてい

るからである。

公私混同は当たり前？

中国では一般的に公私混同をなんとも思わず、職場に子どもや家族を連れてきて遊ばせるなどは常識だから、航空券発売の窓口で保育園児のような幼児に、「いま係が戻ってくるから待っている」などと偉そうに言われたりすることだつてあるのだ。

東港の国营百貨店に、卓球のラケットを買いに行つたときのことだつた。

品数も少なく、商品のほとんどが埃をかぶっている店内には、まったく客の影もなかつた。いったいどうなっているものやら、どの売り場にも売り子が見当たらない。

売り場を探して二階に上がつて行くと、目当ての体育用品コーナーにも人がいない。奥を見たら、はるか離れたところでショーケースの一角に椅子を引き寄せ、子どもがトラランプに夢中になつていた。

私は売り場の前でしばし黙つて待つていたが、いっようにこちらに来ようとしなないのだ。

ついに業を煮やして大声で呼んだところ、真剣なゲームをやっているからか、なんと、ショーケースの上に顔半分も出ないような、小さな男の子を寄越した

のである。

その子は背伸びして後ろの棚からやつとのことで幾つかの箱を取り降ろすと、いっぱしの顔付きをして、（早く選べ）とばかりの態度で、私の前に並べてみせたのだった。

このとき私は、国营企業の絶望的状态を目の前に並べて見せられたような、腸が煮えくりかえるほどの怒りと顔色をなくするような絶望を感じたのだった。

（華やかで活気のある民営のデパートと比べて、まるでゴーストタウンのようなこの目も当てられない荒れようはどうだ！ できるだけ仕事をせずに食べていこうとする、その「鉄腕」体質の怠け心が、いま自分たちの生活を危うくしているというのに！ 埃だらけの棚を拭き掃除したり陳列ケースのガラスを磨いたり、中古のようになった商品をきれいにしたり蛍光灯を磨いたり、いくらでも仕事があるだろうが。そうすれば、沈没しかけた国营企業を立ち直らせることができるかもしれないのに）

国民がそれを明確に自覚するしかないのだが、こうした状態があまりに長年にわたりすぎ、あまりに根深くなりすぎたのだ。

私は一応彼に礼を言つて、つかつかと彼女らのところへ行くと、

「あんたたちのやっていることは、いったいなんな

の！ この恥知らず！」と日本語で怒鳴つて「你們真欠徳！ 太不礼貌！（この恥知らずの礼儀知らず）」と言ってやった。体格も良いが態度でもかいトランプ片手の三人が、口をあんぐり開けて、ぼんやりと私を見ていた。

時と場合によつて彼らには通じない日本語を使うのは、少しでも、（外国人に対して、これでは恥ずかしい）と思つてもらいたくてであつた。これは実は、日本に住んでいる中国人から拝借した方便であつた。

日本の不動産屋によれば、「外国人はお断わりという大家さんが多いなかで、珍しく外国人に好意的な物分かりの良い人がいるんだけど、中国人をアパートに入れたはいいが、無断で仲間を同居させたり、ゴミ出しの規則を守らなかつたりするので苦情を言うと、日本語が解らないふりをしてのらくりするんだつて。まったく狡い人たちだ、中国人は始末が悪いって困つてるよ」という。

それは狡いのではなくて、逞しくしたたかに生きるための知恵だと、彼らは言うだろう。

油断のできない「面従腹背」

戦後ずいぶん経ってから日本に引き揚げ、商社に席を置いて八年間も中国語の通訳をやっていた友人がい

丹東市街。旧住宅(写真手前)が次々に取り壊されて近代的建築物に建て替わりつつある。鴨緑江の向こうに北朝鮮の新義洲が眺められる。



大連にて。ビルの谷間を屎尿汲み取り車が行く。チャップン、チャップン、蓋もしていない。

る。彼は、中国の国内戦や朝鮮戦争にも参加した経験の持ち主だ。その人に今度の中国生活で出会った経験を話すと、彼はこう言った。

「そんな目に遭ってもまだ、中国が好きだと言い切るあんたが羨ましいよ。中国は、俺にとっても青春時代を過ごした思い出多い国だ。だから、中国が大好きだと言ってみたい。けれど、二十二年間の付き合いを通して、彼らのあまりのいい加減さや狡猾な面を散々見せつけられて、いまではすっかり中国人が嫌いになってしまった。

彼らの間では人間関係は複雑に絡み合い、表面では同調的な発言をしても、うっかり信用して内心をうちあけると裏をかかれる。中国には『面従腹背』という言葉があるが、彼らはまさしくそれだ。あの国はいまだに、笑顔で握手していても左手で背中を刺しかねない、油断できない三国志演義の時代とあまり変わっていないのだ。

中国を頭から信じているあなたには、何を言っても釈迦に説法だろう。けれど、これからもあちらで仕事をするつもりなら、もっと狡猾にならなければ駄目だ。そうしなきゃ、また辛い思いをさせられるのがオチだよ」

物事の善し悪しは何を基準になされるのかと非常に疑問に思うことを、それこそ数限りなく経験したため

に、悔しいけれどもいまは、（私は本当は中国を知らなかったのだ、彼の言うことはあながち根拠のないことではなかったのだ）と思わざるを得なくなっている。

都市と地方、そして人々の生活に貧困と裕福という格差が持ち込まれてくると、人心の荒廃はどんどん進んで行く。私はそれを目の当たりにしたのだ。

かつては、公園を散歩したり町をぶらついたりしているときに会えうお年寄り、なんだか郷愁さえ覚えるような物言いたげな優しい目付き、親しみのもてる顔付きをしていた。けれど最近、彼らまでが表情に余裕がなくなり、何かうまい儲け話はないかと脳味噌を捏ねくっているように思えてならないのである。

着任したばかりのころ、私は校長の兄さんであるその人のことがとても好きだった。布袋さんのように垂れた眉毛に長い毛が生えて、陽に焼けてシミの浮き出た顔に刻み込まれた深い皺。戦前苦しんだ分だけいま幸せだという顔をしていたから、その手を取って、（もつともつと幸せにね）とシワシワの手の甲をさすつたぐらいに、私の心は彼に近づいていた。それに、この年配の老人たちがいまも変わらずに着ている紺の中服と人民帽、これも私の好きなスタイルだった。

私と静かに杯を捧げあつて乾杯するたびに、「妹々」と優しい声で呼びかけてくれて、帽子のひさ

しの下の垂れ目が皺になってしまふ彼は七十二歳。暇な年寄りは、日がな一日玄関のポーチに腰掛けて、ニコニコしながら生徒たちを眺めていた。

ところがこのじいさん、私が行つて二、三日もすると私に気を許したのか、食事時になると、生徒たちの言動を遂一宇夫人に報告するようになったのである（もつとも、みんなが顔を揃えるのは食事のときしかないのだが）。

その告げ口の内容よりも、一点の悪びれたところのない口調で彼が夫人におもねるように喋り、酒を勧められてはまた喋るそのマが私を不愉快にし、せっかくの食事を不味くするのだった。密告は、彼の滞在中の好きなお酒と美味しい食事、そして田舎へ帰るときの手土産とお金を弾んでくれることへの期待、それへの見返りだったのだ。

温和で慈しみ深い老人、平気で生徒を売る老人、どちらも彼の本当の顔なのである。そして彼に「大爺、大爺」と親しげに声を掛ける生徒たちも、それを充分心得ているとは黄香の弁だ。

校長の孫

徐主任と黄香の間には研々という小学生の娘がいた。

尊敬し可愛がってもらえる祖父母や、誰にでも優しい朴訥な大伯父さん、そして教育者である父親の徐や最も愛する母親の黄香らのこうした言動、人間不信を生み出すこんな環境が、まだ年端のいかない子どもの研々に良い影響を及ぼすわけがなかった。

どんなことが大人たちを喜ばせ、どんなことをしたら彼らに気に入ってもらえるかを、子どもは幼いうちから肌で感じ取っているのである。校内に住んでいるため友だちもなく行くところとてないこの子は、ひとりであるいは黄香にくっついて、生徒たちの寝室や先生の部屋に年中出入りしていた。

生徒や先生たちは、校長一家のなかでは唯一の他人である黄香だけを信用している。黄香も自分の心の内を彼らに話す。研々に対しては幼いということに人は騙されやすいし、子どもだからと気を許す。ところが、大人の世界で成長した賢い彼女は、その実なんでも理解できる子だったから、彼女は愛する母親が不利になるようなことは決して言わないが、その他大勢は篩にかけて如何ようにも料理できるのである。

じいさんが、「……名前はしんねえが、こんなこんな様子の子だあ」などと言っていると、「あ、それは〇年の誰そのことよ」としたり顔で口を挟むのがこの小学生であった。

こんな行為を恥ずべきことと思わない大人たちは、



中国人は賭事、勝負事が大好きだ。コンクリートに石でマス目を描いて、石コロとヒマワリの種で頭の体操。

甘えた口調で子どもが口火を切ると、質問を繰り返して委細漏らさず聞き出そうとする。すると、子どもはますますあどけない顔で、おかつぱ頭を振り振りしやべり続けるという塩梅だ。その様子は、じいさんに劣らず醜いものであった。

あるとき研々は、親戚の子どもを使って自分の目的を果たそうとし、それが私に見破られたと知ると、言葉弄して上手にごまかそうとした。それを強く諫めたり、公私のけじめをつけさせようと対処したりしたので、私を敬遠するようになった。これで私から煩わしさが遠のいたものの、何を言い付けられるか知れたものではないのがこの子だった。

告げ口やえげつない噂話に私が不快感を抱いていることに、さすがに徐主任が気づいたらしかった。ある日、夫人や黄香が徐主任とまたしても生徒の恋愛疑惑についてやり取りを始めた。すると、私が難しい顔付きでご飯を食べているのに気がついたらしい彼が、口をつぐんで気まずい顔をして「子どもの前でこんな話は止そう」と母親を遮ったのだ。どんなに言い分があらうと親には決して逆らわない彼にしては、これは珍しいことであった。

彼のマージャン問題や彼の娘のこんな様子を、日頃から苦々しく思っていた私は、この夫婦に、「一日も早くここを出て、自分たちだけの住まいを持つべき

だ」と何度も進言していた。けれど、「自分たちもそうしたいのだが、父が許してくれない」と諦めが先行していたのである。

新学期からは一教室に五十人も押し込む状態になりながら、校長は学校内に自分の家族が何家族住もうと、他人には関係ないことだという態度をとり続けていたのだ。うがった見方をすれば、むしろこういった環境は、あどけないふりを装うことに長けた孫娘を小さなスパイにしたてて、学生寮や先生らの寝室に入入りさせ、学校管理に利用するのに都合がいいからだとも考えられた。

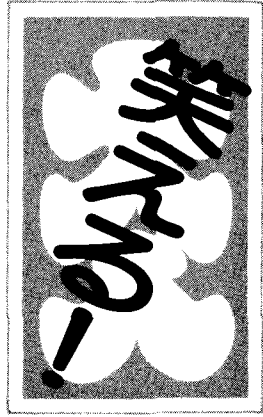
「先生、学校と通じている生徒も多いからね。生徒や先生を信用してはいけないよ」

私は黄香によくこう忠告された。特定の名前を幾つか挙げて。

日常茶飯事のこうした密告や裏切り。それは、「右派闘争」そして「文化大革命」と、疑心暗鬼の時代が長く続いたせいだという人もいる。でもそのせいだとしてもあれからも何年経っているのだ。やっぱりこれも、改革・開放中国が道徳、道義教育、人格形成を軽んじているため、と言えるのではないだろうか。

それとも「五千年の歴史」が培った習性なのだろうか……。

(続く)



怪獣ブースカ!?

神奈川県中郡 石井しのぶ(40歳)

夫はまだ四十二歳だというのに非常に物忘れが激しい。結婚したばかりの頃、すぐ約束を忘れる夫に不誠実さを感じていたが、このごろは「あつ、また忘れたな」と軽く考えられるようになった。

先日、何かの話の途中で私がふざけて夫に

「全く「グズラ」なんだから!」

と言ったら

「自分の亭主を「グズラ」呼ばわりする女

房がいるか。よし明日職場でみんなに言うてやろう」

と言うので大笑いになった。

それから何時間もたたないうちに、

「さっき何かおもしろい話があったな。そ

うだ亭主を「ブースカ」扱いしたんだ」

と言うので私は思わずふき出してしまった。

確かにグズラもブースカも子供の時見たテレビ番組の主人公にはちがいないが、どうして「ブースカ」になってしまったのだろう。夫は「本当に若年性の痴呆症だったらどうしよう」と心配しているが、大丈夫。本人は忘れてるようだけど、二十代の頃からずっとそうだったことを私は知っている。

(え・Jasmine)



笑える!

★わいふバックナンバー

257号 ああ、マンション暮らし!

258号 時事放談「私たちのゴミ問題」

259号 夫の過労死は他人ごとか?

260号 トラブル旅行記

261号 嫌われる姑・好かれる姑

263号 わが家の親子ゲンカ

264号 ふるさとの伝統行事

265号 私の初体験

269号 再就職で得た仕事・得られなかった仕事

272号 カウンセリング体験

273号 子どもとテレビ

274号 引越騒動

275号 料理と私

277号 不妊治療・私の場合

278号 おけいここととの格闘

自分にあった学校選びの決定版 私立高校ガイド

ハイスクールレポート (関東版)

年度版

一九〇〇円+税

シリーズ最後の暮らし

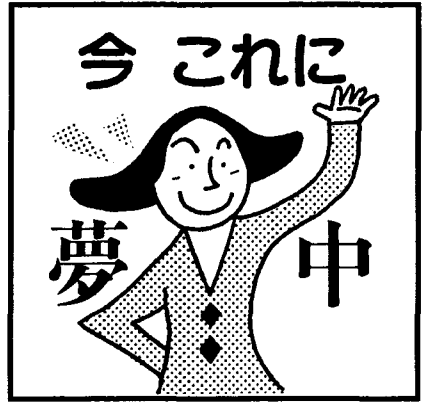
お年寄りが安全に暮らすために

一五〇〇円

変わる主婦 変わらない主婦

一五〇〇円

お申し込みは ☎〇三—三二六〇—四七七—



古典

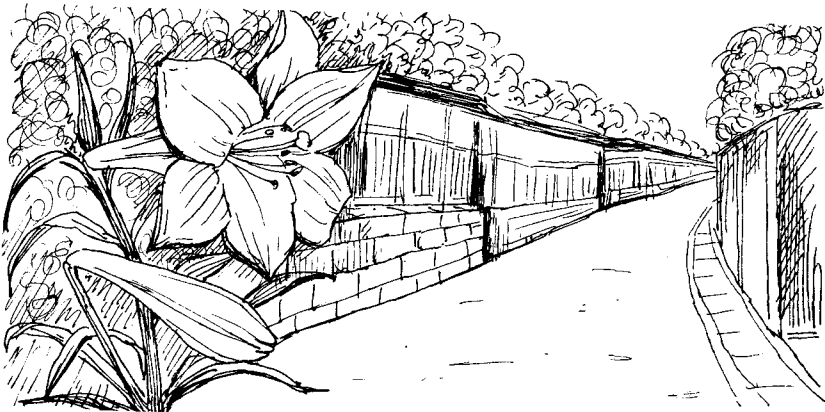
荒川美幸(32歳)

鎌倉へお寺散策に出かけたのは、深緑が一際眩しく輝くゴールデンウィークのこと。どこからともなく聞こえる鶯の声をバックに、鎌倉のお寺はひっそりとしかも厳かに佇んでいる。写真

的で人間味豊かな仏像彫刻。細かな木材を組み合わせて整然とした精巧な美を醸し出す建築物。それらを自分の目で見、肌で触れたりしながら、遙か遠い昔の人々が衣を翻らせこの鎌倉を闊歩する姿を想像した。すると私の目の前を通り過ぎていくあの人もこの人も、観光客みんなが鎌倉時代に生きていた人たちと重なって見えてきた。ああ、私たちは皆日本人なんだ、偉大な文化伝統を遺した古人の血を受け継いでいる真正正銘の日本人なんだ……。

私は自らの細い手首を頬に当てて、きざら筋のように張り巡らす血管の中の熱いざわめきを感じた。

「日本人」を意識した鎌倉散策の日々に、私は手当たり次第古典の本を収集し始めた。古人無くしてどうして今の私がこの世にあらうか。古人を知ることとは今人の当然の義務ではないのか、そう思ったのだ。『古事記』『萬葉集』『伊勢物語』『平家物語』『太平記』……。古人の残した優れた文学作品の多さに改めて驚いた。



有名な古典作品の触^{きふ}りの部分は中学や高校ですでに学習済みのはずだ。しかし不思議なことに、私の記憶の中には如何なる作品の件^{くだり}も印象に残っていない。怪奇複雑な文法中心の受験対策授業は、学生時代の私に古典の魅力、おもしろさを感じさせるものではなかった。却って古典への取つき難さや嫌悪だけを植え付けて終了した。古典を知らぬ私が短大へ進み文化史（日本史や世界史を学ぶ）を専攻したとは本当に恥ずかしい限りである。

そんな私が自発的に古典の本を手に取り鑑賞する、人間いつどこで変わる

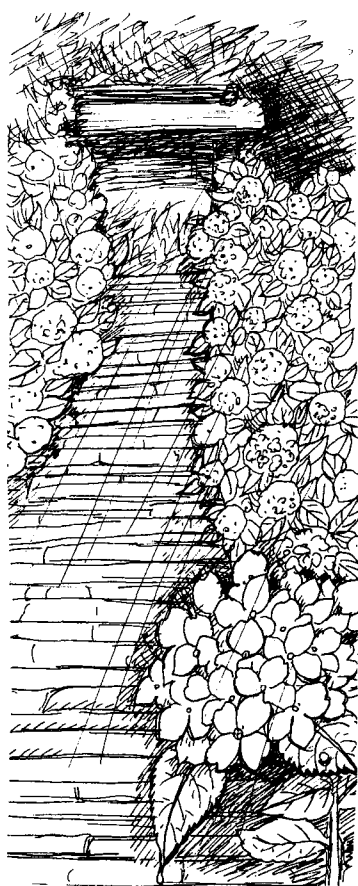
か分からないものだ。中間・期末テスト前日に、慌てて教科書の字面を覚えるいわば付け焼き刃式の学問と違い、今では古人の感性や思想、心情等を全身で受けとめ感動する余裕さえある。私も大人になったものだ！

収集した古典作品のうち、先ず『萬葉集』を開いてみた。一つ一つのセンテンスが短いので、容易に歌の意味を理解できるはずと思ったのだが、そう甘くはなかった。正直言って本を読み始めてしばらくは、古典のおもしろさを堪能するどころかまるで砂を噛むような心地であった。『万葉がな』を追

うだけで睡魔が襲ってくる。だが、解説や注釈を頼りに読み進めていくと、固く縛れ合った毛糸が少しずつ解れていくように、徐々に理解できるようになった。

時代がどれほど遡ろうが、美しい花を見て美しいと思う心、四季折々を愛でる心、人に恋い焦がれる心等々、古人も今人もなら変わりがない。いや、古人のこのような美意識や感情は、大切な民族の遺産として私たち現代日本人に脈々と受け継がれてきたものだ、そう言うべきかもしれない。

古典は辞書に勝るとも劣らない『言葉の泉』でもあり、『言葉の宝庫』でもある。常識という既成概念を超越した比喩や表現法、粹でユニークな形容法、そして夜空に広がる星屑の数さえ及ばぬ程豊富で美しい語彙。ただただ頭が下がる思いである。趣味で時々手紙やエッセイを書く私だが、もっと更に古典の世界に近づき、古典を最良の字引とし、センスある文章作りをしたいなど考えている。古典から取り入れ



た。ピリ辛のスパイスをほんのりと現代文に加えてみるのも斬新な料理方法としていけるはずだ。文章能力の更なる向上を目指したいのなら、古人の残してくれた古典の本を開くのが基本中の基本であるように思う。

今回、鎌倉のお寺散策が日本の古典を考える良いきっかけとなった。様々な古典文学を読破した暁には、京都や奈良へ出かけ古人の足取りを改めてじっくり辿ってみたい。

モニターマニアかしら？

東京都台東区 高梨陽子（56歳）

今年度は各種モニターの応募にチャレンジすることにした。新聞、都や区の広報紙などで募集記事を目にするのと、応募動機や抱負を百字ぐらい、ま

たは二百字ぐらい書いて投函した。「へたな鉄砲も数打ちや当たる」とばかりに手当たり次第に応募したのである。

年明け早々の国政モニターから始まり、都政・区政・消費生活（都・区）・水道局・下水道局・郵便局モニターへと続き、二月初旬ごろまでには八種類のモニターに申し込んだことになる。

三月下旬になると、応募結果が届くようになった。国政モニターだけは三月二十三日までに通知のない時は選考もれということであった。この選考方法は平成七年度国勢調査の男女別、職業別、年代別構成比により五百五十名を選定するという。職業別の主婦はいちばん競争率が高そうなので、ほぼ諦めていたとおりに通知が届かなかった。

都・区消費生活モニター、水道局モニターには選ばれたが、その他は残念ながら選考もれであった。結果は八戦して三勝五敗となったが、オマケがひとつあったのである。

そのオマケとは、区政モニターの選考もれの副産物であった。区政モニター結果がなかなか届かないので、ひよっとしたら郵便が迷子になってしまい、区役所に届いてないのでは？と心配していた。ところが、四月十一日の統一地方選挙投票所で広報課のモニター担当者に会ったので、確認したところ届いていると言う。現在、選考中とのことであった。

その十日後に結果が届き、選考にはもれたが、東京電力・上野支社のサービスモニターに推薦のオマケがついた。このモニター制度は一般公募はなく、広報課に推薦依頼があったそうである。これで四種のモニターを務めることになった。

郵便局のモニターは、閲覧板で上野郵便局の募集記事を見て応募した。定員は全国で三千名であり、男性千名、女性が二千名となっている。敗因を分析してみると、郵便局へは貯金ゼロ、保険加入もゼロという実績なし、このような状況で申し込むことはお門違い



のようであつた。

四月になってから東京都の広報紙で、教育モニターと女性財団モニターの募集を目にしたので、また早速に応募した。

教育モニターの結果は五月中旬に届

き、残念ながらダメであつた。定員百名のところ千七百名ぐらいの応募があつたそうであり、年齢・職業・作文などを考慮したという。

女性財団モニターの結果は六月初めに届いたが、やはり選考もれであつ

た。定員は男女五十名ずつだが、応募総数千三百四十一名（女性千二百二十三名、男性二百十八名）だったという。競争率が高かつたので、もれても当然のようである。

結果、十種類のモニターにチャレンジして、三種だけのオーケーでは三割の合格率であつた。五割ぐらいになると思つていたのは甘かつたようである。

水道・都の消費生活モニターの第一回説明会が行われたが、小さな子ども連れの若い人が多く出席していたのは驚いた。私が子育て中にはモニターをしようなどという余裕は全然なかつたので、時代が変わつていることを実感した次第である。

友人からは「モニターマニアというよりも、モニター荒らしじやないの?」といわれるが、今回の選考もれした国政、郵政、下水道モニターには、来年もチャレンジしようと燃えている。

(え・藤井恵子)

出会いと別れ——私の場合④

東京都北区 田沢 未実

隣家の折檻

その頃、私は隣の大家の家から毎日聞こえてくる子供を折檻する親の声と、子供のわめき声で特に苛立っていた。

隣のその子は小学校二、三年生の男児で、我々が引っ越しをしてきた年（一九七六年）の十二月、長男のおもちゃだったプラスチック製の自動車をこっそり持ち出し、町内の端にあった溝に捨てたところを見とがめられたこ

とがあり、「あの子はああして、この近所の小さい子のおもちゃを盗んで、あちこち捨てる子やから注意せなあかんで」と言われたことのある子だった。そのことがあつてから、大事なおもちゃは夜には玄関内に入れておくようにしていたが、それでも近所のうわさ話の種になる子であつた。自分より小さい子を溝や田んぼに突き落としたとか、新しいおもちゃを見ると必ず取り上げるとか……。

そして、なにかそれらしい町内の事

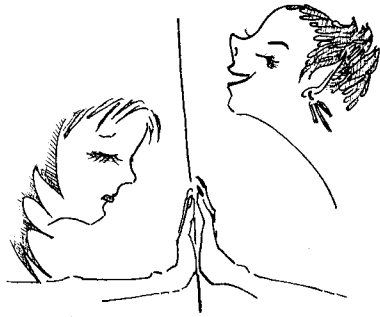
件が発生すると折檻が始まるのであつた。

我々が借りていた家の台所の窓が、大家宅のふろ場の焚き口にあるドアに向かい合っているためと、前回書いたように二軒の家の間隔が狭いために、まるで同じ家の中の声のように隣の声が筒抜けなのだった。

窓を開けている季節は、否応なく聞こえてくる。そこを退去する約四年後まで続いた。我々が去った後も続いたのであろう。

それはともかく、その折檻の声と物音は堪え難かった。時には私自身の幼い頃の、真つ暗な蔵にお仕置きとして閉じ込められた思い出が蘇り息が詰まった。

「今日もまた隣の折檻があったのよ。ああいうのはもう聞きたくない。この家から出ようよ」と何度も言ったが、夫はそれを直に聞いていないためか、私を感じていた気持ち（折檻から連想してしまう幼児期の悲しい気持ち）への落ち込みが、理解できなかったらし



い。

転居したいという私の希望は、「杜宅は勝手に変えられない」という理由でほとんど無視された。

その年だったか翌年の夏だったかもう忘れたが、なにしろ夏休みの真つ最中だったある日、朝八時頃から始まった子供のわめき声が夜十時頃まで続き、あまりに長く続くことと、その声の異様さにいたたまれなくなり家の中にいることができず外へ出たところ、一軒向こう隣の人も出てきており、思わずどうしてあんなに折檻するのかを聞いてしまった。

「あれはあの子がほんのこんまいころからやねん。ああやって折檻してんねん」と言っただけといきさつを話してくれた。が、それは私にとって逆効果となつてしまった。

というのは、その後、隣から折檻の物音や声が聞こえる度に、「母と子の関係」というものに思いを馳せている自分自身に、向き合うことになったからである。

私自身実の両親兄弟姉妹と暮らしたことがない。物心ついたときすでに他人に取り囲まれていた。

養母は養父の内妻で正式の夫婦ではなく、養父は一年の殆どを県都であるA市の妾宅を本拠として政治活動をしており、本宅のその家には減多に帰らないのだった。

養母は大酒飲みの女で、養女の私はその家の使用人に取り囲まれて育った。養母だった人とは、母と子の関係はついに最後まで成立しなかった。私は家出をすることでその関係を自ら終わらせたのである。

そういう成育環境を持っていた私の思いは、隣の親子のどなりわめき散らす声と共に鳴り響き、息苦しくなることがしばしばだった。

夫に何度「この家を出ようよ」と繰り返したとか。

「君は普通の家庭で育っていないからな」という夫の言葉も、出会った頃は慰めに聞こえたものの、二児を抱えた母親となった身には非難の言葉に聞こ



えるのであった。

確かに私は「家庭」とか「夫婦」とかを学習するチャンスに出会わなかった。それゆえにそういうものに対する「憧れ」の部分ばかりが大きかったともいえる。

子育てをしながら、自分がいい母親でありたいと望む気持ちと、実際の行動がそれとはまったく反対の情緒不安定な、変な母親であることの狭間でもがいていた。気持ちを素直にぶつける相手もなく、相談する人もなく、自分

勝手な思いつきの子育ての毎日であった。

次男の怪我

四月生まれの長男が満五歳直前、一九七九年四月やと幼稚園に入園させた。公園の遊び仲間と同じ私立幼稚園だったが、費用が生活費を圧迫し一年後に公立幼稚園に転園させる破目になった。ならば最初から公立にすればよいのにと思われるかも知れないが、

当時このT市の公立幼稚園は一年制だったので、二年間幼稚園に行かせたかった。後日転園させることになって後悔したが後の祭り。この子は、幼稚園、小学校、中学校、高校と、この後も転校を繰り返す運命になるがそれはまた後で書くことにする。

この頃二歳になった次男は、チョコマカ動き回るタイプの子で急に怪我が多くなった。満六歳までの間に何回か救急車のお世話になったものである。怖さを知らぬ無鉄砲なところがあり、一人でもどこへでも出かけてしまう子でもあった。二歳か三歳かの冬の午後だったと思う（セーターを着ていたから寒い頃だった）。顔をクシヤクシヤにして大泣きして帰った次男に「どうしたの?」と言う間もなく絶句してしまった。

首の後ろに溜った血のり!

落下したか転倒したか、頭の後ろからドクドクと血が出て襟首に溜っている。これが救急車のお世話になった最

初である。

二回目の怪我はやはり冬の夜で、こたつに入って晩酌の水割りでいい機嫌になっていた夫が、ふざけて飛びついてくる次男を何回目かにヒョイとよけたとたん、後ろの木製のロッカーにぶつ飛んでぶつかり、こめかみがパツクリ割れてしまったのである。

この時はタクシーでT市・市民病院救急窓口に連れていった。ショックと痛みで泣いていた次男は、折悪しく担当医が手術中とかで一時間以上も待たされ、夜の救急医療室の外のベンチで待っている間に眠り込んでしまった。

責任を感じたらしい夫もついてきたが、こちらは酒気のためにウトウト眠り始めていたし、長男は病院内をもの珍しげにアチコチ歩き回り、私は眠っている次男の傷口から染み出るリンパ液と血液を、ガーゼで押さえること以外どうすることもできずに見つめていた。時間の経過と共に傷からの出血は減っていたが、傷口は開いたままで身を切られるようにつらかった。医者は

なかなか来ないまま一時間以上待たされた。

夫は酒の臭いをさせて眠っていた。やっと医者がやって来て手術台に次男をのせたところには、長男も廊下のベンチで疲れ果てて眠っており、夜も更けた病院の廊下にいるのは私たち四人だけであった。

手術台の上で目が覚めた次男がまた泣き出した時、医者が「お父さんと呼んでチョットの間体を押さえてもらって、すぐ済むから」と言った。

起こされて入ってきた夫は、傷の縫合をする間次男の体を押さえる役目をおおせつかると「私はそういうのが苦手で……」とことわってしまった。

「じゃお母さん押さえていて」と言われ、しかたなく手術台上がり手足をバタつかないように子供の体を抱いた。傷口に麻酔注射をして二、三針縫合するだけの手当てであったが、この時の出来事が夫への軽蔑と怒りとなり気持ちの底に沈み込んだ。

(え・橋本美智子)

(続く)

専門の生命保険コンサルタントを派遣いたします。

(東京都内・近郊のみ)

お一人ではチョット心細い、
でも何人かいれば心強いあなた…
お友達・職場の仲間などどなたでも結構です。
3、4人でも何人でも
あなたのお宅に、あなたの職場に、お集まりください。
生命保険の専門家が皆さんの疑問にお応えいたします。

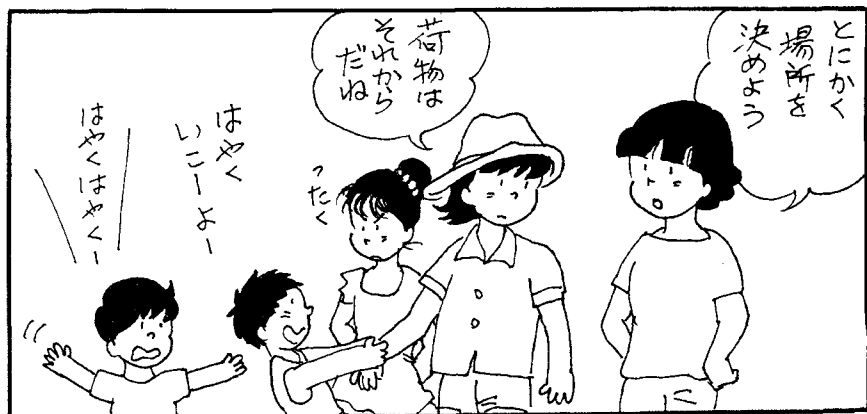


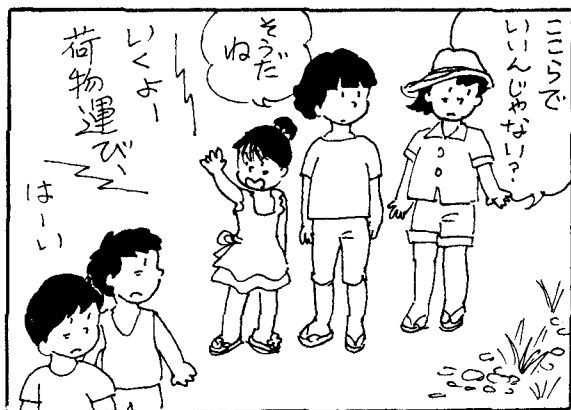
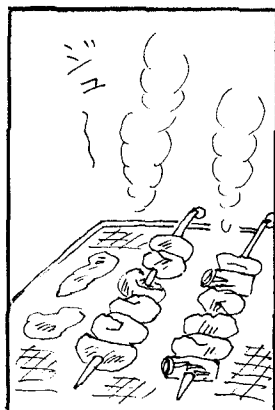
くわしくは「わいふ」あて 電話で資料請求してください

わいふ指定代理店 東京海上火災保険株式会社 東京海上あんしん生命保険㈱

杉本保険事務所 杉本侑子 ☎03-3260-4771

これが
子供の生きる道
 栗田 光









対談

現代離婚事情



円より子さん

円より子(まどか よりこ)

参議院議員・作家・現代家族問題研究会代表。ジャパントタイムズ勤務を経てフリージャーナリスト、作家として三十冊以上の本を上梓。テレビ出演、講演などでも活躍。

平成五年より参議院議員。現在民主党で政策調査会副会長・総務会総務などの要職につき、女性のために活躍している。

乗り換え離婚

和田 最近「わいふ」で、女性のほうに愛人ができて、そっちと結婚してしまったという「乗り換え離婚」が二人ほどありました。それがわりあい簡単に、あまり悩まないでパツとやったって感じがする。

円「乗り換え離婚」ですか、さすが和田さん、キャッチコピーをつくるのがうまい(笑)、なるほど。

和田 離婚もだいぶ内容が変わってきているんじゃないか。なかなか、新しい形が出てきたなと思いました。

五十代の人でも「ええ、離婚しました」って平気な顔をして「わいふ」へ来る。「いいんです。夫とはいっても暴力があつてイヤだから別れました」。で、「実家へ帰りました」と。

結局、実家の財産をもらって親の面倒をみるという事で帰ったのですね。

円 五十代でも? いくつ?

和田 五十代後半ですね。



和田好子

参議院議員

円より子

「わいふ」副編集長

和田好子

こういうケースが案外あるんじゃないか。つまり、実家の財産を女も相続できま
すので、それが一つの安全弁になって離婚
する、ということがあるんじゃないかと
思ったんですが、いかがでしょう？

円 うーん、確かにね。

離婚講座を開いて二十年になりますが、
むかしは妻の側に愛人がいるっていうのは
隠す人が多かった。年に関係なく。

でも話していると、いるなというのがす
ぐわかるのね。べつに言いたくなければわ
ざわざ聞きませんけど、私がそういうこと
を責めたりしないタイプだとわかると、じ
つはいるんです、とあとから言う。最初は
絶対に言わない。

ところが最近、こつちが聞きもしない
のにサッサと言うケースが増えてきた。罪
悪感がなくてアツケラカンとしている。

おっしゃるとおりです。

和田 やつぱり、そうですか。

円 ええ。変わってきていますね、そうい
うところは。

変わってきているといえば、このことだ
けじゃなくて、かつて、離婚は自分の人生
の辞書にないと思っていた人が多かった。
自分が選んだ人と結婚して子供まで生んだ
のに、自分の選択眼が間違っていた、離婚
を失敗だとらえて自分を責めるタイプが
けっこう多かったんですよ。

ところが今は、最初から離婚もありうる
と。人生の辞書にない、なんて人は少なくな
って、ありうるという前提から話をする
から、そんなに自分を責める方向へいかな
い。

もう一つの変化は、かつては本を読んで
どうすればいいか、法的な知識や手続きを
知ろうとすることすら、罪悪感から悪いと
思っている人が多かった。

今は、離婚するかどうか決めていないけ
ども、とにかくキチンと知識を得ておかな
くっちゃと、私の本などを読んで講座にい
らっしゃる方が増えてきた。権利意識が強

くなってきた。

根底にあるのは、離婚をして人生をやり直すことが悪いことではない、という意識です。それがとても強くなったんだと思います。

和田 大きな変化ですね。

円 そこからいろんなことが派生して出てきていますけどね。

和田 その二人は人生成功した、って感じですよ。

円 そうですか。成功というのは、どういう意味で？

和田 今までよりいい男が見つかったから。

一人からは詳しく話を聞いたんですが、夫と自分の勉強してきた中身が違っていて、理系と文系で全然話ができなくて、話がないのが当たり前だと思って長年暮らしていた。

子供はもう大きいんですよ、中学生くらい。そしたら突然、インターネットで知り合った男性と話をしたら、趣味も何もかも同じで話ができる。それで乗り換えたのです。

円 インターネット上からしょっちゅう会

うようになつて……、面白いですね。

和田 彼女は一週間に一度、夫のいない間に家へ帰って子供とコミュニケーションをとっている。

円 まだ離婚はしていないわけ？

和田 していない。彼女はしたいけれども夫が承知しないという段階。

円 そういうケースはけっこう前からありましたよ。昔でいうと、男に狂って、みないな。子供のことも何も考えずにとにかく家を出ちゃってご飯をつくりに帰ってくる。けっこうたくさんいますよ。あまり変わらないような気がする。

和田 彼女の場合は、男に狂って、という感じではないですけどね。

円 狂って、という言い方、カッコつきにしておかないといけないけど、世間がそういう言い方をする。私が言っているんじゃない。

和田 彼女の場合は、男に狂って、という感じではないですけどね。

自分を生かせない 女性たち

和田 このごろ離婚がとても増えています

が、いろいろお気づきになったことをお話しただけですか。罪悪感がない、というのは本当にそうですよね。

円 それがいいことか悪いことかわからないんですが、今のようケースをみていると。

一つには、そういうケースが出てくる土壌がある。

平均寿命が伸びて、ライフサイクルがまるで変わってしまった。二十年も伸びたにもかかわらず晩婚化もすすんでいますけれども、独身時代がわりと少なくて、ほとんどが結婚生活なんです。

子供が一、二人ですから、子育て期間が非常に短くなって、子育て後の夫婦二人だけの人生というのが、今までにないほど長くなった。

それなのに、性別役割分業はますます固定化されている。女性がフルタイムで働き続けて、ある程度の地位や責任を持つという状況になかなかすすんでいかない。

女性が子育て後の期間を持て余す、という状況がおきている。それは夫婦でどう生きるかという問題です。



モデルがないことも一因ですが、その準備をしないまま子育て後の期間に突入してしまった。

現在五十代後半の人たちが、本来だった仕事もしながら子供を育て、夫と向きあひながら自分の世界がきちんとあったものが今はない。恋愛とか、男狂いなんてヘンな言い方ですけれども、そっちにしかエネルギを費やせなくなっている。

それが離婚の、一つの大きな原因になっていると思いますね。

ある意味では夫以外の人を好きになった

り、価値観のあう人を見つけたりすることはとてもいいことかもしれませんが、もしかしたら、別の見つけ方もあったかもしれない。それはよく思います。

大きな時代の波に翻弄されているのかもしれないって気はします。

そのことに気がついた人ほど、子育てだけに埋没しないで、夫婦の関係だけに埋没しないで、自分自身の世界を子供が生まれたところから見つけている。

疑念を持たずに生きてきた人が今大変で、**「乗り換え離婚」**みたいな形になりやすいと思いますね。

離婚講座が始まったところは、やはり夫婦は愛情と信頼関係が第一だから、エコノミックアニマルにならずに、人間関係があつてこそその会社であり仕事であると考えてほしいという女性と、仕事優先で食べていけてこそその家庭なんだ、という男性とのギャップがとても大きかった。

くれない族、何もしてくれない、会話のない夫婦じゃイヤだという時期がありましたよね。で、今はまた違ってきている。

男たちもそれには気がついて、夫婦の関

係を大事にしたいとか、仕事よりも家庭や地域をと思っているにもかかわらず、やはり女性は従の立場で、自分を生かせる世界がなかった。

自分を生かしきれなかった女性たちが、仕事とか収入を伴う責任のある社会的なものを、中年になって見つけるのは至難の技だから、恋とか楽な人間関係に走っているという構図は見えると思いますね。

もう少ししたら、また変わるでしょう。私**「乗り換え離婚」**をまったく否定しているわけじゃないんですよ。そういう土壤があるということです。

礼儀がないから離婚できない

和田 でも、昔の女ならそう簡単に離婚はできないし、しようとしても罪悪感があると思うんですけども、今の五十代以下の人意識が違ってきていると思いますね。

円 それは本人だけじゃなくて、社会の意識もずいぶん違ってきました。

和田 見る目も。

円 見る目だけじゃなくて、若い娘が援助交際をするのと同じで、自己実現のためだったらいじやないのみたいな、規範がなくなってきた。

別れたっていいんですよ。離婚もいいし再婚もいいけれども、相手を思いやりとか礼儀のないやり方をしている人がたくさんいる。だから離婚できなかったりするわけです。

離婚したいのにできないなんていうのは礼儀がないからですよ。思いやる心がないからです、ほとんど。

和田 そうですか。

いつも思うんですが、私たちより上の世代の人たちというのは、結婚は愛情じゃないですね。

義理、といったら一番当てはまるかと思いますが、要するに義理結婚。

円 なるほど。そういう時代の方がベターハーフを見つめるのはいいと思うけれども、好きで結婚したならルールをきちんと持つべき。

なんでこういう話をするかというと、今のテーマと少しずれるかもしれませんが、

女性は人間関係、関係性についてあまりにもわかっていないんじゃないかと思う。

和田 家庭にいれば社会性がないから、それはありますでしょう。

円 社会性の問題でしょうかね。違うと思います。

例えば、他の男性を好きになるのはいいけれども、きちんと離婚して一緒になるとかしないといけない。相手の苦痛はすごいわけですから。

生きていくということは、自分の好きなことだけをするんじゃない。責任をとらない人がある。コミュニケーションをとらない、説明責任を負わない人がけっこう多い。突然「私は好きな人がいますから家を出ます」じゃなくて、ちゃんと説明して、夫にも時間を与えて、そして別れるべきだと思っわけです。

そうすれば財産分与とかいろんな話し合いができる。たとえば義理結婚だったとしてもお互いに我慢してやってきたわけで、結婚をやめるときにも納得のいくやり方をしなきゃいけない。それをしない人がけっ

こう多いということです。

和田 でもそれは男性側に多いですよ。男が愛人と逃げちゃって何もしないってことは従来からたくさんあります。

私が感じたのは、男のやることを女もやりだしたってことだったんですよ。

円 いいことじゃないですね、それは。

確かに男も昔と全然違って来た。これはもしかしたら、男らしさ、女らしさをはき違えて、それをやめようとしたことの弊害が出てるんじゃないかと思います。

女も男も自己責任や関係性について、本来に軽薄になってきていることは事実です。

例えば、妻が専業主婦だったら、離婚しても食べられるだけのことをして別れるのが筋なんです。何十年ともに生きてきた重みがあるわけで、それに対してきちっとするのが男だったし、人間なんですよ。

それを、女も強くなったからいいじゃないか、自分は好きな女ができた、子育ての責任も果たしたからもう勝手にやるよ、という男が増えてるのも事実。

これは許せない。そんな男たちの真似をすることはないじゃないかというのが私の

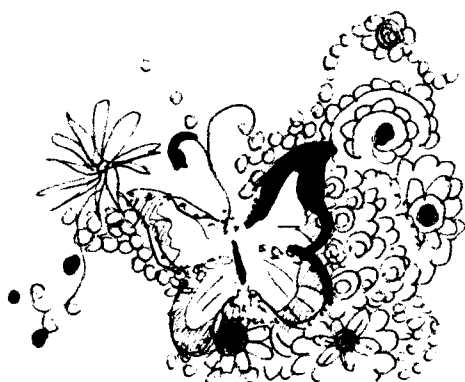
意見です。女がすたるよ、と。やつぱり人間としてきちんとするべき。

和田 なるほど、なるほど。

でも、まあ、義理で結婚した人はわりあい離婚しないんですよ。

円 愛情を求めない、最初からね。愛情至上主義の人ほど関係はもろくなる。

和田 そうだと思えます。今は愛情至上主義が強くなっているんで、その点も離婚が増えた理由ですよね。
円 そうです。



家庭の基盤とか子供より、夫婦の関係が壊れたんだったらわざわざ持続させる必要はない。大きくいえば結婚制度そのものを後生大事に思っていない人が増えたってことはあると思います。

昔は結婚でしか食べていけなかったのに、今は女もさまざまな生き方ができる社会になっている。それがとても大きいと思います。

女性が若くて きれいになった

和田 五十代、六十代の離婚で、実家の財産はカギになっていないですか。

円 昔から日本の女の人は自分で食べていける人は少ないですね。若い世代でも、どの世代でも。

実家の財産も関係していると思いますが、五十代後半の離婚の場合、夫の退職金とか財産をきちんともらって別れている。やはり裕福な人が別れているケースが多い。

女の人も打算的になってきている。一時期、団塊の世代は、愛情がないんだたら

お金がなくても別れましょう、というわりあい健気な離婚が多かった。今は全然健気じゃなくて、別れたって今の生活を維持できないうんだたらイヤだね、と。

和田 しかし旧憲法の時代には女に財産の相続権はなかった。私どもの場合は新憲法下で結婚していますけど、新憲法下であっても戦争を経過して親が財産を持っていなかったから、そのために離婚できなかったという事情もあったと思います。

ところがこのごろは、どうも五十代で離婚なさる方というのは、実家の財産を相続できることがね、ある程度問題を解決しているんじゃないかって気がしないでもないんですが、いかがですか。

円 もう少し若い世代というと、娘が離婚するとみんなが喜ぶ。一つには、介護の問題があるから。男兄弟の妻たちは、これで自分が親をみなくてすむ、と思う。

そこまでいなくても、六十五歳以上の人はほとんど家を持っています。そこで夫婦二人きり、あるいは一人で暮らしていてもしょうがない。娘が帰ってくれば寂しくないし、双方の利害が一致する……、それ

はありますよ。

和田 そうでしょうねえ。

高齢の離婚、六十過ぎての離婚は増えていますか。

円 増えていますけど、少ないですね。

五十代は確実に増えてきています。結婚生活二十年以上の離婚は倍増、倍増って感で増えています。

若いときには妻の気持ちなんか考えもしなかった夫が、子育ても終わってだんだん年を取ってきて、愛人とも別れて、となつてくると妻しかいない。

そういうときに日本の夫婦というのは、十年以上も性生活がないなんて場合がたくさんあるんですが、浮気をしてよほどつらい目にあわされたということがない限り、別れない。

やっぱり恨みつらみがあったのに、経済力がないし子供もいるから別れられなかったという場合、夫が倒れると「なんでこんな人の下の世話までしなきゃいけないの」と思う。

でも、妻だからしなきゃいけないという気持ちと、できないという気持ち、その葛

藤が強いと、真面目な人ほど別れたほうがいいんじゃないかと思ってしまう。そういうケースが、六十代ではいらつしやるんじゃないですか。

実際六十代でも、離婚はしにくいけど、講座にいらつしやる方やご相談は多いです。さっきの、〃乗り換え離婚〃の話に戻りますが、一つにはね、女の人が若くて綺麗になったんですよ。で、エネルギーが多くなった。

五十代だからといって、自分をおばあさんとかオバサンとか、あまり思わない。オバサンなんだろうけど、昔のオバサンとは全然違う。

とくに専業主婦だった人ほど、私なんか仕事はすっかりしてきてもうくたびれていますけど、エネルギーがあるし、きれいで若くて魅力的。恋愛関係になるチャンスはいっぱいあるんですよ。

五十代で、自分の息子より少し大きいぐらいの男性と恋愛関係があつて、その男性に子供たちがけつこうなついている。そういうケースも多いですね。

和田 そうだ、「わいふ」でもあつた。

これは離婚じゃないんですけど、愛人を持つていうつていう五十二歳の女性がいまいた。相手の男性は二十九歳。同じ職場の人だというんですね。

会ってみると、ほんとに三十代に見えるくらいきれいでしたよ。

円 そうなんです。だいたい変わってきています。

破綻を 最小限にする責任

和田 やつぱり、若い人の離婚は数が多いですよ。

円 もちろん、圧倒的に多いです。

和田 若い方の場合には別れることに罪悪感もないし、離婚を重大なこととも思っていない。三十代の場合は。

円 イヤ、そんなことないですよ。

うちは離婚できないという相談が多いんですが、バブルのときは子供を抱えていても能力があればわりあいどこでも採用してくれた。今の失業時代は誰も採ってくれませんが。罪悪感とかナントカつてのとは

別に。

和田 しかし若い方は職のある場合が多いでしょう。

円 そんなことないです。三十代って、まだ子供が幼稚園、保育園、小学生で手がかかる。全然離婚できる状況じゃないですよ。そんなにアツケラカンとしていないと思います。

やっぱり日本人は、連れ添ってこそ理想、という考え方が強固な国民ですから、離婚しないですめばしたくないという妻の気持ち強い。

日本の離婚はかつては二十代が六割を占めていた。ほとんど子供がいらない。いても乳幼児ですから、実家に帰る形の離婚だった。

だんだん子供のいる離婚が増えてきたのは高度経済成長期に入ってからで、そして今は、未成年のいるケースは一時期より減っています。成人の子供を持つ人の離婚が増えていくからです。

和田 熟年離婚ですね。

「わいふ」の投稿に、大恋愛の末に二人の子供を置いて家を出た、というのがありま

した。四年間子供に会っていない。長男はお母さんがいなくなつてよかつた、と言っているという内容だった。

円 何歳ですか。

和田 四十代でしょう。息子さんが現在高校生ですから、家を出たときは中学生だっ



た。

円 そりゃ、出ていったお母さんに対しては、そう言うでしょう。そうでなきゃ「捨てられた」子供は自分の存在を肯定できませんもの。

和田 以前から親子関係が悪かつたそうで

すが、子供を置いて出ていくことは絶対にできない、というのが今まで「わいふ」の定番だったわけです。

このごろ、そうじゃなくなってきた。

円 なるほどね。それはどういうことなのでしょう。あまり力がないのか……。

私の年ぐらいの人でも、子供と友達のような関係を築いていた人がいた。離婚するとき子供はお父さんへついて、その後、しょっちゅう子供と会っている人はいます。母親が家を出ていくとき、父親へつく子供が多くて、そのことを女性はアツケラカンと話しているけれど、実はショックだと受けとめている人が多かつたですね。

和田さんがおっしゃっているケースはショックを受けないで出て行っているんでしょうか。子供に、お母さんがいなくてよかったと言わせてしまうということは、とても無責任な別れ方をしたのかもしれないという気がします。

思春期というのは、親に対して一番反抗するときだから、母親を取られるような、母親が自分勝手をしているという批判は当然持つでしょうね。



そこをちゃんとわかってもらう努力をしなきゃいけない。私は、離婚したって仕方がないけど、親に子供を傷つける権利はないと思うんですよ。責任を取ることと離婚は別のことだと思う。

和田 だけど、どっちにせよ、離婚は破綻なんですよ。止むを得ない事情があるわけ

で。
円 だからそれを、家族が再生できるような方向へもっていかなきゃいけない。

自分がある程度加害者だとしても、どっちか一方が全部加害者なんてことはありえ

ない。ほとんどフィフティ・フィフティだとしても、力のある側に破綻を最小限にする責任があるんですよ。力があるから好きな人をつくるんですから。

それなのに、女の人は家族の再生を図らないで、自分だけが乗り換えちゃって幸せになろうとしたら、子供たちの再生まで図れないというのは、それはバカな女としかいいようがないわけです。

そんな女が増えたって世の中、ちつともよくならない。

人生の目的

和田 時代が移るときには、逸脱した行為も出てくるわけですよ。

円 逸脱とは違うと思います。自分を甘やかしているだけだと思う。

和田 それほど理性的になかなかいないのが人間だと思うんですよ。

円 私が言っているのは、破綻したときにじゃなくて、それまでに子供との関係をきちつとつくっていれば、一時は駄目なとき

があっても必ず修復できる、ということですよ。

そういう関係をつくっていなかった人がけつこっているんじゃないか、ということ可言ってわけです。

和田 子供との関係はあまりよくないですね、全体に。

円 つくっていなかった。誰ともいい関係をつくれないうタイプの人が逸脱して、それをいいとはいえない。

和田 いいとか悪いとかの問題じゃなくて、新しい風潮として今までなかったものがあらわれているという感じがしているんですが。

今まで男だけがやっていたことを女もやりはじめた、と。

円 そうそう。タバコを吸うのもそうだし、本当に馬鹿なことばかり真似して。真似をする必要性は全然ないのにな。

和田 やっぱり男性化してきているんですよ。

円 男性化してるからいいってもんじゃないですよ。

和田 職業を持つとか、いい面も男性化し

ているんだが、悪い面も男性化しているんじゃないかな。

円 仕事を持つことが男性化じゃないですよ。

和田 いや、女が仕事を持たなかった時代に比べれば男性化です。男に近づくことではある。

円 私は、男に近づくことではないと思います。

結婚制度というものを、私は肯定しているわけでも何でもないませんが、それが揺らいできているのは事実。

人と人との関係をつくることは、夫とであれ友人とであれ子供とであれ、とても大事なことで、いい関係をつくるのが短い人生のなかでの大きな目的だと思うんですよ。

それは女、男、働く、働かないに関係なく、干渉でも過保護でもなく、精一杯いい関係性をつくるのが、とくに親の場合必要ではないかという気がします。

男の後を追うなんて、あまりにも愚かなことはやめて、男女に関係なく人間としてどう生きるべきか。そのなかで、自分の健

康とか恋愛とか、どうあるべきかということとを一生懸命考える。

そういうふうになっている人だったら、母親が他の男性を好きになって家を出ていったとしても、子供は必ずわかってくれる。

ある意味で、そういうことに寛大な子供たちも増えているし、以前よりは罪悪感なく、そういうことができているってことは感じますね。

和田 「わいふ」の誌上からみていて、全体に家庭がうまくいなくなっている、という感じはともします。

円 難しいですね。
やはり人間というのはよほどの天才でないかぎり、枠組みがないと生きにくいんですよ。枠がちゃんとあって、家庭はこうあるべき、親子はこうあるべき、みたいなのがあったほうが生活を維持しやすい。

これからは、本当のいい意味でのネットワークとか人間関係を、家族のなかだけじゃなくて、家族はいまとても孤立しているから、ネットワークを新しくつくり出さなきゃいけない時代だと思っています。

(え・カステラネコ)

Eメール友達

●お花大好き人間の皆さん、初めまして！ 私の趣味は、園芸とテニスです。特に、ペランダガーデニングの難しさを分かり合える方歓迎します。Eメール友達になりませんか。

西井容子・東京都目黒区

メールアドレス

kucchi@mvc.biglobe.ne.jp

●こんにちは。42歳の普通の主婦で

す。趣味は小説を書くことです。でも文章を書き始めたのは、なんと5年前から。継続は力なり、今年2月に小説集を出版しました。「わいふ」278号情報コーナーに掲載、郵送可能。同じ趣味を持つ方友達になってください。

砂原富美子・熊本県八代郡

メールアドレス

rentarou@msj.biglobe.ne.jp

あなただへ

スマッシュ

授業参観に行つてがっかりした
鈴木まりもさんへ

島津まさ子

鈴木さん、初めての授業参観に参加して、とてもがっかりなされたようですね。

長男を思いやる鈴木さんの母親としての気持ちがよく表現されていて、心を打たれました。

学校で催される授業参観に、親と

して出席した経験のあるものなら分かることですが、あれは「授業」参観などではなく、ほとんど「我が子」参観の場です。

我が子の一挙手一投足が気になり、他のことなどほとんど目に入っていない。鈴木さんも同じで、我が子をじつと凝視していたのでしょう。

でも目にしたのは、およそ期待はずれの不活発でやる気のない長男の姿でした。鈴木さんが落胆するのも無理はありません。

でも気を落としているだけでは改

善されません。原因を探って解決策を見つけていくことです。

鈴木さんは学校で生気がないのは、ファミコンのやり過ぎだと思つていらつしやるようですが、ストリートにそのことを長男にぶつける前に、長男の気持ちを聞いてあげることをお勧めします。

「ねえ、授業参観であなたを見ていたら、何だかあまり元気がなかったみたいね。学校で疲れてるの？」と優しく問いかけます。

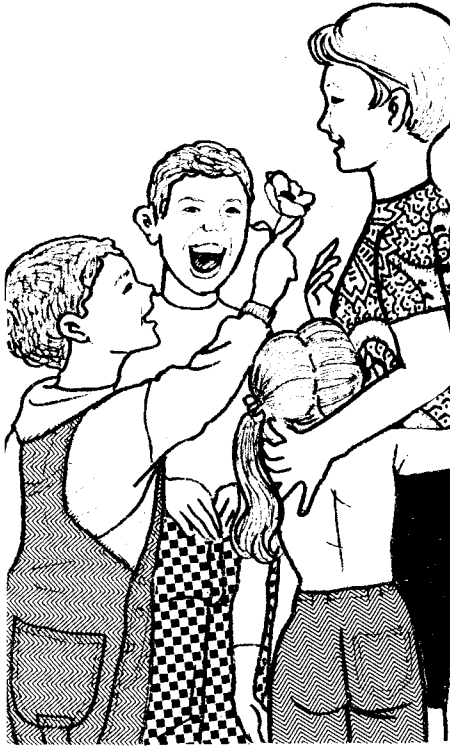
まずは息子がどんな気持ちで教室にいるのかを知らなくてはなりません。



んから、絶対に非難をこめてはいけません。「あなたの本当の気持ちを知りたいのよ」という願いをこめて聞けば、息子は本音を語ってくれるでしょう。

鈴木さんが思いもかけないことを訴えてくるかもしれません。

「そうだったの」と長男の気持ちを受け入れてから、親の要求も話していきましよう。



「お母さんは、生き生きと学校生活を送ってもらいたいから、そのためにはファミコンの時間をもっと減らしてもらいたいの」と提案し、ファミコンの害を説明します。

最後にファミコンをやる時間を決めなければなりません。親が一方的に決めるのではなく、妥協点を見出すようにしましよう。

あとは、親子の約束が守れるかど

うかにかかっています。親としての度量が試されるときですね。

「参観日に行って」の鈴木まりもさんへ

横浜市磯子区 十文字圭子 36歳

「私の愛情が少なく」「私に責任があるのだらう」「この子を救えるのは私だけだから、そして私が救ってあげなくては」。そんなにご自分を責めないでください。また、そんなに独りで抱え込まないで。更に「次の参観日には、明るく楽しい顔を私に見せてくれ!」とは、心配のあまりとは思いますが、それではご長男が可哀相です。子どもはあなただけのものではないのですから。

紙面には書ききれない普段の状況もあると思いますが、子どもは集団生活に入ったら、また極端に言えば母親のお腹から外へ出たら、親が

掌握しきれないその子の世界を持つ
と思うのです。その子の目で見て、
その子の耳で聞いて、更にその子が
自分で歩く。自分に振りかかった火
の粉は自分で振り払う以外には方法
はありません。その力が付くように
するのが親なのではないでしょう
か。

決して見放すとか突き放すとかで
はなく、見守るといふのはどうで
しょう。「暗い」といふのも「ゲー
ムに熱中する」のも、成長の一過程
かもしれません。また、「子どもら
しく」といふのもどんな基準でそう
いふのでしょうか。確かに一般的な理
想の小学生像というものはあるで
しょうが、その「らしく」といふの
は曲者です。それは裏を返せば「み
んなと同じ」「人並みに」というこ
とになりはしませんか。もしかした
らこれからの時代、人と同じじゃ生
き抜いて行けないかもしれませ
んヨ。

偉そうな事を言っても、私も同じ



新入生を持つ親として、日々オタオ
タの連続です。幼稚園に入った時は
約一カ月泣き通し、学校に入る前に
やつと何とか自分の名前だけ書ける
ようになり、いまだに一本も乳歯の
抜けないのんびりした長女に、「ナ
ンデ？」とつい歯がゆい思いのする
事が多くあります（余談ですが、歯
の抜ける頃がそろそろ読み書きに
入っても大丈夫なサインという話を

聞いたことがあります）。でも、それ
も彼女の個性なのでしょう。

また、そんなあなたの心配をご主
人はどう思っておられるのでしょ
うか。親はそんな時のために二人い
るのです。でも残念なことに、大抵の
場合は、子どもの一生を見届けられ
る親は居ないのですけれど。だから
こそ、「私が」といふのは幻想だ
と思うのです。ではどうすれば？とい
う疑問を私も日々持ち続け、悩んで
迷って、でも独りで抱え込まず、子
どもと共に成長したいと思っていま
す。

二七八号「参観日に行つて」の 鈴木さんへ

愛知県豊橋市 藤池弘子

現在中一のうちの娘は、小さい頃
から甘えることが下手でした。だか
ら、人前で「お母さん！」と、抱き

ついたことがあります。けれど、それは子供らしくないことでしょうか。

保育園の時、先生が、「一人で遊ぶことが好き。家の中が好き。そんな子供もいるんですよ」と、何気なく言ってくれました。その言葉は、すうーっと私の中に入ってきて、この子を基準に見ていこう、そう私に思わせてくれました。娘も、今まで一度も手など振ってくれません。でも授業参観は喜んでくれているようです。私が、来たよって目で合図を送ると、口元が綻んでいますから。

四月です。幼稚園の時とはなんだから違うな。どう動いてよいか分からないな。そんな子供がいてもおかしくないのではないのですか。立ち止まって考えているのです。誉めてあげてもいいくらいです。それに学校って楽しいばかりの場所ではないですよ。

上手に描きなさいを前面に打ち出してくる先生がいるかも知れない。



早く早くと急かす先生もいるでしょう。子供たちは、戸惑いながら、迷いながら、それを乗り越え、自分の居場所を見つけていきます。どうか、ファミコンに逃げていると思わないで、ファミコンで気分転換を図っている、自分を立て直しているのだと思って下さいませんか。はずかしがり屋だって、お母さんが大好きなのです。それぞれの親子にそれぞれの形がある。私はそう思ってやっています。

誇らしい私の母語

東京都世田谷区 後藤 晶(40歳)

二七八号の奈良の田中慶子さんの『日記』の中に「あのころは『たやすい』ことを『やすい』と言っていたのだろうか。……単独で『やす

い』とかは今では言わなくなった」とあった。

私は四国徳島県で生まれ育った。徳島は関西語圏で、大阪や京都の言葉に近い。私も子供のとき、「たやすい」ことは「やすい」と言っていた。小学生のころにそれがいわゆる方言であることに気づき、作文などには使わなかったが、日常ではみんなが使っていた。高校を出てからは、ほとんど県外でくらしている

が、たぶん今でも「やすい」を徳島では使うと思う。夫も同県人なので確認した。

同じ表現なのに、奈良ではこの四十年間で衰退したとは。「やすい」||「易い」とワープロでは変換できるが。

徳島（関西）の言い方で「（能力がなくて）……できない」を「よう……せん」というのが、中学で古文を習ったときに古語の「え……ず」

からきたものと知った時は感動した。それまでは、なんでこんな徳島みたいなイナカに生まれたんだろうと思っていたけれど、たぶんこういうことを学んでから、自分の故郷に誇りを持ち始めたのだと思う。何しろ小学校では、方言を使ったら友達どうしてカードを取り合うということをやられていた時代。方言に対する評価が低かったので、徳島でも消えた言葉は多いだろう。

「借りる」ことを「かる」というので、「この本図書館でかった」というのを、徳島では図書館でも本を売っているのかと驚いた転校生がいたっけ。

子供は東京弁だが、家庭では夫婦して徳島弁で通し、バイリンガル教育と称している。ふだん耳で聞いているだけでも、子供たちはいざというとき、ちゃんと阿波っ子になるのがうれしい。



子育てフォーラム

NMSのページ



保育園での出来事

東京都日野市 神名 舞

「みんなと仲良くやっていきますか？」
担任の先生に、保育園に通う息子のこ
とを尋ねてみた。

二月で四歳になったが、早生まれと
いうこともあり、クラスのみんなに必
死についていってると感じるがす
る。

夕方迎えに行くと、ブロックで作っ
た車や、折り紙の飛行機や動物と遊ん
でいたり、昆虫の本を見ていたりす
る。時には、友達と一緒に本を見てい

ることもあるが、友達同士はしゃいで
いるというよりは、一人黙々と好きな
ことをしている、そんな様子なのであ
る。

これから第二子が生まれ、息子の赤
ちゃん返りも予想されるので、今の状
況を知りたいと思っていた。

先生は「Yちゃんはよく転ぶんです
よ。それも変なところで……。休みの
日には外遊びをさせたり、散歩したり
しますか？」

「エーッ」。息子ほど小さい頃から歩
いている子はいないと私は信じていた
ので、とても驚いた。「いいえ、よく
歩いているし、体も動かしています
よ。靴が合わなくて転ぶということだ

すか？」

「靴は大丈夫だと思えますけど、Y
ちゃんは何かしていると、それに熱中
しちゃうんですね」「……………」。

別の日もう一人の担任に「N先生に
よく転ぶと言われたのですが……」と
尋ねてみる。

するとB先生は、「私たち（保母）
の言うことにとても素直に反応して
『しなさい』と一声かけただけで、
すぐに従ってくれるんです。その反
面、他の子に『ダメよ！』と大声で注
意していると、『ボクが怒られている
のかなあ』といった表情でこっちを見
ていることもあります。食事中も、
あーこぼしそうと思い『Yちゃん、こ

ぼす!』と言ったとたん、その声に氣をとられてジャーンとこぼしてしまったり、園庭でも『あぶないよ!』と声をかけると、こつちばかり氣にして木にドスンとぶつかったり、つまずいて転んだりすることもあるんですよ」

そして、「Yちゃんはこうですか」と両手を目元へ持つていき、そのまま平行の前に下ろしてみせ、「熱中している又何も見えなくなる」というような表現をした。

親バカかもしれないが、Yは「風が冷たいね。花が綺麗だよ。いいにおいがするね。鳥の声が聞こえるよ。天気がよくて気持ちがいいね」と感じたことを言葉に出して伝えることができるので、決して五感は鈍くはない。運動も苦手な方でもないと思う。

これまでテレビは3チャンネルの幼児向けしか知らないし、最近は全然見えていない。ビデオも決まったものしか見せていない。子どもたちの人気者は雑誌で見るだけなので、知識も浅く色々な情報に毒されていないから、子

どもらしい純粹さを持っていると信じている。

大人の話もよく聞ける。いけないことをしたとき叱つても、ちゃんと耳を傾けられる。私も夫も義母も、子どもだからといった態度で接してきていない。

保育園では様々な子がいるので、息子のようなタイプは珍しいのかもしれない。



ない。でも、なんだか息子が臆病な弱い子と評価されているような感じを受けた。

息子はこれから成長するにつれ、どんどん変わっていくと思うが、幼児期のそんな素直な心のあり方って、とても大切なものではないだろうか。

先生や親たちが気付かないうちに、今の子どもたちは純粹なものを失いつ

つあるのではないか、そう考えずには
いられない出来事だった。

天使の昼寝

東京都練馬区 宮本康子(29歳)

昼寝をする亜紗子の顔が、こんなに
喜びに満ちているのを初めて目にし
た。

毎日お昼を食べて十二時半には眠っ
てしまうが、今日はもうそれを一時間
も過ぎているのにまだ眠れないでいる
様子。

それもそうだ、今日はお友達が来て
いるのだ。下の二人はお構いなく眠っ
ているが、今日は他に手を伸ばせばす
ぐの所にゆうきちゃんがいる。さつき
までクスクス布団の中ではしゃいでい
たお友達も、今はスースー寝息を立て
ている。



それを薄目を開けて見えてはギュッと
目を閉じ、自分も眠ろうと思う意思よ
りも、ほほの筋肉がキュッと上がつ
て、どうしても口がほころんでしま
う。嬉しさがこみ上げてくる様子が、
見ているこちらにまで伝わってくる。
静かな寝室で、亜紗子の所だけヒラヒ
ラと天使が飛んでいるようだ。

三歳の子にとって、お友達と同じ布
団に眠ることがこんなに喜ばしい事だ
とは。

「今日のお昼寝とうだった?」

夜寝る前に聞いてみよう。つたない
言葉でどのように感情を表現してくれ
るのだろうか。

友だちでできたヨ!!

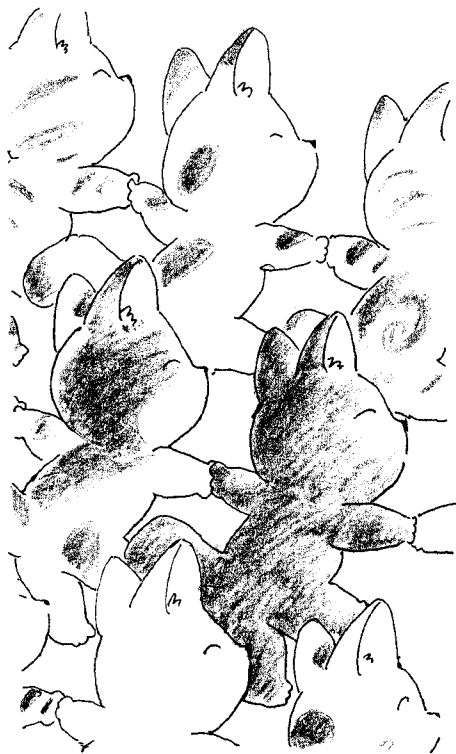
長野県佐久市 鈴木まりも

入学してから三カ月が過ぎようとし

ている。長男は、学校生活にも慣れた。そして私の心配していた友だちもできた。以前のように学校から帰るやすぐにゲーム、の生活もなくなった。もちろんゲームを一度もやらなくなったわけではない。時間が短くなり、毎日のようにはやらない。一週間ずつとやらないこともある。ゲームの事で、私も怒らなくなってきた。学校生活が安定しはじめて、ゲームに安らぎを求めなくてもよくなりつつあるのだろうと、私は思う。

二回めの参観日の時、長男は、男の子と笑っていた。プリント配布の時も、私に話しかけてきた。帰りの支度とかは、相変わらずマイペースで、のんびりやっている。友だちと笑っている長男を見たら今回は、怒らないでよかったと思った。

商店街の七夕飾りに色を塗り、お願い事を書くところへ、長男は、「ドラクエ（ゲームの）のボスに……」と相変わらずゲームに関するお願い事。でもその横に「友だちでできたよ」と二カ



所に書いてある。思わず涙がでてきた。よかった。小学生になったら、勉強もしっかりやってよと思っていた。

あの参観日の暗いやる気の無い姿を見て、早く友だちを作って、楽しい学校生活を送ってほしかった。

今、長男は、自分で「友だちでできた」と書いている。私の一番の願いはかなったのだ。朝起きた時ぐずぐず言っていること、図工で絵がかけない

こと、何をやるにものんびりしていること、これらが全部よくなったらもうとうれしい。でも長男の学校生活に、私は何を望んでいたの？ 友だちのたくさんいる長男を、望んでいたのだ。その願いができたのだから、私も長男の希望の「お母さん小さな声で、優しく叱って」を守っていかなくては。

パンツ

横浜市旭区

隅田美幸(40歳)

結婚って、男のパンツを洗うことだったんだ。二十六歳の私は、夫となった男性のパンツを初めて洗濯機に入れながら、そう思った。結婚は、もう憧れでも夢でもない。現実なのだ。私達は、御伽噺の王子様と王女様なんかじゃない。「めでたし、めでたし、ハッピーエンド」ではなくて、今日から生活が始まるのだ。洗濯機の水が、夢を砕くかのように、これでもかこれでもかとグルグル回っていた。

あれから十数年。私はパンツを洗い続けた。自分の分を含めて五枚。子供が三人生まれたからだ。

十数年たったのに、私の思いは常に変わらない。「どうして私だけが、み

んなのパンツまで洗わなきゃいけないの？」

パンツには、ウンチやオシッコがついている。だから、まず固形石鹼で手洗いしてから洗濯機に入れる。自分のパンツを自分で洗っていない人は、たいていそれを知らない。知っていても忘れている。自分も独身で親元にいた

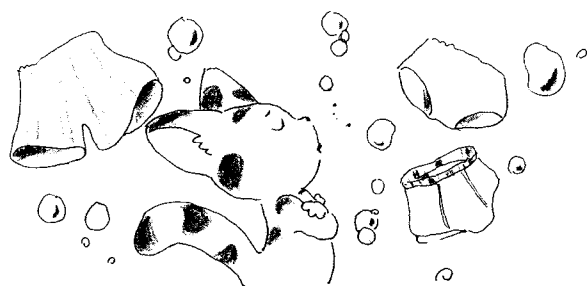
時は、そうだった。今思えば恥ずかしい。

パンツほどプライベートなものはない。いつかどうしても自分でそれを洗わなければならない日がくる。男の子が男性に、女の子が女性になった時だ。

母に洗濯してもらっていた頃、うっかり下着を汚してしまった時の憂鬱な気分とまったくなかった。こそそ洗面所で汚れを落とすが、茶色くシミが残ってしまう。そのシミが「生理が始まったよー」と大きな声で言っているようで、誰にも見られなかったか辺りを見回す。

男性のことは、よく分らない。でもやっぱり、下着を汚してしまった時は、仕方なく自分で洗うだろう。それを知った母親は、子供の成長を素直に喜べるものなのか。それとも最初はギョツとするものなのか。まだ小さいとはいえ、息子が二人いる身としては、先々が気になる。

そう、小学生の息子二人、園児の



娘には今日から毎日パンツを手で下洗いしてもらおう。

「自分のウンチとオシッコくらい自分で落としてよね」

と私。

「エーッ、キッターネー」

と息子達。

「だって自分のでしょ。赤ちゃんならしょうがないけど、それくらいしてよね」

どれくらい納得したかわからないが、ようやく自分のパンツとソックスを風呂場に持って行く習慣が付き始めた。

初めの頃、なかなか風呂から出てこないのので、と、二年生の子が丁寧にパンツとソックスを洗っている。どうせもう一度洗濯機で洗うのだからいい加減でいいよ、と言うのだけれど、いつまでも終わらない。それと対照的に四年生の子は、チャッチャッチャツと素早く、適当にすませている。五歳の娘はといえば、パンツそっちのけで洗面器一杯にたてた泡に満足気だ。

ダダ

静岡県沼津市 藤 広見(32歳)

どんどん上がっていく。それはもう子供相手に言う言葉ではなくなっていた。

「いいかげんにしな。嘘泣きなんかしないよね。涙なんか出てないくせに」とか言っている。ギョツとしたのは泣きながらしがみついている子供を

放り投げた時だった。子供の身体がふわりと宙に浮いてどきつと床に落ちた。それでも母親は怒りが抑まらず罵声をあげている。

息苦しい空気の中、私は半年前の事を思い出していた。私がまだ隣の町に住んでいた時のこと。二男とスーパーへ行った。

日頃お菓子是一個という約束をしてあったのだが、この日に限ってジュースも欲しいという。ここで買ったら次回からは当たり前のように買わされて



しまう。何度か言い聞かせたのだが眠気も手伝って床にひっくり返って暴れ出してしまった。

幸い買物は終わっている。あとはレジを通すだけだ。

私はいそいでレジで精算をし、袋の中に品物を入れていた。その間も二男は泣き続けていた。

その時である。一人の初老の男性が近づいてきた。「見苦しくはないのかね!」と一喝。続いて「あんた、こんなに、子供を泣かせてなんとかしよう

連載

二番目の子どもが やってきた ③

横浜市戸塚区 杉田みほ

「あらー、寝ちゃったわ。なんていい子なの?」。立ち話をしていたら、いつのまにか腕の中で眠っていた藍を見て、同じ五カ月の赤ちゃんをもつお母さんが羨ましがりました。

とは思わんのかね」「あんたのことをみんなが見ているんだよ、恥ずかしいとは思わんかね」と言う。

どう反論して良いのかわからなかった。ただ早くこの場から去りたい一心で、慌てて品物を詰め込むと二男を抱え逃げるようにスーパーを後にした。

運転しながらカタカタと手が震えているのがわかった。あんなに人前で叱られたのは大人になってから初めてであったので、本当にびっくりした。後々冷静になって考えてみたがあの時

昼過ぎまではたいい機嫌よく、一人遊びもよくしているし、ほとんどぐずらずに眠ってしまふ。手のかからない子だとよく言われるけれど、私が感心しているのは、なんととっても夜なのです。

上の子の夕食、お風呂とあわただしい時間、かまってもええないし眠いしで、泣き続けるのはよくあるパターン。だけどその後が実にラク。お風呂

どうすればよかったのか答はでなかった。あれだけ興奮してしまうと抱いても論しても、同調してもダメな時はダメなのだ。そういう時であると思う。

この耳鼻科で会ったお母さんの叱り方は決して良いとは言えない。が、ほんの少しだけ気持ちかわかる気がした。最近の新聞のコラムにこんなことが載っていた。「近頃の子供はダダをこねない、ききわけの良い子ばかり。子供らしさに欠けるのでは……」

一体どちらが正しいのだろうか?

子育てフォーラム・NMSのページ

からあがつて身仕度できたら、おっぱいを飲ませ、子守歌を一つ歌って、「おやすみ」とベッドへ。それから短くとも七時間、藍は静かにベビーベッドの上で過ごします。

ベッドに下ろされる前に眠ってしまふ日もあれば、おもちゃの音や「あー、あー」という声がしばらく聞こえている日もあります。どちらにしても、ベッドを離れたら、藍と一緒に

一日はおしまい。

上の子も、NMSに出会った四カ月のときから、ひとりて寝かすようにしてきました。

ほかの母子を見てみると、うちの場合は一人でベッドで寝かすことでずいぶん楽になっているなあ、と思うことがよくあります。寝かしつけが楽なだけでなく、一歳一カ月であっさりと卒乳して、私なしで泊まりにいくのも平気になりました。それに、手がかかってしょうがないという友人の話を聞くと、ほとんどの場合、一歳を過ぎてもおっぱいで寝かしつけているのです。だから、藍の場合は最初からちよつと意識して関わってきました。

母乳は余るほど出たので、満腹になつたら、抱いたままで寝かさない。飲みながら眠ってしまったときは仕方ないけれど、うとうとしていてもげっぷをさせたら目を覚ますことはよくあるもの。そんなとき、寝かしつけようとして抱くことをあえてしないのです。

新生児期は、泣いたら授乳、の繰り返し。でも生後三週間の頃、私が電話に出ている間に泣き出したので、そのまま見ていたらじきに眠ってしまったことがありました。こんなに小さいうちから寝ぐずりがあることがわかったので、それからはそうらしいときには、声をかけるだけで安心して泣かせておくことができるようになりました。

夜寝かすときは、初めのうち、目の届く蒲団の上において、先に眠っている家族を起こさないようときどき相手をしながら家事をし、寝ついてからベッドに移していました。二時間も抱いたり置いたり繰り返して、寝つくのは真夜中……という日も多く、いささかうんざり。ところが二カ月を過ぎると、昼間外にいる時間が多くなったからか、十一時ごろにはぐずらないで一人で寝つき、朝まで続けて眠るようになります。

それでも三カ月になってすぐ、ずっと泣いていた日がありました。せっか

く一人で寝るようになっていたので抱き上げず、夫がすぐ横にいるのだからと家事をしていたら、三十分以上泣き続けた末、疲れて眠りに。こんなに泣かせておけるようになった自分にびっくり。翌日はまた泣かないで寝るようになりました。

さて蒲団では一人で寝つくようになつたので、今度はベビーベッドで寝かすことに。一日目はベッドに下ろすと泣き出しましたが、トントンと叩いているとご機嫌に。また泣いても、ひたすらトントン、トントン。やがて寝つきました。翌日は、今にも眠りそうになつたところで離れました。そして一週間もしないうちに、ベッドに行ったら眠るものだと心得たようす。

初めからちよつと意識していれば、こんなに手がかからない。みんなに教えたいたい気持ち。もちろん生まれ持った氣質や体質でどうしても手をかけざるを得ない赤ちゃんもいるけれど、そうでなくても「だっこして安心させてあげなくちゃ」という先入観にとらわれ

がちではないでしょうか。赤ちゃんだって眠たくなったら一人で眠るもの、そう思っていれば自然にそうなっていくのかも。

毎晩、静かに寝ついたので見えては感

心するうちに二カ月が過ぎました。

と、やはり満五カ月になってすぐ、それまでと違う夜がやってきました。ベッドに寝かせると泣き出したのです。そばにいと少しおさまるもの



の、しばらくすると顔を見ながら大きな声で泣く。少しおさまってまた泣く。私と目を合わせて精一杯大きな声を張り上げる。今までと違い、意識して泣いているのがはっきり見て取れます。かなりがんばって泣き続けたので、おむつと服を替えてベッドへ。すると少し泣いたがさつきほどではなく、じきに眠りにつきました。

翌日もまた泣きました。五分ほどしたら様子を見に行こうと思っていたら、ちょうど電話のベル。話をしている間、泣き声は激しくなっていきましたが、そのうちに山を越え、受話器を置いたときにはほおさまっていました。そのままそとしておいたら静かに眠りに。その次の日は、一声あげただけでやめました。

あれから半月。刺激いっぱいだった日もたくさん昼寝をした日も、お風呂とおっぱいが終わると、あとは静かに穏やかに、藍は眠りに落ちていきます。

(え・西宮さき)

私の意見・

あなたの意見

他人の子どもを
どう叱る

自分の子供を守るために

横浜市戸塚区 根来恵子

私はよその子供を叱るだけでなく、
平手打ちまでくらわせたことがある。
娘が幼稚園に行く前は毎日公園に行
き、たくさんの子供たちと遊ばせてい



た。その中に娘より一つ下の女の子がいたのだが、彼女はトラブルメーカーだった。砂はかけ放題、気に入らないとすぐかんしゃくを起こし、相手の髪の毛を引っばったりたたいたりしていた。その彼女が来ると、周りの母親たちは自分の子が何かされないかと、彼女の動きを目で追っていた。私の娘は彼女よりも年が上だったので、はじめのうちは彼女も娘には従い、花の実を取ったり、茂みに入ったりして一緒に遊んでいた。

私は彼女のこととは色々聞いていた。例えば共同購入のパンを、自分の家のものでもないのにわしづかみにし、ペチャンコにして、それを見ていた母親は、「あらあら、〇〇ちゃんはパンが欲しかったのね」と謝りもせずパンを買に行ったこと、ドーナツ屋さんで公園仲間の女の子に突然往復ビンタしたこと、友達の家遊びに行つて、木の積木を赤ちゃんに向かって投げ、額にけがをさせたことなどを聞いていたが、とりあえずは、私の娘に害を及

ばしていないので、仲良く遊ぶように娘には言っていた。

彼女がトラブルを起こすと、母親が代わりに謝り、その間、また彼女は別の相手とトラブルを起こすという具合だった。母親は、彼女自身が悪いことをしたのだと反省させることを教えず、相手に謝ることを強要しなかった。

そうこうしている間に、年は下だが彼女の方が娘より体が大きくなっていった。公園のブランコの下にはゴム製の穴あきマットが敷いてあるのだが、その中にピーピー弾がはさまっていた。彼女はそのピーピー弾を欲しい

と言ったが、マットの間にはさまっているため、「そのピーピー弾取れないよ」と娘が言った途端、彼女は娘の髪の毛を引っばった。

娘はびっくりして泣き出し、私は周りの子供から、娘が先に手を出していないことを確認して彼女に言った。「あやまんさない。なおみはあなたに何もしていないんだよ。あやまんさない」

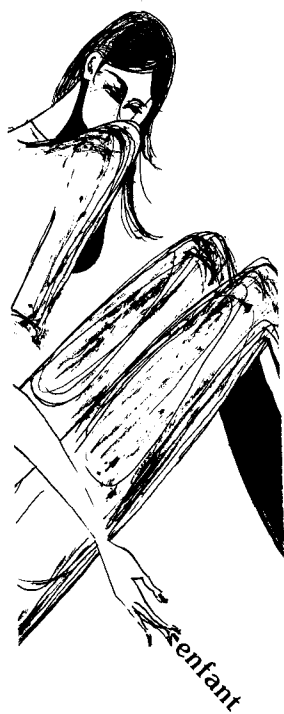
私はしやがみ彼女の目線に合わせ、彼女の目をまっすぐに見て言った。横で母親が「あやまろうね。ごめんないと言おうね」とオロオロしていた。その時だった。彼女は私の左ほかに

平手打ちをくらわせたのだ。間髪を入れず私は彼女の右ほおを打った。そして母親に言った。「あなた、どういいうしつけをしているの。大人をたたくなんてどういうこと、もう一度考え直さない」。母親は「すみません。考え直します。すみません」と言いながら、謝らずに大泣きする彼女を連れて帰った。

その後、娘は幼稚園に入り公園とは遠ざかった。だが一年遅れて彼女も同じ幼稚園に入ってきた。ままごとの木のフライパンで、女の子の顔をたたいて顔をほらさせたり相変わらずだったらしい。彼女を知っている公園仲間に出ると「幼稚園でも相変わらずだよ」「治らないのかね」「うーん」である。

結局平手打ちしたところで、母親とも変わらないのだから、徒労であった。

それ以来、私の子供たちに害を及ぼすようなよその子は絶対叱る。自分の子供を守るという名目で叱る。だが、私の子供たちに関係ないならば、よそ



の子がどんな悪いことをしていても叱らない。叱ったところで、その親に話を通じなければ、こちらの徒労に終わるということが良くわかったからだ。
.....

怒らずに叱る

奈良県生駒郡 高松恭子（47歳）

私は必ず注意することにしていきます。実は、注意どころか、言っても聞かないよその子を叩いたことも数回あります。

初めて叩いたのは今から十年くらい前、電車の中で某私立高校の生徒が七人掛けの座席を三人で占領していたとさきのことです。脚をいっぱい広げ、傍らにかばんを置き、熱心に漫画を読んでいた。次の駅からお年寄りのグループが乗ってきたのに知らん顔、隙間はあるのに一人も座れないような非常識な座り方をしています。

私は、ちよつと詰めてあげるよう注意しました。ところが全くの無視、回

りの人も不愉快そうな顔で彼らを見ています。私はもう少し大きい声でもう一度言いました。しかし再び知らん顔です。私は非常に腹が立ち、「この脚、なんとかしなさい！」と、大声で叫んだときには、持っていた傘で彼らの一人の脚を思いきり叩いていたのです。三人はびっくりして立ち上がり、茫然とした顔で私を見つめています。この子たちは、親からでさえ、こんな注意を受けたことがなかったのかもしれない。

「詰めたらもつと座れるでしょう？」と言う私に、黙って下を向いていました。自分の子供がよその知らないおばさんから殴られないよう、しっかりと家で躾をしてほしいものですが、今まで経験では、真剣に注意すれば子どもはたいいてい聞いてくれます。私の中でその確信が、ためらわず注意する原動力になっているのです。

ある集まりでこの話をしたら、知人が言いました。

「でも叩くって心が痛むでしょう？」

「心が痛む？ そんなもの痛むかいな！ どうせよその子や、スツとしたわ」と答えて大いにひんしゆくを買いました。つまり、知らないおばさんの注意は、真剣でもそんな程度のものである。だからこそ、胸の痛みを感じながら、親が注意すべきなのです。

私は相手が大人であっても注意します。禁煙場所喫煙中の人、平気でゴミを捨てる人、スーパールの無料の袋をわしづかみにして持って帰ろうとしている人、等々。どうにもならない人もいます。

「ごめんなさい、知らなかった」と、言ってくれる人もいるので、やはり注意すべきだろうと思っています。

注意するときの大切なことは、絶対に怒らないことです。叱ると、自分自身が怒ってしまうのとは、全然違います。これを守っている以上、逆襲に遭うこともないような気がします。もちろん、気をつけるに越したことはありませんけれど――。

(K・Jasmine)

ズバリ一言

皆勤賞

静岡県静岡市 米田けいこ(46歳)

我が家で講読している毎日新聞の投書欄に、少し前ですが「皆勤賞」について賛否両論の様々な意見の論争が載っていました。発端となった投書はおばあさんからのもので、孫娘が六年間の無欠席を表彰されたことに對し

て、素直な喜びが書かれてありました。祖母としては、かわいい孫娘の無事な成長を祝いたい気持ちには自然で、共感するところです。でもその文中にあった「怠け心に打ち克ち」という言葉にひっかりました。要するに「克己心」ということでしょうが、これと皆勤賞とつながるのかなと思ったのです。

そして数日後から次々にそれに対する投書が載りました。賛成の人の論旨は「六年間もの長い間、心身とも健康に留意し続けたことは、本人と家族ともども並々ならぬ努力があればこそで、賞賛に値することである」というもの。

反対意見は「病弱児や不登校の子に對して配慮に欠ける」というような内容でした。そして投書の応戦はかなり続き、結局はどのように収束したのかは、はっきりしないまま終わったように思います。

私はその間、興味深く読んでいました。そもそも皆勤賞のもとになつてい

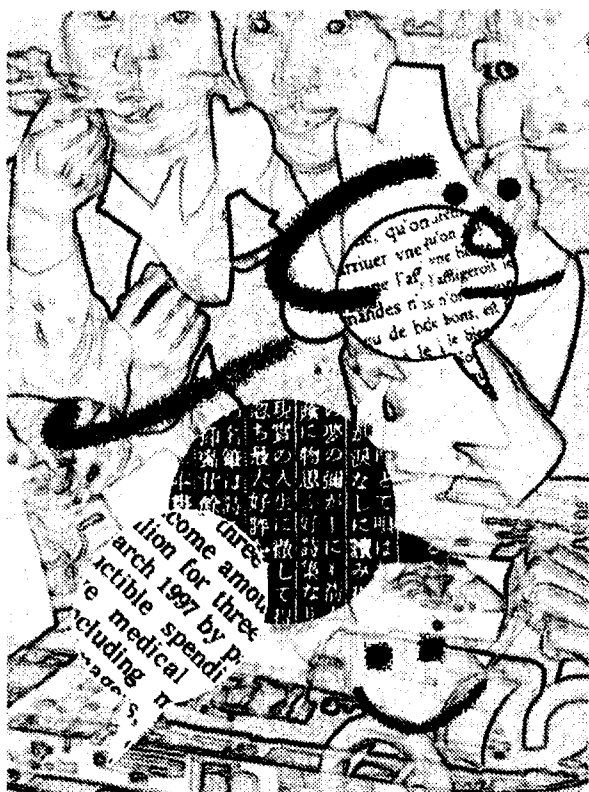
る考えは「克己心」「やり通すこと」の大切さだと思います。このことは確かに正論でしょう。

しかし現状はこれとはかなりかけ離れた場合もあるのです。我が子の同級生の例では、風邪で咳が出ていても休まない(他人への感染や自身の休養を考慮すべきだと思うのですが)。あげくには、風邪をひいても遅刻をして登校し、保健室で少し休んでから早退するという手法で、欠席扱いを免れる子もいたのです。極めつけは、いじめのボスが自分は大手を振って登校し、やられている子の方が耐えきれず休んでしまう。これらみんな皆勤賞を貰ったのです。皆勤賞を得る為には、手段を選ばずといったところです。

これでは皆勤賞の教育目的とは別なものになつてしまいます。本来の、はじめにこつこつと積み上げてきて皆勤賞を貰った子もいるでしょうが、前述の子と同席して表彰されるのではやはり腑に落ちません。しかしだからと言って、欠席ゼロの質の善し悪しを問

「人殺し」だと思う。少年と言ったって、十九歳と言えば、大人と同じではないか。確かに冷静な判断力に欠けていたり、人格がしっかりと形成されていないかもしれない。しかし、何も悪いことをしていない人を、傷つけ（この場合は殺し！）てはいけませんなんて、幼稚園生でも分かることではないか。そして普段は、中高生といっても、やっつてゐることは——援交だの麻薬だの、もつとも相手となる大人も非常に罪深いのだが——大人と一緒に、都合のいいときだけ、未成年だからなんて、虫が良すぎる。

今までの少年犯罪で、マスコミから保護し、少年Aとしたところで、そのお陰で、彼等がその後立派な人生を歩んでいるのだろうか。ほんの少しでも可能性があれば、それを大切にすることが本来の在り方かもしれないが、実際幼児じゃないのだから、ある程度の年齢になってからの犯罪者が、その後立派になるとは考えにくい（少し過激すぎるが）。



『新潮45』の編集長が「通り魔殺人の少年が、慰謝料を請求し、勝訴するとは……。一般の常識では考えられない判決だ」と言っているが、当然だろう。自分のことを棚にあげて、一体どういう神経をしているのだろう。呆れ

て開いた口がふさがらない。そしてそれを認めた裁判所も。

日本の裁判ってどうも犯罪者を庇い過ぎると思う。少なくともあの少年に、基本的人権も何もないと私は思っている。

最近あったこと

大阪市鶴見区 家守恭子

国民総背番号制とはどのように実現されるのか想像も付かないが、最近、



その前兆に近い体験をさせられた。同じ敷地内に住むシングルの娘が、以前不法駐車をしてレッカー車で移動されたことがある。その罰金一万八千円余りを支払わぬまま五年の年月が経っていた。その間、督促はあったらしいが、本人がアメリカ滞在や昨年暮れには二カ月も入院したりして取り紛

れていた。一度は親宛てに電話があったが、娘の借金に親は関係が無いと夫は突っぱねたことがあった。

それとは別に、親バカの私は贈与税の掛からぬ範囲で娘名義の郵便貯金をしている。連休明けにも五万円を入金に行く自動機が作動しない。窓口へ手渡して、時間が掛かりそうなので一旦帰宅した。窓口の局員も手に負えず本局へ連絡し、八方調べて三時間以上経っての返事では、一万八千二百五十円をT警察交通違反係が差押さえて徴収したとのこと。

印鑑、通帳、カードは私が持つており、娘も全く知らない預金である。

住所、氏名が同じなので娘の預金とみなされても仕方がないが、警察が娘名義のD銀行、S銀行、郵貯等洗いざらい個人の所有財産を知る権利を持つことに慄然とした。

「悪いことさえしなければそんな目に合わない」と「個人の秘守権利」は別だと思ふ。

もし国民総背番号制が施行されれ

ば、国民側の受益は考えられないが、司法、行政の運営上では多大の利便があるだろう。

中年主婦のケンケン

神奈川県平塚市 飯島まゆみ(44歳)

この半年来、私は右側の座骨神経痛に悩まされている。骨に異常はないそうだが、右のお尻から太腿の裏側、向こう脛の外側にかけて鈍い痛みが走る。エアロビクスで腹筋を利用しながら片足で立つ時は、右足ではしっかり立てても、左側ではバランスが崩れる。

両足をそれぞれ鍛えておくのにも、日頃の自覚が大切だったのね、やっぱり……。

これといった強い信念もないまま、

なし崩し的に専業主婦を続けてきたことを、私はつくづく後悔している。

結婚イコール永久就職とは、つゆ思っていなかった。ただ家庭と仕事の両立に自信がなく、夫が転勤族である事情も加わって、子育てが一段落するまでの腰掛け気分ですべて依存する。それさえも夫の稼ぎにすべて依存する「板子一枚」程度の保障があるだけ、と心の片隅で意識しながら。



だが末子の就学を目安に、「夫子の留守狙い」的就職活動案——その試行錯誤も含めて——は、結局見通しが甘かった。PTA役員と子供会世話役とで目先の忙しさに追われていた、次女が小学一年生の秋。夫の母が突然体調を崩した(末期ガンだった)ことを聞かされて、私が真っ先に思ったのは、「専業主婦のままでいて、しまった!」

当時の事情の一端は、前号の「子育てフォーラム」(七六ページ)で披露したが、ノイローゼ気味の義父からの逆身介護赴任——私が三人の子連れで夫の親と住む——の要請を、夫と二人して撤回させるだけでも一騒動だった。

それ以来、私はいつも疑問に感じている。いくら少子時代でも、「子育て後の長い人生」のほが「長い老親問題の始まり」にはならぬと断言できる者が、それほど多いのだろうか、と。

今年七十五歳の義父は、ゲートボールに老人会に妻の供養にと、忙しい毎日だが、

「長男夫婦と同居して、俺も安心して病気になるし、ご近所や親戚も納得するべ」

と言われると、かえって私は不安になる。勤め人だった者が自由業になると、スケジュールの空白が怖くなるそうだが、介護のための待機を一方的に期待されるのも、自身の老後設計が覚束なくて気が減入る。

実家の母から熱心に因果を含められたとはいえ、あの時、義理の父との同居の件を、

「お受けするのは私の貧乏。私の本心ではありません」（『ロミオとジュリエット』より）密売の毒薬の代金を前にした貧しい薬屋のように、私も経済的弱者としての負い目から、夫の長男意識に過剰反応する傾向がある。

でも、早々と諦めてばかりはいられない。この不況時、夫の板子一枚だけでは心細くなってきた。義父が気安く「うちのチョーナンヨメ」と言うのも、明治民法のイタコの口寄せじゃあるまいし、とにかく耳障りだ。

この重い腰に小さかなりと弾みをつけるために、本誌編集部にもお邪魔して、編集長の愛の鞭で、

「女性の人權を主張したかったら、主婦の座権に胡座をかいてちやダメなのよッ」

と、お尻ペンペンして頂こうか。それとも座骨神経を労わって、副編集長から「及び腰より粘り腰」の愛のマッサージなどして頂くのも悪くない？（これを「年増ザリングシステム」なんちゃって）私の貧乏には、経済的劣等感だけでなく、愛情飢餓感も影響しているようだから。

夫の末弟はずっと以前から親元近くに住み、その妻は子どももない専業主婦だったが、義母の発病早々、堂々たる「いち脱けた」宣言を実践遊ばした（ご実家の「娘可愛さ」に、夫の親族も遠慮がちだ）。

自己信頼の基盤には、「イヤなものはいや！」と開き直り、尻をまくれる潔さも必要なのだろうか。

（エ・ベティ・フジヤマ）

お友達に「わいふ」をおすすめください

新しい定期購読者をご紹介くださった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介くださるごとに誌代プラス送料とも一号延長。

「わいふ」年間分をプレゼントにお使いください

●結婚、赤ちゃん誕生のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。お申し込みいただければ、新読者に、贈り主のお名前とプレゼントのおしらせを同封の上、一年分、計六回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介の場合と同様に、お一人につき一号分延長させていただきます。

●また十冊以上ご購入くだされば割引がございます。

私も ひとこと

正しい日本語？

アメリカ・リトルロック市 伊藤孝子
アトラントでサザン日本学会があった。日本の出版界について発表した私は、日本にはこういう雑誌もあるよ、と、「わいふ」を持参、御披露した。アメリカ人、日本人、韓国人の学者達の反応は、「ほう、なかなかの内容だ」。で、一人質問した教授がいた。「わいふは外来語ですから、カタカナでワイフが正しいんじゃないですか？」と。私は答に困りましたよ。何故「わいふ」なんですか？

韓国への旅

愛知県春日井市 伊藤てる子
「国内の温泉なら簡単に行ける。やっぱり外国を体験、識見を高めようよっ」と、アメリカから一時帰国した娘が言う。ならばと五月末の四日間、親子三人韓国へ行った。日本語が堪能で美人のガイドの河さんは、金甫空港からホテルまで車の中で、「韓国は親をととても大切にする国ですよ。儒教の国ですから！」と話された。娘は、肝に命じたのか、旅行中ことのほかいたわってくれた。

旅と本

横浜市港北区 筑紫由布子
梅雨晴れの空を仰いで、旅をしたい、と思った。学生時代、文庫本と共に彼の地を訪れ、その感動を、もう一度実体験するといった旅である。郷里である福岡の水城址では、万葉集の防人の歌。大好きな京都嵐山の野宮神社では源氏物語。落柿舎では、芭蕉の嵯峨日記。木々のざわめき、子鳥のさえずり、いにしえ人もこの音々を聞いていたのだと思うと、えもいわれぬ気持ちになったものである。

スマッシュされて

川崎市中原区 島 初美
二七七号の「あなたへスマッシュ」のコーナーで、名指しで、私に感想が述べられているのを、発見したとき、ぶっつと来ました。ぶるぶるぶるのドキドキドキでした。ささやかな私の文ですが、読んでくれた人がいたという手ごたえを、しっかり感じてうれしかった。たとえ、批判だろうと、どんな送って下さい。それが書いた人への、エールになるんですから。

ヘルパー養成講座を主催して

草野ゆき
私の勤めている公民館で、二級のホームヘルパーになれる講座を開いた。定員の七倍の応募があった。人気の誘因は民間主催の講座に較べて格安（八分の一程度）の負担額。それもその筈、一人当り一万円の公金が注がれている。介護実習の準備にも大変な労力と時間が費やされた。なのに、なのに、平気で欠席する人、許せない。

何だか生きていることがおもしろい

新井純子

このごろ、週刊誌や新聞で読むような出来事に出会うものだなあ、と思う。

前の家が火事になった。駐車場に止めておいた私の車がこわれていた。その件で保険屋の対応に腹を立てけんかした。娘の友人のおかあさんが交通事故で四カ月入院している。女を四人も囲っているという男と酒を飲んで。ゴルフのスコアー、八十九を出した。生きてることはおもしろい。

し、知らなかった……

藤野 恵

二七八号の「スタッフから」で、田中編集長の趣味がピアノと知り、ひっくり返る程驚きました。楽器演奏ほど、モノになるまで時間がかかる勉強はないと、経験上実感しているからです。時間は作るものを見つけるものなのです。貴女はへたなピアノと謙遜していらしたけれど、そういう人に限ってプロ級のテクニックだったりするんですよ。負けた！

戦争

東京都世田谷区 太田啓子(40歳)

某局の、朝のテレビ小説。先週、一人息子に赤紙が来て、悲嘆にくれる旅館の夫婦の姿に、涙があふれた。思わず、母役の万田久子さんと自分を重ね合わせてしまった。中二の一人息子は、いつの間にか私よりずつと長身になり、夫に追いつく勢いである。よくぞここまで大きくなったと、感慨深い時もある。遠くに感じるが、実は、すぐそこにあるかもしれない戦争。銃後の母には決してなるまい。

集計結果が待ち遠しい

千葉県柏市 さいたまゆみ

この春から子供を入園させた友人は、「時間を持て余して困る」と言っており、もう一つパートの仕事を捜している。一方私ときたら、いつも時間に追われている。子供は十歳と五歳で彼女と同じ、しかも仕事をやめて家にいるというのに。この差はいったい何？ 時間管理の研究？を始めた時に、わいふの家事時間アンケートが来た。記入するにつれ、改善点が見えてくる。どうするかが課題だ。

ほつといてよ！

東京都葛飾区 長谷川知子(41歳)

原稿が続けてボツになること二回。快調だったはずのペンが、止まってしまい、書けない。自分自身をすべて否定された気分。落ちこんでいる……。そんな時タイミングよく「そういえば、この頃、ワイフ、ワイフって騒がないネ」と、夫から言われた。掲載されている時は、はしゃいで見せびらかす私に「フーン」のひと言のみ。ナニ、気にしてくれてたワケ!?

次女は大阪大好き

千葉県東葛飾郡 吉澤真里子(46歳)

今から二年二カ月前、短大を卒業し、やっと就職が決まった次女は大阪の会社へ就職した。甘えん坊で少しわがままだった次女との別れが辛く、しばらくの間、落ちこんだ、だめな母親だった私。しかし、大阪の町と大阪の人が大好きになった彼女は、大阪弁もすっかり身につく、幸福そうな様子。「大丈夫よ。心配しなくても。かわいがられる娘だから」。義母の言葉が、身に沁みる。

食器洗い

福岡市西区 加藤君子

夫の定年後、夕食後の片付けを一緒にするようになった。少し雑で洗いきれぬところがあるが、目をつむっている。だが数カ月して腰が痛いといひだした。なぜだろうと流しに立つ夫の姿を横から見ると、腰というかお腹が後にひけている。私はといえば流しのへりにお腹を押し付け、ひざをまげた姿勢で立つ。長年食器洗いをしていると自然に腰を痛めないスタイルが身に付いたみたいだ。

地域振興券

東京都目黒区 クワシイトモミ

私の住んでいる目黒区の地域振興券は「さんま券」と言います。町のあちこちにサンマのマークがあり可愛いですよ。うちの子二人なので四万円頂きましたが、はじめの一カ月で全部使っちゃいました。

レストランで初めて使う時、お店の人が「これが振興券なんですね！」と言われまして。使ったなせか割引券をくれる所が多く二重に得した気分ですね。

「わいふ」に参加してみて

熊本県八代郡 砂原富美子

投稿した文が没になったことを「わいふ」は本と一緒に一筆書いて送ってくれた。理由も電話で説明してくれるという。なんて親切な雑誌社だろう。ただただ感動。理由なんて聞かなくても解っているから。没になってもならなくても書きたいことを書く。このエネルギーはみんな同じだから。「わいふ」ってすごく身近かで本音でつきあえる投稿誌だね。これからもよろしく願います。

名前

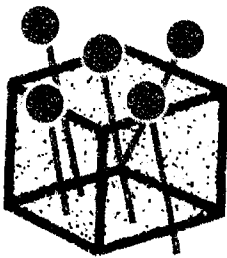
千葉県八代市 岩井由利子

私の名前は、以前から「百合子」や「小百合」と間違えられることがあったので、説明する時に、由来の由と利益の利と言ってきた。しかし、何か味けないので、数カ月前から「自由」と「勝利」の子として、ニューヨークの女神をイメージしたつもりだったけれど（体型もちよつと似ているので、やはり、ちよつと気恥ずかしくなって、今では、又、元に戻してしまっている。

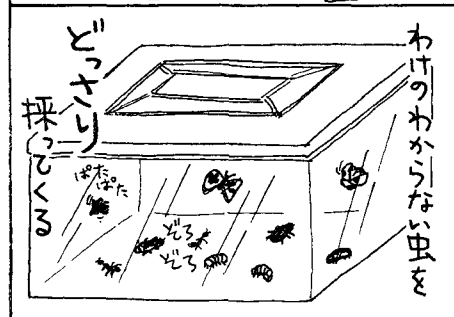
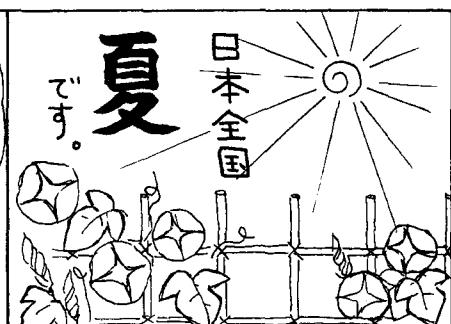
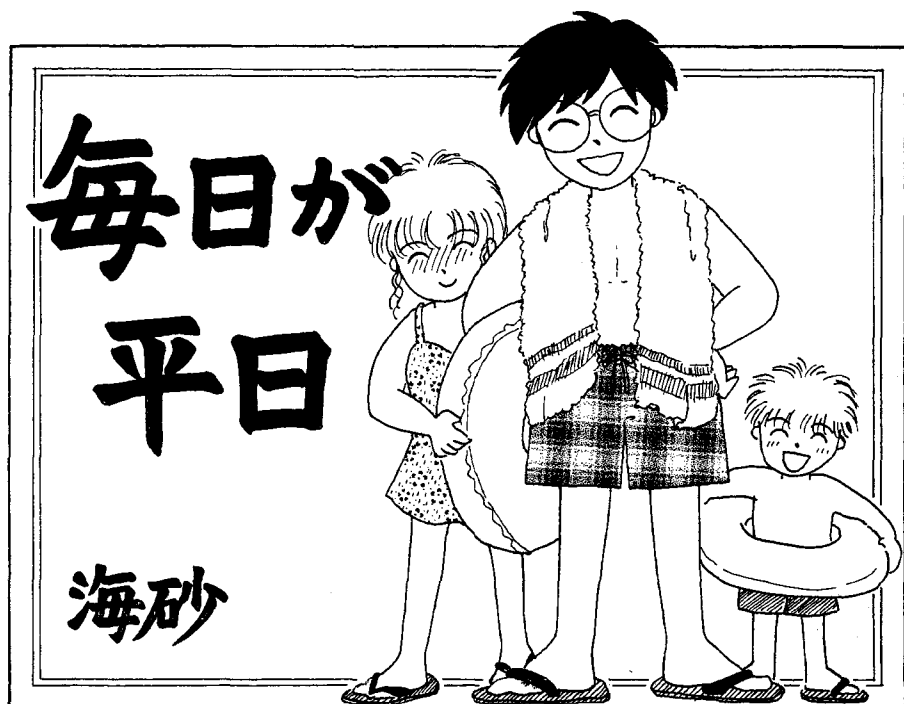
学童保育がほしいのに……

新潟県上越市 小竹利恵(30歳)

フルタイムで働いている私の子供達は、朝早くから夜遅くまで保育園で過ごしています。今の私としては、とても安心して仕事ができますが、学童保育の無い小学校区にいて上の子が小学生になった時、特に夏休みが不安で仕方ありません。市へ要請してみました。が、「予算がないのでできません」と突き放され、どうしたら良いか困っています。ご自分の経験など良いアドバイスをお願いします。



え・長谷川てるみ





情報 コーナー

城下るり子展 「発光母体」

アクリルを使ったインスタレーションの個展です。

九月二日から二十五日まで、港区虎の門二一十一

ギャラリー日鉦

〇三―五五七三―六六四四

日・祭日休み。十時半より六時まで。入場無料。

昨年スウェーデンで発表した「日本の白足袋」は、ひたすら待つ女性の強さ・美しさを表現したが、今回はさらに、自ら光り輝くことのストレートな強さ・美しさの背後にある脆さ・あ

やうさ・はかなさを現したい。

展覧会に使用する素材を御提供下さい。昔、着物の裏地として使われた赤い布（絹等）を、端布で結構です。わいふ編集部までお送り下さい。

▼問い合わせ 城下るり子

新宿区市谷加賀町二一五―一

Tel 〇三―五五二二八―二〇七三

(アトリエ)

「おしゃれな秋」

勇気・冒険・発見の旅」

田中編集長トーク講座

「書きたいあなたから

書けるあなたへ」他

第二十六回渋谷・手づくり

フェア、国際高齢者年記念フェ

スタが、九月二日（木）―八日

（水）に渋谷東急東横店の八階

で開かれます。期間中「わいふ

コーナー」では、出版書籍やパッ

クナンバーも販売予定です。

☆ファッションショー（無料）

九月二日（木）午後二時―二

時半。ハンディ&シニア企画。

中高年の着やすい洋服や着物

からのリファッションの発表。

「わいふ」勤務の菊池裕子が企

画・演出いたします。ぜひど

ぞ！

☆田中編集長トーク講座（無料）

九月三日（金）午後二時と三

時半の二回。いずれも三十分間。

手紙や自分史、PTA広報で



第25回手づくりフェア「芳村真理のおしゃれトーク」から

のポイントを軽いタッチでトク。フレンドリーにお話するチャンスです。お待ちしております。

☆会場ではおしゃれな秋をテーマに、ウェア、アクセサリー、インテリア小物などオリジナルな手づくり品を展示販売いたします。ツールペイントやフラワーアレンジなどのワークショップや美容相談、おつきみの宴のお料理講習などもお楽しみいただけます。

在宅フリーをめざす人の本

『オフィスはわが家！』

仕事も家庭も

フリーで両立

「子どもがいるから」

「この年じゃね」

「これといって才能ないし」

そんないいわけで働きたい気持ちを抑えていませんか？

悩めるあなたの背中をグツと

押してくれるのは、これ！

『オフィスはわが家！』

仕事も家庭もフリーで両立

在宅フリーとして、いちから

仕事を始めるための基本を、準備アイテムから必要書類、税の

知識や子どもの預け方まで、働きたい女性の立場でいねいに

解説。

営業のアプローチ方法など、先輩フリーの体験例も多数紹介。

現在、フリーの在宅ワーカー

として活躍する女性たちのネットワーク「WANA（ワナ）」からの頼れる一冊です。

一冊分二四〇円（定価＋送料二四〇円）を郵便振込でお支払いください。確認後送付させていただきますので、ご住所と電話番号をお忘れなく。

●振込先・郵便局

Na0070-6-96253

加入者名 WANA

▼お問い合わせ

Tel〇六―六七六四―五〇〇五

ワナ事務局 三浦

で、宣伝させていただきます。

『足と靴のすてきな関係―女医さんからのアドバイス』という

タイトルです。近年の子供たちの足の弱さは、ただ立っている

ことすら足が痛んでできない、というほどです。わいふ会員数

千の方々に、ぜひ読んでいただきたい。表紙はあの！安野光

雅画伯から贈られた靴屋さんの絵。乞うご期待！

▼九月刊行予定・定価未定

出版社・リバティ書房

(Tel〇五―二二―三九八六)

愛知県春日井市 小栗明子

京、私は川崎にあった東芝に入社しました。極度の物資不足の中、少女の身で家族と別れ、厳しい寮生活をしましたが、そこでも心だけは豊かに、導いてくださった多くの方々との出会いに恵まれました。

戦後すぐ、封建的農家に嫁ぎ、苦しい嫁時代を過ごした時代も姉妹にも勝る友、友、友。

心の支えとした短歌の師友、本

当に出会いに恵まれた幸せ者で

す。わいふ会員の皆様に、一農

婦の奮闘の歴史を読んでいただ

ければ幸いに存じます。

宮城県桃生郡河南町和瀬

字前田一六―三 笹原かつ子

申込は切手五〇〇円同封で

「わいふ」編集部まで



健康双書

「気功」で治す子どもの病氣

親子で健康・智力も向上

于 永昌 著



于 永昌著
農山漁村文化協会
本体1524円＋税

東京都町田市

宮前 和

人体は何十億という「細胞」でできている、と今まで私は単純に考えていた。

確かにそうに違いないのだが、本書によれば、じつは「気」でできている、という。

「宇宙におけるあらゆる物・事・現象は気から成り立」ち、「人間は大自然の一要素にすぎないので、人の心も体も気から成るものであるのは

いうまでも」ない、と。

つまり「気」には「微粒子としての物質の側面と、万物の生成変化を引き起こすエネルギーの側面」の両方の性質があるのだそう。

しかし、つねれば痛いこの身体、および目の前のワープロが「気」からできているとは、にわかには信じがたい。

アメリカの人気TVドラマ「スタートレック」で、人体や物が瞬間的にテレポーテーションされるのはこの理論で納得できるけど。

さて、個人的な疑問見解はさておき、本書には、西洋医学一辺倒に慣らされた私たちの思考回路を断ち切り、摩訶不思議な「気」の流れ、心・感情・精神と身体の関係が具体例に沿って説明してある。なかでもお薦めは、子どもの病気を治す按摩気

功。

乳幼児期は、発熱、風邪、夜泣きなどですぐに体調を崩す。そんなときに役立つのがこの一冊。医者にかかるまでもない場合、症状に応じて対処法が書いてあり育児書的に利用できる。

気功とあわせて食べ物についても併記してある。

わが子に関係のある項だけを拾い読みしてもいい。

子どもにとって母親（に限らないが）の手が自分のことを気づかい慈しんで「気」で手当てをしてくれる。それは心が満たされる嬉しい体験に違いない。

愛と癒しは「気」から、まさに「病は「気」から」を地でいく理論である。

『母と子』8月号 定価500円/送料68円

〈今月の視点〉 少年法改定の今後は？

治安優先の厳罰化は少年不信が背景 児玉勇二（弁護士）

—総合的な子どもの権利実現運動に期待—

——保存用『母と子』臨時増刊シリーズ 定価1050円/送料78円——

◇当世 学校事情（8月臨時増刊号）

—いち中学教員の意見— 坂本 安之 著

◇学校自治を豊かに

—所沢高校の事例を通して— 子どもの人権と体罰研究会 編

◇学校化過剰の時代

—登校拒否いじめに悩む親への手紙— 山岸 秀 著

203-0054 東久留米市中央町5-4-8 電話0424-74-9125 母と子社

女たちの情報紙
ふえみん
f e m ♀ n
婦 人 民 主 新 聞
WOMEN'S DEMOCRATIC JOURNAL

からだのしんばい
はたらくもんだい
こころのえいよう
さべつへのいかり
アジアのうづき
あんぜんてなに？
きのうまでのみち
あしたへのみち
わたしのいけん
あなたのいけん
おんなという
ちから。

創立以来、無党派の立場で50年。
女の視点で創る。もうひとつのメディア。

東京都渋谷区神宮前3-31-18-301 大阪府堺 大阪市北区中崎西3-1-5
TEL 03(3402)3244, 3238 TEL 06(371)2429
FAX 03(3401)3453

見本紙 お届けします。お問い合わせ下さい。

世の中に？を
もち始めた
男にうに。

草の根は
伸びつづける。

新聞代
(送料込)
1ヶ月 750円
3ヶ月 2,250円
6ヶ月 4,500円
1年 9,000円

毎月・5日・15日・25日発行

ふえみん 婦人民主新聞
婦人民主クラブ責任編集

私もひとこと
わいふネット 質問
わいふネット 答え

(○で囲んでください)

タイトル・住所・氏名

本文

私もひとことは、投稿してみたいけど、長いのはチョットという方のためのコーナーです。わいふネットは相談や質問、掲載された質問への答えをお寄せいただくべー

ジです。あなたの声をお待ちしています。
投稿には、右の原稿用紙をご利用くださ
い。

●タイトル、住所 氏名は一行めに。もし、

二〇字を超える場合には横目にこたわらず、小さい字で、住所、氏名は他のコラムを参照してください。

●二行めから本文、全体で九行一八〇字。

[illegible]

スタッフから

カ

ヌーで遊ぶのが忙しく、庭の草取りを長い間して

いなかった。梅雨の合間を見て久しぶりに草を取ると、犬に荒らされ、すっかり消えていた芝生が所々に芽吹いている。ラクも幼い頃のように、庭中走り回らなくなったので、残っていた茅から芽吹いたようだ。種から育てた芝生だったので、芽吹きを見たときは大発見をした気分であれしくなった。(水落)

知

人に本を返す時、お札に花を持っていくことにした。お年寄りの一人暮らしだから華やかなのがいいだろうと店先で即決。その名はプリムラ・オブコニカ。今を盛りと咲き誇っている。私はきつと喜んでいただけるとニンマリして、お届けした。

後で花のアレルギード大変

フ

ユーネラルってご存知ですか。葬儀という意味で

だったとか。陳謝のみ。(山本)最近「自分らしいお葬式」とか「音楽葬」「生前予約」など話題になっていきます。お葬式のことをエンディングセレモニーと言い、最後の死葬束はエンディングファッションとか。自分の葬式を考えることは人生を見直すチャンス、私はどんな服装にしようかな……。 (菊池)

前

号で、自分史『春のかたみ』を出版された御田慶

子さんをご紹介するなかで、太宰府天満宮宮司の家柄と書きましたが、正しくは、官幣大社香椎宮宮司の家系、代々太宰府天満宮に奉仕される家柄です。

御田さんからご指摘をいただきました。不十分な説明で申し訳ありませんでした。

おわびと訂正をさせていただきます。(望月)

コ

ソボ紛争がやつと落ち着きはじめてが、人種・言語・宗教などの違いで、長い年

月を争い続けるなんて……。私にはいま一つ理解できません。十年位前に、スイスで出会った郵便配達をしながら大学へ通っているというユーゴの青年が「日本か。僕には遠い国だなあ」と言っていた。あの優しい目をした青年は今どうしているのだろう。(成井)

な

にもしないでボンヤリとテレビばかりを見て

いると、のんきなようでも年をとって十年早くボケますよ。風邪をひかずによく食べて足腰きたえて早寝して、頭使ってオシャレして根性もたなきやボケますよ——これはボケない小唄だそうですね。まだ関係ないと強がり言っても、ボケる材料は私の中に芽生え育っているかも。(野村)

岩

波新書『アルツハイマー病』というのを読んだら、やはりアルミのお鍋は発病

の原因として疑われている、とあった。十数年前かに、アメリカではその説が出て、皆がアルミ鍋を捨てる騒ぎになった。

しかしその後、どうもそうではないらしい、ということになっていったのだが。本当かしらと思いつつ、やはりステンレスに買い替えた。(和田)

生

まれつきのすごい寝坊で、「寝坊の奥さんだと男は出世する」なんて漱石の妻

もどきにうそぶいていた私が、何と五時半なんか目ざさめるという体たらく！ これこそ本物の老化現象と、できるだけおそく寝るように心がけています。

それでもやはり睡眠時間は長い。一日に三時間しか寝ないで平気な人は、どんなに人生充実していることでしょうね。(田中)

「ファミ・ポリテイク」より

●日本という国は、社会の隅々にまで小さな暴力がはびこっているのだ、ということをこの冊子をやっているとつくづく感じさせられます。

この前の号にも書きましたが、弱い者というとむしりにくる小さな暴力。それと平然と手を組んでいる体制側の議員。暴力団自身が立候補して当選したりしているのですから、話になりませんが、こうした体質の横行するなかでは当然のことでしょう。

●ある県でも、組同士の抗争から夫の身代わりに小指をつめたという女性が、これまた夫の身代わり（夫は服役中なので）に県議に立ってみごと当選。気が遠くなりそうな現実ですが、その女性でさえも、子どもの問題、女の問題には、ふつうの男議員よりはるかに深い理解を示してくれるとか。日本の男って何なんでしょうね！

NMS研究会より

●最近、声でもないほどの衝撃を受けるケースに出会いました。

赤ちゃんのときは言いなり育児。泣けば抱き上げ、時間構わずおっぱいをやり、添い寝におんぶ、そして一歳半ぐらいから手に負えなくなった。

●それでもふつうに育つ子がほとんどなのですが、子どもの性質と親との相性によっては悲劇的な結果を招きます。

わがままで暴力的な、一刻も母親を休ませてくれない子ども。生まれつき、育てにくい子はいるものですが、でもやり方を間違えなければ、わがまま放題で暴力的な幼児が育つはずはありません。

●子どもを見捨てる母親への非難の声がありますが、おそらくそれは育て方を間違えて、母親がまんじきれないほどの悪魔的な子どもになってしまった子のケースだと思っています。

生まれたときは可愛い赤ちゃんであつた子がそうなってしまう——世の中にこんな悲劇がまたとあるでしょうか。

老人ホーム情報センターに
ご相談を！

平成十二年四月からスタートする介護保険法はかなりの問題を含んでいる。特別養護老人ホームの入居者で低所得の人は毎月の費用負担が増えそう。現在は所得によって毎月の費用が決められているから、所得の低い人はそれなりに負担は少ない。

しかし介護保険法が施行されると、保険料の支払い、毎月の食費、介護費の一割負担などが義務づけられる。年金が月に一万五千円しかない人もおり、費用負担の出来ない人がでくるよう。それに引きかえ有料老人ホームの入居者は、現在高額の介護費を支払っているが、保険から介護費が支給されるようになると、費用負担は少なくなる。いざとなるとたくさんの矛盾が噴き出しそうである。

●無料電話相談・木曜十一時～十七時
☎〇三―三三三三―二八五四

募集します

特集テーマ

二八一号（十二月一日発送分）の特集のテーマは、「思い出の地・再訪」です。

十年前、二十年前、いや三十年以上前に訪れた地、または住んでいた土地をふたたび訪れると、——そこにあな

座談会 私も言いたい

二八一号のテーマは、「方言自慢」です。

方言を恥じる人がいるかと思えば、これこそわが「個性」とばかりに堂々と振り回す人も。とくに大阪の人にはそれが多いようです。同じことをいっ

私の意見・あなたの意見

二八〇号のテーマは、「省エネ やってみたらば」です。

一年ほど前、十文字圭子さんが、屋根に取り付けた太陽熱温水器のことを書いてくださいましたが、「省エネ」とかつこよくいっても、実践するとな

たを待っていたものは？

浦島太郎の物語ではありませんが、あまりの変わりよう、逆に変わらなすぎするようにただ茫然とする。そしてそのとき、私達は何を感じ、何を学ぶのか……。いささかセンチメンタルなこのテーマは、三十代前半の若い方に

ても東京弁だとカドが立つのに、大阪弁だとすんなり受け取られたりして、トクですねえ。

あなたのお郷里（くに）の方言と、それをどんなふうに使いなしていらつしやるか、方言でソシしたこと、トクしたことなどを語っていただきたい

るとなかなかどうして、いろいろなところできつまずいてしまいます。

あなたはどんな省エネを心がけていらつしやいますか。そもそも省エネについてどう考えていらつしやいますか。（アメリカ人はほとんど無関心です）

はまだ無理かな、いや三十年生きていれば大丈夫か、と思いながら設定しました。

字数二千から四千ぐらいまで。
締切り 十月十日

と思います。編集部は江戸っ子が多いのですが、江戸の方言もあるので。

日時 九月六日 二時から
ところ 「わいふ」分室

申し込み期限 八月二十五日までに
お電話で。〇三—三三六〇—四七七—

なさった方は効果のほどはいかがでしたか？

具体的におもしろく書いてください。

字数・千字から二千まで。
締切り 八月二十五日必着。

きまり

定期購読を申し込まれている方はどなたも投稿できます。
投稿の前に以下を必ずお読みください。

◆グラフィア「私の……」

写真と文で登場してみませんか。ご希望の方は、編集部へ電話でお申し込みを。詳しく説明します。

◆特集

毎回テーマを設定しています。一四九ページをご覧ください。

一六〇〇字のコラム

(どのコラムも字数は目安で、多少長くても内容がよければ掲載します)

◆エッセイスト・クラブ

キマった文章、豊かな内容の随筆をお送りください。

◆ズバリ一言

オピニオン、評論のページ。あなたの独自の考えを。

◆家族のスケッチ

同居、別居を問わず、あなたの家族のことをお書きください。

◆子育てフォーラム

おさない子、思春期の子。どんなときも親にとって子どもの存在は気になるもの。ありのままの関係を描いてみませんか。

◆ワーキングライフ

あなたは、どんな働き方をしていますか。さまざまな仕事の喜びや苦勞話を。

◆今これに夢中

人生八十年時代。趣味その他、仕事以外に生きがいを持つ方も多いはず。あなたは何に夢中ですか。

◆フリートーク

どんなテーマでもどうぞ。どのコラムにも当てはまらないテーマを。自由なコーナー。

八〇〇字のコラム

◆あなたへスマッシュ

本誌の投稿や記事についての感想、意見を載せます。何号のどの投稿に対するものかを明記して。

◆ことばでハッピー

ことばの使い方はとても難しいですね。時には人間関係をこわしたり。でも、発想を変えて工夫することで、お互いの関係をよくすることも可能です。

失敗談も含めて面白い話題をどうぞ。

◆パソコンワールド

急速に普及し始めたパソコン。楽しんでい

る人、振り回されている人、体験談を。

◆おすすめの一冊

書評のコラム。どんなジャンルのものでも結構です。お読みになった本について感想を含めて、ご紹介ください。

四〇〇字のコラム

◆笑える！

嫌な話題の多い世の中。思わず笑ってしまう楽しい話を。

◆私の意見・あなたの意見

賛成か、反対か一四九ページにテーマを載せています。皆さんの素直な意見を求めます。

その他

◆私もひとこと(一四六ページ参照)

どんなことでも気軽にお書きください。

◆わいふネット(一四六ページ参照)

教えて欲しい、聞きたい！ それに対するお答えも。読者参加のQ&A。

◆情報コーナー

お知らせ、募集など。要点を漏れなく整理してお寄せください。(一四字二〇行にまとめて)

投稿の

◆特別寄稿

字数自由。どのようなジャンルのものでも結構。本誌に適合と思われるものは掲載します。出版社に紹介することもあります。(ただし詩・短歌・俳句を除く)

◆コミック、イラスト、写真

一度作品をお送りください。本誌に合うものであれば依頼したいので。

注意

●原稿はお返しできません。

●投稿は一人一篇。ただし、「あなたへスマッシュ」「おすすめの一冊」「私とひとこと」「わいふネット」「情報コーナー」とはだぶっても可。

●締め切りは原則として偶数月の二十五日。郵送で当日必着。(読みにくいので、ファクスではお送りにならないようお願いします)

●他誌との二重投稿はお断りします。

●写真や、イラストを用意できる方は原稿とあわせてお送りください。

●誌上での匿名、ペンネーム使用可。ただし

いくつものペンネームを使い分けるのはご遠慮ください。

●掲載を希望しないお便りは「私信」と断り書きを。

●投稿は多少添削することがあります。

●最初に次のようにお書きください

原稿用紙は必ず開いたまま右上1カ所を留める

ペンネーム・匿名希望の方は明記	
コラム名	ペンネーム・匿名
住所	年齢
会員番号	
本名	
電話番号	
タイトル	
本文……	

① ページを明記 (場所はどこでもよい)

匿名の方は住所を載せるかどうかを明記

●四〇〇字詰原稿用紙に縦書き。ワープロ打ちは二〇字×二〇行を一枚に、行間一行おきにあげる。字間はとくにあげないで。

へあて先 〒162-0815 新宿区筑土八幡町一三二二〇一

わいふ編集部

投稿のきまり

編一集一だ一よ一り

◆また暑い八月を迎えて、五十余年前のあの戦争を知る人たちには、薄らいだとはいえないがしかの感慨があることでしょう。

先号では「君が代・日の丸論争について」意見を寄せいただきましたが、今号にその反響が全くなかったのは残念でした。

山内志保さんの「最後の空中戦」(四十ページ)は、悲しい戦中の青春を描いた力作ですが、若い方々はどのようにお感じになるでしょうか。

因みにイラストの鹿目佳代子さんは、この空中戦を目撃した女学生の一人でした。君が代・日の丸に国歌・国旗として全く

購読申込は……

ハガキか電話、ファクスでどうぞ。すぐに、本に郵便振替用紙を添えてお送りします。折り返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様に。限られた書店にしかおいてありませんので、直接お申し込みください。

購読中止は……

必ずお申し出ください。誌代が切れる際には、郵便振替用紙を同封していますが、送金をお忘れになる方が。そのため、誌代が切れても、引き続き送本していただきます。ご連絡がないと、お送りしてしまいますので、ぜひハガキかお電話を。

抵抗を感じない世代が増え、かつての革命中国も法村香音子さんが驚くような(八十ページ)ありきまで、確実に時代は移りつつあります。二十一世紀に希望と期待を寄せたいものですが、さあどうなることか。

◆今号へのご投稿は九十三通でした。近ごろ投稿数のわりにボツが少ないと感じます。

これは短い原稿が増えたためらしいのです。ページ数は一定しているから、載るものが増えるはずですよ。ボツが減るのは結構ですが、短いなら載るだろうと、傾向と対策を皆が考えすぎるのは問題です。長い力作もお待ちしていますのでよろしく。

◆一旦投稿して、あとから訂正したものを「さしかえて下さい」と寄越される方がし

ばしばあります。結局こちらは二つの原稿を読んで、どちらがよいか決定しなければならず、田中に言わせれば「試験で答案を二つ出し、どちらか点数の高い方を選んでくださいというふうなもの」なのです。

一通しか投稿しない方に対して不公平になるのは確かですから、今後さしかえはお受けいたしません。十分ご注意ください。

◆また字句の訂正を送って来られる方もありますが、重大な誤り以外はこれもご容赦願います。

◆今号に出るはずの座談会「私の出会ったいやな教師」は、出席希望者がお一人しかなく、残念ながら対談に変更になりました。◆それでは皆さんよい夏休みを。

わいふ◆279 (隔月刊)

- 発行日 1999年9月1日
- 編集 わいふ編集部
- 定価 620円 (本体590円)
- 年間購読料 4224円 (送料共)
- 印刷 平河工業社
- 発行所 樹グループわいふ
〒162-0815
東京都新宿区筑土八幡町
1-3-201
電話(03)3260-4771
FAX (03)3260-4773
- 郵便振替 00150-3-110430
加入者名 わいふ編集部

今どき子育て事情

丹羽洋子 著

● 育児と子育ての境界線はどこにあるのか



1. 育児と子育ての境界線はどこにあるのか
2. 育児と子育ての境界線はどこにあるのか
3. 育児と子育ての境界線はどこにあるのか
4. 育児と子育ての境界線はどこにあるのか
5. 育児と子育ての境界線はどこにあるのか

● 二〇〇〇年の母親インタビューから
育児文化研究所が電話インタビューを通して得た子育て中の母親の声をまとめた。少子化、育児不安という言葉にゆれた90年代の親子の姿が浮かぶ。 二二〇〇円

—— プロローグ 1章「モノ文化」の中の子育て 2章「核家族」「少子」の子育て 3章「子育て生活」と「育児のスタイル」 4章「情報の時代」の子育て 5章「女性の社会進出」と子育て 6章「新しい家族像」模索と子育て エピローグ

わが子をいじめてしまう母親たち

武田京子 著 ● 育児ストレスからキレるとき 年々、増え続けている母親による「わが子いじめ」についての実情と、原因、防ぎ方を豊富な事例を通して考える。 一八〇〇円

過食・拒食の家族療法

福田俊一／増井昌美 著 人生の節目にある過食症・拒食症の落とし穴を、本人と家族が乗り越え、新しい毎日を歩き出すために、本人と家族がもつ力を信じる家族療法を紹介。 二〇〇〇円

アダルトチルドレンの心理

ジョン・リンダ・フリエル 著 杉村省吾／杉村栄子 訳 ● うまくいかない家庭の秘密 嗜癖、うつ病、対人関係障害、自暴自棄を引き起こす家族関係を理解し、脱出する処方箋。 二五〇〇円

ヴィクトリア時代の女性と教育

ジュン・バーヴィス 著 香川せつ子 訳 ● 社会階級とジェンダー階層化されていたヴィクトリア時代の女性はどう育てられ何を教えられてきたのかをフェミニストの視点から解く。 二六〇〇円

児童相談所で出会った子どもたち



山縣文治 監修／児童相談所を考える会 著 子どもの問題・家庭の事情がもたらされる児童相談所はいま、大きく変わろうとしている。これからの期待とその活動の実際を、20のケースで紹介する。 二二〇〇円

鉄腕アトムと晋平君

渡部信一 著

● ロボット研究の進化と自閉症児の発達 「人間らしく」育つとはどういうことか、「人間らしい」ロボットとは何か。これからの障害児教育を考える確かな一歩。 一九〇〇円

発達 ⑦

新連載 ● 写真を使って絵本を作ろう講座
写真を切り抜いて貼る簡単なカラージュ手法で、子どもの夢が絵本になる。リアリティあるアイデアを紹介。

発達 ⑧

特集 ● 自閉症はいま

自閉症とは何であるのか。医学・心理学・教育学などの分野から改めて「自閉症」児の今日の姿をとらえていく。

ジェンダーで社会政策をひらく

佛教大学総合研究所 ● 「男女共同参画」時代の社会政策 ジェンダーの視点から、労働・福祉・家族の各領域を分析する有効性を説き、21世紀の社会政策を展望。 一八〇〇円



ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1番地 宅配可・価格は税別
TEL075-581-0296 FAX075-581-0589 <http://www.minervashobo.co.jp/>

農文協

〒107-8668 ☎03(3585)1141
東京都港区赤坂7-6-1
【税込定価】
<http://www.ruralnet.or.jp/>



ヒント②
ミキサーでジュース状に変える

▶えた豆の皮を上手に活かす



全3巻
◆VHS・カラー *各10,500円・全3巻揃い31,500円
◆指導協力 寄本 勝美 岡田 大書院 (第1巻) ほか 小学生から台所のゴミを出発点に環境にやさしいリサイクルやムタなく活かし切る料理の工夫、生ゴミ堆肥化まで、すぐに始められる取り組みを紹介します。

台所から守る環境シリーズ



●ムタなく活かし切るリサイクルの工夫の数々ビデオ!

アトピー性皮膚炎食と薬でスキンケア
田中貴子著 スキンケアの基礎をいかに解説からたの中がきられいに肌を強くアレルギーを食生活の改善で解決 *1,000円
医食同源の最新科学 食べものがからだを守る
飯野久栄・堀井正治編 食品の生理的機能性の研究の成果と医食同源の医療の動向を一般向きに集大成 *1,500円
あなたも化学物質過敏症?
石川哲・宮田幹夫著 身近にあらわれる微量の化学物質や電磁波が慢性的な不健康状態の原因になるその仕組みと回復法を解説 *1,330円

③ 家庭でできる生ごみリサイクル (24分)
自然循環と自然発酵を生ごみ堆肥にする堆肥づくり。他米ヌカを使って悪臭防止にもなる堆肥づくり。

② エコクッキングからはじめよう (26分)
生ゴミ減らしになり、安くすむ生活スタイルへの簡単なできる工夫の数々。循環社会を提示。

① 追跡・台所ごみ (25分)
どこが問題か (25分)
ゴミの増加・処分場不足・環境汚染・現状を整理して、減量やリサイクルの方法を提示。

増刊 現代農業
年4回発行、900円 (¥120円)
年間購読料 3600円 (¥420)

自給ルネッサンス
21世紀は自給と相互扶助の社会化の時代
自然と人間が共生する
「森の民の暮らし」
自然文化と、自給
自発・相互扶助の森
らしのネットワーク
「江戸文化」その21世紀に引き継ぐ!
「カネの時代」から人の生き方・コミュニティの時代の展望を拓く!

帰農シリーズ
定年帰農
6万人の人生一転作
田舎住宅
建てる側の住み方
田舎就職
「これぞ田舎の暮らし」

シリーズ絵本
◆全20巻勢揃い!

そだててあそぼう
どこでも作れる野菜、穀物、果物から、カイロやワトリの育て方、観察のしかたまでを解説し「総合的な学習」に「生きる力の育成」に「最適な教材」として大人気です!
① トマトの絵本 ⑥ イネの絵本 ⑪ キュウリの絵本 ⑱ ママワリの絵本
② ナスの絵本 ⑦ ムギの絵本 ⑫ カボチャの絵本 ⑲ ケナフの絵本
③ サツマイモの絵本 ⑧ リンドウの絵本 ⑬ メロンの絵本 ⑳ カイコの絵本
④ ジャガイモの絵本 ⑨ タイスの絵本 ⑭ イチゴの絵本 ㉑ ラッパセイの絵本
⑤ トウモロコシの絵本 ⑩ フタの絵本 ⑯ ラッパセイの絵本 ㉒ ワトリの絵本
*A判各36頁 *4色+2色刷・ルビ付・小学校低学年 *各1,800円

そだててあそぼうシリーズ⑩



ケナフの絵本
千葉浩三・編 / 上野直大・絵
ケナフは今や木材パルプに替わる非木材紙原料のホープ。
成長が早く、二酸化炭素の吸収量が樹木の7〜8倍で、森林資源の保全・温暖化防止効果が期待されている。そんな爆発的な話題のケナフの育てかたからタネの取り方、本格紙すき、炭焼き、縄ない、果つばのふりかけ(栄養価はモロヘイヤ並み)まで、やりかたしかたを一挙公開。タネの入手先リストも。



◎森を救い地球温暖化防止に役立てよう!